

明蔣應鑄畫『山海經』

一 明刊本と和刻本一

枋尾 武

はじめに

『山海經』は中國古代の山河の地理と神話と傳説の書である。今傳えられている本は十八卷と山河及び動植物の繪圖を附したものである。今は繪圖を附さない本もあるが、古くは繪圖と經が共に存在していらしい。今回影印する『山海經』の明楊慎序に「九鼎之圖其傳固出于終古孔甲之流也。曰山海圖其文則謂之山海經。至秦而九鼎亡。獨圖與經存。晉陶潛詩流觀山海圖。阮氏七錄有張僧繇山海圖。可證已。今則經存而圖亡。後人因其義例而推廣之。益以秦漢魏郡縣地名。故讀者疑信相半。信者直以爲禹益所著。既述其元而疑者遂斥爲後人僞作詭譎。抑亦輕矣。漢劉歆七略所上其文古矣。晉郭璞注釋所序其說奇矣。此書之傳。二子之功。この所説にしがえは圖は早く失せ今の圖は本文を勘案して新しく作圖したと考えられる。南朝梁吳の張僧繇の『山海圖』や宋の舒雅の『山海經圖』（宋刊本）も見られない。今萬曆に繪圖本が集中しているのも、古のものではなく後世經の文を勘案して作圖されたものであろう。

『山海經』の現行本十八卷の内容は、一南山經、二西山經、三北山經、四東山經、五中山經の五經を五藏山經と篇と稱し、『山海經』の本體をなすものである。今回の影印部分はこの五卷である。十八卷の相半ばである。六卷以降は外國を中心とするが、前五卷と一部重複する所がある。六、海外南經、七、海外西經、八、海外北經、九、海外東經、十、海內南經、十一、海內西經。

十二海内北經。十三海内東經。十四大荒東經。十五大荒南經。十六大荒西經。十七大荒北經。十八海内經の十三經であり禹貢の外の地とする。

帶圖本『山海經』について

帶圖本(繪入本)は明代に始まる。ただし古圖の消失して以後の現行本に限ってのことである。次に『山海經圖』についての簡略な書誌を記す。日本において描かれた繪圖は中國の後に置く。

○『史記』大宛列傳「太史公曰、禹本紀言、河出崑崙(中略)至禹本紀、山海經所有怪物、余不敢言之也」と述べている。現行の『山海經』とは全く同じものか解らぬが、繪圖の存在が連想される。

○『山海經傳』十八卷 晉郭璞撰 宋淳熙七年(一一八〇)池陽郡齋尤表刻本。北京圖書館

藏本影印 中華書局 一九八三年。郭璞の序及び劉秀(劉歆)の斂録に當時の『山

海經』觀が讀みとれる。前野直彬『山海經』(全釋漢文大系三十三集英社)参照。

○邊景昭『百獸圖』明景泰元年(一四四九)卷子本 荒俣宏『怪物志』ビブログロート

一九九一、四二〇。『アラマツ圖像館』「怪物」小學館文庫一九九九、六一。この『百獸圖』の

全貌を知らぬが、『山海經圖』研究に貴重な存在。全卷の公刊と書誌解題が期待

される。

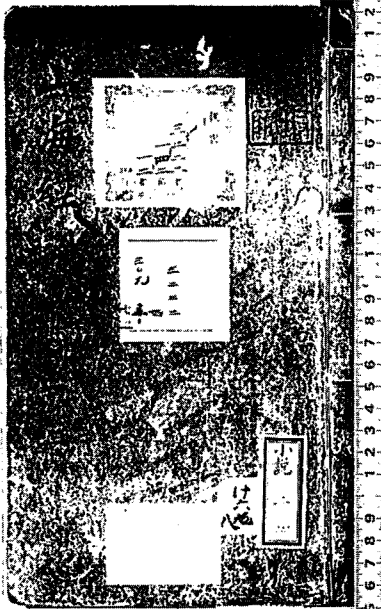
○明李時珍撰 明李建中圖『本草綱目』五十二卷 王世貞序 明萬曆十八年(一五九〇)刊。當時の博物學の高い水準による論述と繪圖が貴重。

○明胡文煥『山海經』十八卷 『山海經圖』上下二卷 格致叢書 明萬曆三十二年(一五九三)

序刊、もと圖を缺いて、後に加えたものか、内閣文庫本圖缺、東洋文庫藏本有圖。影印本『山海經圖』（中國古代版畫叢刊二編第輯）上海古籍出版社一九九四年。經と關係のない動物も収める。上巻三六圖、下巻一三四圖。胡文煥の『山海經圖序』に圖の増補のことが述べられている。

○明蔣應鑄畫『山海經』十八卷、明楊慎『山海經圖序』、晉郭璞『山海經序』、『山海經目』、漢劉秀（劉歆）敘録。圖は全巻七十四圖。今回影印する一より五巻までは三十九圖あり。明刊本は國立公文書館内閣文庫藏本全四冊三〇九函七三號、『山海經』十八巻を同文庫の許可を得て影印。和刻本は書林淺井龍章堂、河内屋吉兵衛刊の『山海經』、晉記室參軍郭璞傳、補刻合本全五冊を用いた。この淺井龍章堂は大坂の店を構えに書梓であり、寛政三年（一八〇）九月より明治六年（一八七三）十一月まで營業している。この刻本は明治刷の可能性がある。次頁圖の下段は和刻本の版面を示したものであるが、草書狀の刷題簽の本文の方が古體を示すが、初刷ではない。楷書の刷題簽で青表紙の本文が今回影印したものである。いずれも補刻されているが、今回影印した本文の方が保存状態、版面が整っている。これを聞いた。いずれも私藏本である。東洋文庫藏本は初刷に近い善本である。影印に際して上段を明版、下段を和刻本とし、缺落部分を補い、和刻本の誤刻を知るに便せしめた。尚、明刊本と和刻本の字體及び圖繪は良く似ているが、被せ彫りではない。版面も和刻本の方がやや大きい。圖はほとんど同じように見えるが、これも腕の良い職人の模刻であろう。また、紙面の關係で極めて小さい圖版になったが、必要に應じて擴大して使つて欲しい。

明版 27.5cm X 15.2cm (書遊怪直書)



7.9 20.0 X 12.8 (匡郭四圍單邊)

精刻本

大卷之一

三

怪蛇多怪木不可以上  
 又東三百七十里曰狝陽之山其陽多赤金也其陰多白金錐也兗爾推山前有獸焉其狀如馬而白首其文如虎而赤尾其音如譚如人其名曰鹿蜀佩之宜子孫佩請帶其皮尾怪水出焉而東流注於窻巖之水其中多玄龜其狀如龜而鳥首虺尾虺尾其名曰旋其音如判木如破木聲佩之不甞可以為底底猶治也外

上段內閣文庫藏本 下段和刻本

和刻本 25.6cm X 17.6cm (同一本) (兩木刷題替左上方)



1.3 20.7 X 13.8 (同一本) (匡郭四圍雙邊)



- 『山海經釋義』序三冊。本文十八卷。晉郭璞『山海經序』。明蔣一葵識。堯山堂。明王崇慶『序山海經釋義』。明董漢儒『重刻山海經釋義序』。劉秀鈺錄。山海經總目。明趙維垣『山海經釋義跋』。圖像『山海經』第一圖より第七十五圖。計十冊。蔣應鑄畫『山海經』より一圖多いが、釋義第一圖が俞兒であり、これを缺く、胡文煥本の第一圖も俞兒である。明萬曆三十五年（一五九七）蔣一葵堯山堂序刊本。王崇慶の原本は明嘉靖十七年（一五三八）刊本。この原本には圖像を缺き、董漢儒の校訂本の段階で圖像が加えられた。圖像は蔣應鑄畫とほぼ同じである。
- 『三才圖會』一〇六卷。明王圻撰、王思義續編。明萬曆三十七年（一六〇九）序刊本。影印本、黃曉峰重校槐蔭草堂刊。成文出版社。鳥獸六卷は『山海經圖』を考勘するのに貴重である。
- 『山海經廣注』十八卷。圖五卷。清吳任臣撰。康熙六年（一六六七）序刊本。一四〇圖。影印『山海經圖』『山海經』（中國古典文學大系）平九社一九六九年、九、十三）底本、京都大學人文科學研究所藏。
- 『古今圖書集成』一萬卷。清康熙中敕撰。蔣廷錫等補。清雍正四年（一七二六）刊。博物彙編禽蟲典卷一（一九二）。影印本。63、64冊。文星書店。一九六四年。
- 『繪圖山海經新校正』一卷。清畢沅校注。畢沅序、郭璞序、總目錄、古今本篇目考、靈樞圖、異域圖、獸族圖、羽禽圖、鱗介圖、經、孫星衍後序。乾隆四十六年（一七八二）九、九序刊本。影印。新學書局刊。一九六二年八月。底本、潘重規藏本。但し、石印本と考えら

れるので後世のものであろう。乾隆四十六年經訓堂叢書原本は繪圖なし。

○『山海經存』九卷 帶圖 清汪紱撰 盧葆辰程夢元戴彭余家鼎校字 清光緒

二十一年(一八九五)跋刊。影印「叢書集成三編」77冊所收。石印本。明楊慎「注山海經序」、

漢劉秀「上山海經疏」、跋を有す。畢沅の注を存するが、どこまでが立雲齋原本か不明。

○楊化 選輯 中國古代怪異圖 天津楊柳青畫社 一九八九年六。

○馬昌儀 『古本山海經圖說』 山東畫報出版社 二〇一五年七 諸版本の圖を卷を追って鳥

獸圖を個別に集め注解。

○馬昌儀 『全像山海經圖比較』 全七冊 巴蜀書社 二〇一三年八。前書の典據となつて諸版

本の圖像を影印し、關係ある畫像石等まで集めて、『山海經圖』研究の決定版。解題

論考も詳細。成城大學圖書館藏の『怪奇鳥獸圖卷』も影印研究されているが、工作

舎からすでに影印されており、未公開の諸資料のみ刊が期待される。

日本人の作になる鳥獸圖 異鳥獸圖に限定

○『十二靈獸圖卷』 室町時代(十六世紀)題字 整峰元允題字、跋 良忠(元禄十六

年(一七〇三))。箱書 箱蓋表「靈獸圖 題號 整峰和尚(墨書) 同裏 主君信齋

侯龍藏 詞書 道之法印 繪 小栗宗栗 臣良忠 巖嚴 拜領 之子 孫永々 勿 狼之(墨書)

附屬 檜山成徳 漆狀。(美術館開館5周年記念)空町の繪畫展 詩畫軸、

屏風 障壁畫 靜嘉堂文庫美術館 一九九六)圖録による。詳細な解題あり、掲示

圖版 彩色 全十二圖。各圖に題詞あり。

○『山海異物』三冊 紙本着色 縦三〇・二横三十二 江戸時代（十七世紀寛永頃寫）スペインサー  
番號六十一 鳥獸圖四十七 左側に圖 右側に題詞。ニューヨークパブリックライブラリー藏。  
『日本繪畫名作展』（神戸市立博物館 サントリー美術館 圖録一九八七年。反所茂雄  
編）スペインサーコレクション藏。日本繪入本及繪本目録「弘文荘一九六八・五・五。一九七八・六  
一増訂再版）による。

○『怪奇鳥獸圖卷』一卷 成城大學圖書館藏。江戸後期寫。影印 伊藤清司 磯部  
祥子 解題 工作舎二〇〇一年一・二・五。着色七十六圖。各圖に題詞あり、附録に『山  
海經存』を影印。

○朽尾武 『成城大學圖書館藏』『怪奇鳥獸圖卷』における鳥獸人物圖の研究』  
『成城國文學論集』三輯 成城大學大学院文學研究科 二〇〇二年三

○衛挺生考釋 徐聖謨製圖 『山經地理圖考』（中華學術院 一九七四年八）。『山海經』  
卷五までの山岳の地理考證。

### 影印本凡例

一、明蔣應鑄畫『山海經』十八卷中初めの五卷を影印する。上段に明刊本を下段にそ  
の和刻本を影印する。印面の外に附した數字は、前野直彬『山海經』（全釋漢文大  
系 叢英社）に附されに通り番號である。下段の圖像の印面に附した鳥獸名に冠し  
た數字は、通り番號に一致する。一往々異なるは、一番に往々の記事があることを意味する。  
これは目次の數字とも一致する。

二、『山海經目次』は影印した本文・圖像の検索を容易にするためと、内容を視覚的に

理解し易くすることを目的とした。山系、所在、水系、植物、動物、礦物に分類しているが、必ずしも完成品とは言えない。衛挺生等の『山海地理圖考』という名著を利用して、所在(山岳)を記入すべきであったが、十分納得できぬところもあり、後目を期した。

三、「山海經圖像目次」は、『山海經』巻一より五所收の三十九圖中の鳥獸を容易に検索できるようにした。

四、次に『山海經』の影印本文を配す。

明蔣應鑄畫『山海經』明刊本の影印に當り、國立公文書館の許可を平成十五年十二月九日に受けた。ここに貴重な書物を影印することができて感謝する次第である。



南山經卷一	山	所在	水系	植 物	動 物	鑛 物
1 第一圖	招搖山 <small>招搖山</small>	蜀伏山山南之西頭濱西海	麗澤之水西流注海	桂招搖之桂葉似枇杷味辛白華叢生山峻常青祝餘桂茶如韭青華迷穀如穀黑理華四照首沛水華	狴狴生注如馬白耳黃似獨狴大赤日長尾今江南山中多有。	金玉
2	堂谿庭之山			楛木連子似赤赤可食	啗猿似獼猴大臂脚長便捷色黑黃鳴聲哀	水玉水精黃金
3	獯鬻之山			怪木	怪獸 怪魚 煖蟲色如綬文鼻上有白或大百餘斤一名反鼻。 怪虫它	
4 第二圖	栲陽之山		怪水東流注憲翼之水		鹿蜀如馬首文如鹿赤尾音如嗥如人歌聲佩宜子珠 去龍旋龍如龜鳥首起尾音如判沐如旋木擊佩不擊	赤金銅(陽) 白金銀(陰)
5	椹山		多水	無草木	燕室狀如牛陵居蛇尾有翼羽在趾下冬死夏生擊翅食然腫疾	
6	負夏之山		多水	無草木	奕沛狀如狸有鬣首為社柱 狙狴自為旌旗	
7 第三圖	碁山			怪木(陰)	搏鮑狀如羊九尾四耳目在背佩不畏 鴻鵠鳥狀如雞三首六目六足三翼食不臥	玉(陽)
8	青丘之山	青丘國在海外	冥水南流注即翼之澤		九尾狐狀如狐九尾音如嬰兒食人食不蠱 灌灌灌灌狀如鳩音若呵佩不惑 亦熊狀如黑人脸音如鴛意食不芥	玉(陽) 青(陰)黑(陰)
9 第四圖	箕尾之山	尾跋(臨海)東海	滂水南流注清			沙石 白玉
10	崑崙之山招搖山 亞箕尾之山				神鳥身龍首	
11	南次二經之首 柘山		冥水西南流注赤水		羆狸力狀如豚有距音如狗吠見多土功	白玉(赤水中) 丹粟(細丹沙如粟)

山海經目次

南山經卷一	山 系	所 在	水 系	植 物	動 物	鑛 物
	西臨流黃 北望諸毗 東望長右				鴝狀如鴝人手脚如人手 音如痺 鳴自號 見多故土 放 放逐	
12	長右之山		多水	無草木	張右狀如鳥四耳音如吟 如人呻吟 見大水	
13	堯光之山				滑囊狀如人羸囊穴居各 螫音如蠶木 見有大蘇	玉(陽) 金(陰)
14	羽山	今東海祝其縣西南 蘇所經處 似非	多水多雨	無草木	腹蟲 蛭	
15	瞿父之山			無草木		金玉
16	句餘之山	今會稽餘姚縣南 句章縣北		無草木		金玉
17 第五圖	浮玉之山 北望具區 東望諸毗(水)	具區 今吳縣西南 太湖	茗水出其陰北 流注具區		彘狀如虎 牛尾音如吠 犬食人 鯨魚狹薄長頭 一名刀魚	
18	成山 四方三壇	今永昌郡仲出金	闕水南流注滄			金玉 青瓊 黃金(沙金)如練 在沙中
19	會稽之山 四方	今會稽郡山陰縣 南 禹冢 井 今長沙臨湘(做 石)	勺水南流注溟			金玉 砭石或砭石似玉 赤地白文 色難辨 不分明
20	夷山		溟水南流注 列塗	無草木		沙石
21	嶷勺之山		無水	多草木	無鳥獸	金玉
22	咸陰之山		無水	無草木		
23	洵山		洵水南流注關 之澤		羸狀如羊無口不可殺 比羸(關之澤)紫色螺	金(陽) 玉(陰)
24	靡勺之山		滂水東流注海	梓山椒 梓葉似桑今 作楠 刺杞 芎藭 子赤		
25	區婁之山		鹿水南流注滂 水	無草木		沙石

南山經 卷一	山 系	所 在	水 系	植 物	動 物	鑛 物	
26	鹿野之山		澤腹之水南流注滂水	無草木	○ <u>鸞</u> 狀如雛有角，雛似鷹，大尾長翅，音如嬰兒之音，食人。	金石	
27	漆吳之山 處東海望丘山 光氣幽蔽 入神光潛耀 日次日景之穴			無草木		博石 博碁石 無玉	
28	南次三經 自桓山至漆吳之山				○ <u>神龍</u> 身為首		
29 第七圖	南次三經之首 天泉之山 不可以上(不可登)		多水				
30	不騫邇之山		滂水南流注海		○ <u>犀</u> 似水牛，豬頭，鹿脚，脚似象，有三眼，大腹黑色，三角，一在頂上，一在額上，一在鼻上。 ○ <u>兕</u> 似水牛，青色，一角，重三千斤，象獸之最大者，夜鼻牙，性妒，不畜生子。 ○ <u>嬰</u> 狀如鳩，似鳥小，胎隨尾，白首三足，人面，鳴自號。 ○ <u>虎蛟</u> 似蛇，四足，龍屬，狀魚，身蛇尾，音如鴛鴦，食者不腫，已瘠。(泔水)		金
31	丹穴之山		丹水南流注渤海		○ <u>鳳皇</u> 狀如雞，五采文，首文德，一腹文曰信，飲食自然，自歌自舞，見天下安寧，高五尺，五采，鳳雞頭，燕頰，蛇頸，龜背，魚尾，此雄皇，雄鳳。	金玉	
32	發爽之山		多水 汎水南流注渤海	無草木	白猿		
33	旄山之尾		南有谷，青遺隧 凱風南出		怪鳥 鷓鴣 鷓明 鷓居 鷓 雀 怪鳥之屬		
34	非山之首		無水		蝮虫	金玉	
35	陽奕之山		多水	無草木			
36	灌湘之山 灌湖射之山			多木無草	怪鳥 無獸		

南山經 卷一											
山	系	所	在	水	系	植	物	動	物	鑛	物
37	雞山			黑水	南流注海			鷩鷩 狀如雞 毛音如鷩 見天下大旱	金丹 瓊亦名美丹		
38	令丘之山	多穴	南有谷 中谷 條風出			無草木		鵲 狀如鳥人面 四目有耳 鳴自號 見天下大旱			
39	侖者之山					白谷 羸 狀如穀 糲汗如漆 味如飴 釋漿可取玉 梁玉			金玉(山) 青瓊(石)		
40	萬眾之山							怪獸 大蛇			
41	南禺之山			多水	穴水出入 夏北冬閉 佐水東南流注海			鳳皇 鸕鷀 鳳族		金玉	
42	南次三經之首		自天虞之山 至南禺之山					龍 象人面神			
西山經 卷二											
43	華山之首					松		羴羊 大目 壓圍 大羊如驢 尾狀如羊 尾 脂可已腊	洗石		
44	錢來之山				澧水	北流注渭		鷩 深狀如山 雞 黑身赤足 可已曝	金銅		
45	太華之山	西嶽華陰山	削成四方 高五仞 廣十里	今弘農華陰縣西南				明星玉女 鳥獸 黃鹿 肥瓠 蛇 六足四翼 見天下大旱 湯時蛇見陽山下 肥瓠蛇 疑同名			
46	小華之山	少華山				荆杞 藟 藟 狀如鳥 非生石上 緣木生 食已心痛		牝牛 今華陰山中 多山 牛 山羊 赤鷩 山 鸕鷀 胸腹洞(銅) 赤冠 金黃頭 綠尾 赤毛 彩鮮明 可禦火	磬石 燮石(陰) 璿璣之玉		
47	符禺之山				符禺之水	北流注渭	文蓀 如藜 可已擊 草多條 狀如麥 赤華黃實 如嬰兒 舌食之不瘳	鵲 狀如羊 赤鬣 鵲 狀如羊 赤鬣 單似燕 紺色 可禦火 龜之辟火災	銅(陽) 鐵(陰)		
48	石脆之山				灌水	北流注禺水	檉 高三丈 無枝條 管狀 圓 枝生桐頭 實如胡 荻 科 桐		璿璣之玉(陽) 銅(陰) 流赤者(禺水中赤土)		

明·蔣應鑄畫『山海經』

西山經卷二	山 系	所 在	水 系	植 物	動 物	鑛 物
49				草多條。狀如韭。白華黑實。食之已疥。		塗中無病。今以朱塗中。辟瘴。
49 第 八 圖	茨山	漢中郡出蒲竹。	蜀水北流注涪水。	榿似榿。細葉土榿。 榿中車材。 箭筒厚。葉長。中。根深。苟。冬。地。中。掘。取。食。	鮮魚。狀如鱉。音如羊。 詐羊。 藏羊。 肥遺。食已滿。疫病。	鏡(陰) 赤金(陽)
	竹山		竹水北流注渭。丹水東南流注洛水。	喬木。枝上棘者。 黃蘗。草。狀如樗。葉如麻。 白華。赤實。狀如楮。葉赤也。浴之已疥。可已附。 竹箭(陽)。	人魚。如鯽魚。四脚。 象。鹿。狸。碩。兔。脾。院。豪。長。數尺。狀如豚。白毛。大如羊。黑頭。自烏。牝牡。鸞。豬。	鏡(陰) 蒼玉 水玉(洛水中)
51	浮山			木。積葉無傷。 薰草。厥葉。旌。赤華。黑實。莫如。藤。燕。自。華。佩。可。已。瘡。	木蟲。在樹上。	
52	羶次之山	今漆水出岐山。	漆水北流注渭。	榿。似榿。 榿。 竹箭。	鳥。狀如鴟。長臂。善。捉。似。蠟。蝦。蒙。甚。鳥。狀。象。人。面。足。冬。見。冬。蟄。服。不。畏。雷。	赤銅(陰) 嬰。垣。之。玉(陽)
53	時山		逐遂水北流注渭。	無草木。		水玉。
54	南山	猛豹出蜀中。	丹水北流注渭。	丹粟	猛豹。似熊。小。毛。淺。光。澤。食蛇。銅鏡。 尸鳩。神。穀。類。胡。鷄。	
55	大時之山	今河內脩武縣縣。北黑山出清水。	漆水北流注渭。清水南流注漢水。	穀。柞。棟。榿。榿。		銀(陰) 白玉(陽)
56	鷩鷩之山	今武都區道縣。南。	漢水東南流注沔。江夏安陸縣。鷩水北流注湯水。	桃枝 鉤。蹄。桃。枝。屬。鷩。 鷩。容。葉。不。實。食。無。子。	犀。兕。 熊。羆。 白。鷩。鷩。鷩。鷩。 鷩。鷩。鷩。鷩。鷩。鷩。 亦鷩。	
57 第 九 圖	天帝之山			榿(山,上) 榿(山,上)	鷩。邊。狀如狗。虎。皮。不。羶。 榿。狀如鷩。黑。文。亦。輪。頭。食。已。瘡。	

西山經卷之二						
山	系	所在	水系	植 物	動 物	金 礦 物
57 第九圖				蜜蕨管茅類 杜櫟草狀如葵臭 如靡燕香草可走馬 食已癒		
58	阜登之山		蓄水西流注諸育 之水 澄水南流注獲 之水	桂木 無條草狀如藁麥白華 葉如茨赤背毒鼠	麋狀如鹿白尾馬足人手 四月 麋鳥狀如鴉人足食已 癒	丹粟(砂)(陽) 銀黃金(陰) 磐毒鼠殺鼠食 肥
59	黃山	始平槐里縣有黃山	盼水西流注赤水	無草木 竹箭	犛狀如牛蒼黑大目 鶻鳥狀如鴉青羽赤喙 人名能言	玉(赤水中)
60	翠山			獲 梓 竹箭	犛子 鷹以博大角細食好山崖間 箭以搏小有齒 鶻鳥狀如鴉赤黑兩首四足 可禦火	黃金(陽) 玉(陽)
61	焉魂山 鎭西海		澹水西流注海	無草木		玉 采石石采色今惟 黃空青綠碧之屬 黃金 丹粟(砂)
62	西經之首自錢來之 山至焉魂山華山冢				獼山神	
63 第十圖	西次二經之首 鎭金山				柎 檀	銅上 玉下
64	秦泰冒之山		浴水東流注河		白蛇	金(陽) 鐵(陰) 藻玉(河中)
65	蒙嶺之山	今蜀郡平澤出青珠	楚水南流注渭	柎 檀	騶鳥鶻	黃金上 銀下 白珠(河中)
66	高山	今越巂會稽縣東 山出碧 高平郡出雄黃	涇水東流注渭 今涇水出安定朝 那縣西行頭山至 京兆高陵縣	柎 竹		銀上 青碧下 鐵下

明・蔣應鑄畫『山海經』

西山經卷二									
山	系	所在	水	系	植	物	動物	礦	物
66 (單圖) 67	女林之山						虎 豹 犀 兕 鸞鳥狀如翟五采文。翟似雉 大我尾。作樂鳥。鳴屬。見天下 安寧。鸞似雞。瑞鳥。西成獻。		磬石泗濱浮磬 赤銅(陽) 石涅(陰)磬石。楚 石涅。秦羽涅。
68	龍首之山		茗水東南流注 涇水					黃金(陽) 鐵(陰) 美玉(水中)	
69	鹿臺之山	在上郡					牝牛 羴羊 白豪豨豬 ○鳧。後鳥狀如雄雞。人面。 鳴自叫。見有兵。	白玉。上 銀。下	
70	鳥危之山		鳥危之水		檀(陰) 楮(陰)穀木 女林西流注赤水			磬石(陽) 丹粟(丹砂赤水)	
71	小次之山						味厭。狀如猿。自首赤足。 見大兵。	白玉。上 赤銅。下	
72	大次之山						牝牛 羴羊	碧。似土色甚白。(陽) 碧(陰)	
73	薰吳之山				無草木			金玉	
74	底陽之山				榑。似松有刺。細理。 楸。 豫章大木似楸。葉夏 青。	犀 兕 虎 豹 牝牛			
75	衆獸之山				檀 楮		犀 兕	璆。璆之玉。上 黃金	
76	皇人之山		皇水西流注赤水					金玉 青雉黃。雌黃。 丹粟(丹砂赤水中)	

西山經卷二								
山	系	所	在	水	系	植 物 動 物 鑛 物		
77 第十圖	中皇之山					蕙 棠 形聚之屬	鑛 黃金	
78	西皇之山					麋 大如小牛 鹿屬 鹿 牝牛	金(陽) 鑛(陰)	
79	萊山					檀 楮	羅 羅鳥食人	
80 第十圖	西次二經之首 自鈐山 至萊山					叶 神人面馬身 四足一臂 叶 神人面牛身 操杖以行 飛獸之神		
81	西次三經之首 崇吾之山 在河之南 北望窳之澤 西望命之搏獸 之丘 東望瑤淵					木 員葉白樹 今江東呼 草木子房為樹 榭華下 鄂赤華黑理 實如枳 食宜子孫	舉 父 今 父 狀如周 文臂豹 虎善投 變 鳥狀如鳥 一翼一目 相得飛 比翼鳥 鵲見 天下大水	
82	長沙之山			泚水 北流注 勃沚		無 草水	青 雄黃	
83	不周之山 山形 缺不周而 西北不 周風出 北望諸 毗之山 臨窳崇之 山 東望勃澤			河水 所潛 河南 出昆侖 潛行地 下 至蔥嶺 出于關 閘分 流 波出合 東流注 勃澤 潛行南 出 積石山 為中國 河 名勃澤 薄澤薄 島海 去玉門 關三 百餘里 河之重 源		嘉 果實如 桃李 葉如 藜 華赤 樹 食不 勞		
84	鑿山 自空山 至鑿山			丹水 西流注 纒澤 后纒神 馮 黃帝 登龍鼎 湖		丹 木 員 葉赤 黃 華赤 實 味如 飴 食 不 飢 玉 膏 澤 丹 木 五 歲 色 清 五 味 馨	奇 鳥 怪 獸 奇 魚	白 玉(水 中) 玉 膏 涌 出 清 神 湯 少 室 山 上 有 白 玉 膏 玄 玉 玉 膏 黑 玉 玉 菜 黃 帝 取 鑿 山 瑾 瑜 之 玉 堅 栗 精 密 濁 澤 有 光 君子 服 禦 不 祥
85	鍾山						鍾 山 子 鼓 神 狀 如 人 面	



西山經卷二		所 在	水 系	植 物	動 物	鑛 物
86 第十圖	鍾山之系 鍾山天下之高山 自擊之所聚飛 鳥之極				龍身與欽瑤殺蘇江昆侖 之陽帝殺之鍾山之東流 崖。 ○欽瑤化為大鷄雞屬狀 如雞黑文白首赤喙虎爪 音如晨鶴。鷄屬見大兵 鷄鳥鼓化狀如鷄赤足 直喙黃文白首音如鶴見 邑大旱 赤豹、白鹿、白鳥、青鸚	
86	泰器之山		觀水西流注流 沙		○文鰐魚狀如鯉魚 魚身鳥翼蒼文白首赤 喙常行西海遊東 海夜飛音如鸞雞 味酸甘食已狂見 天下文鰐	
87 第十圖	槐江之山 帝平國之國 南望昆侖西望大 澤而後所灌 北望諸毗東 望恒山四成		丘時之水北流注 蕩潏	檉木不生花	羸母蟻環(伏中) ○神英招狀馬身人面虎文鳥 翼徇四海徇行四海音如榘 槐鬼離命神 鷹鷂鷂屬 窮鬼 ○天神狀如牛八足二首鳥尾 音如勃皇見邑兵	青雄黃 琅玕似珠 黃金 玉 丹粟(丹砂之陽) 采黃金(陰) 金辰(陰)
88	昆侖之丘(天帝 之下都)		河水南流東注 無蓬(山) 赤水山東南隅東 南流注汜天之 水汜天山名赤水 所窮 洋水西南流注 醜塗之水醜塗 山名在南極 黑水出西北隅西 流大村山名	沙棠狀如棠實華 赤實味如李無核 可禦水食不渴 實華狀如棠味如蕪 食已癆昆侖之蔬	○神陸吾狀虎身九尾人面 虎爪司天之九部帝之囿味 ○土女婁獸狀如羊四角食人 ○欽原鳥狀如鸞大如鸞 鸞鳥獸死為木枯 鸞鳥司天之百服 怪鳥一鳥六首 怪獸一獸九首之屬	
89 第三圖	樂遊之山		桃水西流注櫻 澤		鯨魚狀如蛇四足食 魚	白玉

西山經卷二		所在	水系	植物	動物	礦物
90 第三圖	山系					
	流沙 羸母之山		無水		神長乘天之九德九氣所生。神狀如人豹尾。	玉上 青石下
91	玉山 西王母所居				西王母狀如人豹尾。虎齒善嘯蓬髮戴勝。 狡狀如犬豹文角如牛。音如吠犬。見國大穰。 月生過鳥狀如翟赤食魚。音如錄。見國大水。	玉石
92	華干轅之丘 黃帝居丘 聚西陵氏女。		洵水南流注黑水。	無草木		丹粟(丹砂) 青雄黃
93	積石之山下青石門。	石積山今金城河門關西南羌中水經引山海經云積石山在崑崙山東河所入。	河水冒羅西流。河水行塞外東入塞內。			
94 第十四圖	長留之山 神白帝少昊居 貝神魂氏之宮				神白帝少昊少昊金天氏帝擊獸文尾。鳥文首。貝神魂氏司反景。	文玉石
95	章莪之山			無草木	如獐狀如赤豹。瓦尾一角。音如擊石如石相擊。 畢方鳥狀如鷄一足赤文青質日喙。鳴自叫。見邑譌文。	瑤碧玉屬。
96	陰山		濁浴之水南流注蕃澤		文貝(水中)餘衆類。 天狗狀如狸狗白首。音如榴榴貓貓。可禦凶。	
97	符陽之山 風雲之所出		怪雨	獲上 稗上	神江疑	金下 玉下
98	三危之山 廣員百里	今在敦煌鄯郡			三青鳥為西王母取食。 微箇狀如牛。身四角。象如披蓑。食人。 疾鳥一首三身。狀如樂鳥。鸞似。鸞黑文赤頸。	
99	馬魂山				神者童。顛頭。音如鐘磬。積蛇。	玉上 無石

西山經卷二	山系	所在	水系	植物	動物	礦物
100 第十四圖	天山		英水西南流注湯谷		帝江神狀如黃囊赤如丹狀六足四翼潭數無面目識歌舞	金玉 青雄黃
101 第十五圖	勸山 西山望日之所入 氣冥神紅光所司				神尊狀如金人面虎爪白尾執鉞神紅光	嬰短之玉工瑾瑜枉陽青雄黃(陰)
102	翼望之山 主翠山			無草木	鸞獸狀如狸一目三尾音如兼百擊可禦凶服已瘳鳴鶴余鳴鳥狀如鳥三首六尾善笑服不厭可禦凶	金玉
103	西次三經首 崇吾之山至望望之山				神羊身人面	
104 第十六圖	西次四經之首 陰山		陰水西流注洛	穀 密 菴 蕃 青蕃似莎大		無石
105	勞山		弱水西流注洛	此草莖葉		
106	罷父之山		涿水西流注洛			茫碧
107	申山		區水東流注河	穀 柞 柎 樞		金玉(陽)
108	鳥山		辱水東流注河	桑 楮		鐵(陰) 玉(陽)
109	上中之山		湯水東流注河	無草木 榛 榛子似栗小美味 楛 楛爲箭	白鹿 留鹿鳥狀如雉以鸞飛食不眴目	石各石磊砢大石
110	諸次之山		諸次之水東流注河	多木無草	鳥獸巢居衆蛇	
111	號山		端水東流注河	漆似櫟 椈		冷石

西山經卷二	山系	所在	水系	植 物	動 物	鑛 物
行第十六圖				葇草音莖 蕞音草 芎音江離		
112	孟山		生水東流注河		白狼 白虎 白雉 白翟白翠	鐵(陰) 銅(陽)
113	日於之山		洛水出陽東流注渭 夾水出陰東流注生水	松柏 櫟柞 檀	牝牛 羖羊 鴝似鳩青色	
114	申首之山		冬夏有雪 申水出其上潛其下	無草木		白玉
115	涇谷之山		涇水東南流注渭			
116	剛山		剛水北流注渭	檠木	狌中狌 魑魅之類 狀人面獸身一足一手音如欬	璆瑋之玉
117	剛山之尾		洛水北流注河		鸞鸞 狀鼠身體首音如吠犬	
118	葵鞮之山		澗水東北注陵羊之澤	漆木上	鳥獸盡白 鳴遺之魚 魚身蛇首六足目如馬耳 食不日可禦凶	金玉
119	中曲之山			檉木 狀如棠 實葉赤實大如木瓜 食多力若木	馬交 狀如馬 白身黑尾 一角虎牙爪 音如莖音 食虎豹 在畏獸畫中 可禦兵	玉(陽) 雄黃(陰) 白玉 金
120 第十七圖	鄧山		潏水南流注洋水		窮奇 狀如牛 鬣毛音如犍狗 食人以虎 鬣毛有翼 神狗 黃貝 肉如科斗 有頭尾 鯨 魚身鳥翼 音如鴛鴦 見邑大水	

西山經卷二	山 系	所 在	水 系	植 物	動 物	鑛 物
121 第十七圖	鳥鼠同穴之山	今隴西首陽縣西南	渭水東流注河 出山東至弘農華陰 縣入河 濫水出其西 西流注漢水		<ul style="list-style-type: none"> <li>○鵠似燕黃色</li> <li>○鹿如人家鼠類尾</li> <li>白虎</li> <li>○鰐魚(河)狀如鰐魚大魚</li> <li>口在頰下體有連甲魚鱗</li> <li>動邑大兵</li> <li>○鰐魚比之魚狀如覆鉞鳥</li> <li>首魚翼魚尾音如磬石之聲</li> <li>珠母蚌類生(珠玉)</li> </ul>	白玉上 珠玉(水中)
122	山淹茲之山 日沒所入山		茗水西流注海 濟之水出焉 焉山	丹木葉如穀實大如瓜 赤符黑理食已瘴可禦火	<ul style="list-style-type: none"> <li>○龍(陽)</li> <li>○龍(湖)狀如馬身鳥翼人面蛇尾好響人捉響人</li> <li>○人面鳥狀如鴉人面龍身犬尾名自號見邑大旱</li> </ul>	玉(陰) 砥礪磨石
123	西次四經 自陰山 至淹茲之山					
124 第十八圖	北山經卷三 北山經之首 單狐之山		澆水西流注渤 萊	机木似榆出蜀中 華草		白石 文石
125	求如之山		滑水西流注 諸毗之水	無草木	<ul style="list-style-type: none"> <li>○滑魚狀如鯉赤背鱗鱗似蛇音如梧食已疣</li> <li>水馬狀如馬文臂牛尾音如呼如人叫呼</li> </ul>	銅上 玉下
126	帶山		彭水西流注 茫湖之水		<ul style="list-style-type: none"> <li>○龍疏狀如馬一背有錯可辟火</li> <li>○鵠鵠狀如鳥五采赤文自為牝牡食不殖</li> <li>○鵠鵠狀如雞赤毛三尾六足四首音如鵠食之可已暴</li> </ul>	玉上 青碧下
127	譙明之山		譙水西流注河		<ul style="list-style-type: none"> <li>○何羅之魚一背十身音如吠犬食已癩</li> <li>○孟槐狀如楸赤蒙蒙豬音樞樞可禦凶在畏獸畫中</li> </ul>	青雄黃

	北山經卷三					
	山系	所在	水系	植物	動物	鑛物
128 第十八圖	涿光之山		麗水西流注河	松 <sub>上</sub> 柏 <sub>下</sub> 撥 <sub>下</sub> 檀	○ <sup>鱗</sup> 習 <sup>鱗</sup> 之魚狀如鵠，十翼 鱗在羽端音如鵠，可禦 火，食不瘡。 麤羊 蓄鵠	
129 第十九圖	號山		伊水西流注河	榛 <sub>上</sub> 桐 <sub>下</sub> 栝 <sub>下</sub> 栝 <sub>下</sub>	○ <sup>蒙</sup> 身 <sup>蒙</sup> 有肉 <sup>蒙</sup> ，善行流沙中。 知水泉所在。 ○ <sup>寓</sup> 鳥狀如鼠鳥翼，音如羊，可 禦兵。	玉(陽) 鐵(陰)
130	號山之尾		魚水西流注河			玉 <sub>上</sub> 無石 文貝
131	丹雘之山		薰水西流注蒙水	檉 <sub>上</sub> 柏 <sub>下</sub> 韭 <sub>下</sub> 山菜 籬	耳鼠狀如鼠，善自療身，音如 得尤，以尾飛，鬚飛，食不 厭大腹，可禦百毒。	丹雘
132	石者之山		洪水西流注河	無草木 <sub>上</sub>	○ <sup>孟</sup> 極狀如狗，文題額，白 身，善伏，鳴自呼。	瑤 碧
133	邊春之山 春山		穀水西流注勃 澤	蕪 <sub>上</sub> 蓀 <sub>下</sub> 茗 <sub>下</sub> 大葉 藻 韭 桃 <sub>下</sub> 山桃 檉 <sub>下</sub> 李	○ <sup>文</sup> 鳥狀如鳥，文身善笑， 見人臥伴服。	
134	蔓聯之山			無草木 <sub>上</sub>	○ <sup>楚</sup> 管狀如馬，有鬣，牛尾，文 臂，馬蹄，見人呼，鳴自呼。 ○ <sup>文</sup> 鳥群居，朋飛，毛如 <sup>此</sup> ， 鳴自呼，食已風。	
135 第二十圖	單張之山		櫟水南流注紅 水	無草木 <sub>上</sub>	○ <sup>諸</sup> 捷狀如豹，尾人首，牛 尾，一目，善吐，行衛尾，居 蟻尾。 ○ <sup>白</sup> 代鳥狀如雉，文首，目黃， 足，食已，噬痛，口可 <sup>可</sup> 斷。	
136	灌題之山		匠轄之水西流 注渤海	檉 <sub>上</sub> 栝 <sub>下</sub>	○ <sup>那</sup> 父狀如牛，白尾，音如 <sup>叫</sup> 。 ○ <sup>珠</sup> 斯狀如雌雉，人面，見 躍，呼自呼。	流沙， 砥石 砥石

北山經卷三	山系	所在	水系	植物	動物	鑛物
137 第十圖	潘侯之山		邊水南流注穰澤	松上 柏榛下 栝	○旄牛狀如牛。角節生毛。	玉(陽) 鐵(陰)
138	小咸之山		冬夏有宮	無草木		
139	大咸之山 四方不可上。			無草木	○長蛇。毛如鼠。音如鼓。柝如夜鼓。木柝。	玉下
140	敦薨之山		敦薨之水西流注於澤。出崑崙之東北。闕河原。	○樓上 栞 訖草下	赤鯀。今鯨鮪。無鱗。兕。 羆。牛。樛。鳩。鳩。	
141 第十一圖	少咸之山		敦水東流注瀾門之水。水出瀾門山間。	無草木	○鬿蟲。狀如牛。赤身。人面。馬足。如羆。虎爪。音如嬰兒。食人。鯀。鯀之魚。食殺人。	青碧
142	臯之山		臯澤之水東流注泰澤		○鯀魚。狀如鯀。雞足。食已流。 ○山。瘠。狀如犬。人面。善投。見人笑。行如風。見天下大風。	
143	北臯之山		諸懷之水西流注壘水	○枳棘 剛木。樹如漏。	○諸懷。狀如牛。四角。人。聾耳。音如鳴鴈。食人。 ○魚。魚。魚。身。犬。首。音如嬰兒。海中。虎。鹿。魚。海。衣。布。體如魚。頭似虎。鹿。豕。此類。食已狂。	
144	澤夕之山		壘水西北流注海	無草木	○肥遺。一首。兩身。見國大旱。洩水之精。或爲一頭。兩身。狀如蛇。八足。以名呼。可使取魚。龜。此類。	銅玉
145	北單之山			無草木 蔥 韭		
146	蕪差之山			無草木	馬	
147	北魚之山		鮮水西北流注塗谷之水		馬。元。特。二年。馬。出。涂。谷。水。中。	

	北山經 卷三	所在	水系	植物	動物	礦物
148	隄山		隄水東流注秦澤		馬 ○狗狀如豹文首 ○龍 ○龜	
149	北山經之首 自單狐之山 至隄山				人面蛇身神 山北人生食不火之物	
150	管涔之山 在河 之東其首枕汾 臨汾水上	今太原郡故汾陽 縣北秀谷山	汾水西流注河 至汾陽縣北西入 河	無木多草上		玉上
151	少陽之山		酸水東流注汾 水			玉上 赤銀銀之精 美赤者(水中)
152	縣雍之山	今晉陽縣西波雙	晉水東南流注汾 水東通晉陽南東 入汾		閭闔間 嶽似驢波嶽 角如鹿羊山 驢 白碧 白鴈 白鶴 鯨魚狀如儻赤 音如 此 食不驢	玉上 銅下
153	狐岐之山		勝水東北流注 汾水	無草木		青碧 蒼玉(水中)
154	白沙山 盡沙		燕水出焉 潛其 下	無草木	無鳥獸	白玉
155	蒲葦之山		無水	無草木		
156	狂山		冬夏有雪 狂水西流注浮 水	無草木		美玉(水中)
157	諸餘之山		諸餘之水東流 注施水	松下 柏		銅玉上
158	敦頭之山		旌水東流注印 澤	無草木	鳴野馬牛身一角音如呼	金玉上
159	鈎吾之山				狍 犴獸狀如羊身人面 目在腋下虎齒人爪音如嬰 兒食人	玉上 銅下
160	北囂之山		滂水東流注浮澤		獨狝狀如虎自象犬首馬尾 鬣鬣	無石 碧(陽)



北山經卷三	山系	所在	水系	植物	動物	礦物
160 第(一)圖					鷲鷲狀如鳥人面。宵飛晝伏。鷲鷲之屬。食已暍中熱。	
161 第(二)圖	梁渠之山		脩水東流注厲門(水)	無草木	○ <sup>毛</sup> 鷲狀如麋赤毛似鼠赤毛。如刺得音如豚。 ○ <sup>置</sup> 鳥狀如夸父。四翼一曰犬尾。音如鷲尾。食已腹痛。可止疢。	金玉
162	姑灌之山		冬夏有雪	無草木		
163	沽灌之山		沽灌之水東流注海	木葉如柳赤理	馬 魚 鱒魚	玉碧
164	涇山流沙三百里			三桑無枝。高百仞。百果樹	怪蛇	金上 玉
165	敦題之山 鎔北海			無草木		金玉
166	北次一經之首 暗濤之山 至敦題之山				蛇身人面神	
167	北次三經之首 大行之山 首歸山	今河內野王縣西北			○ <sup>鳴</sup> 驩狀如麋。羊四角。馬尾有距。善還旋舞。鳴自叫。 ○ <sup>鷲</sup> 鷲狀如鷲。自身赤尾。六足。善驚。鳴自訖。笑人呼曰訖。	金上 玉 碧下
168	龍侯之山		泱泱之水東流注河	無草木	○人魚(水中)狀如鯨魚。四足。音如嬰兒。人魚。即鮪。似魚。四足。聲如小兒。嗚。今呼鮪為魚。食無羶疾。	金玉
169	焉成之山				○ <sup>天</sup> 焉狀如白犬黑頭。見人飛肉翅飛行。鳴自叫。 ○ <sup>屈</sup> 鷲鷲狀如鳥。首白身青足黃。鳴自訖。食不飢。已寤。	文石上 金玉(陰)
170	咸山		條管之水西南流長澤	松 柏 莠草		玉上 銅下 器酸三歲一成。食已癘。
171	天池之山		龍泉。潛其下	無草木	○ <sup>飛</sup> 鼠狀如兔鼠首。以背飛	文石

	北山經卷三	系	所在	水	系	植	物	動	物	金	礦	物		
172	陽山							用背毛飛。飛則仰。		黃瑩	(水中)			
172	陽山			留水	南流注河。			<ul style="list-style-type: none"> <li>○領胡狀如牛赤尾。頸鬚狀如鬣。頸上肉鬣勾鬣斗也。鳴自鼓。食已狂。</li> <li>○象蛇鳥狀雌雄。互采以自為牝牡。鳴自鼓。</li> <li>○魚父之魚。狀如鮒魚。首處身。食已嘔。</li> </ul>		玉上	金下	銅		
173	賁聞之山									蒼玉	黃瑩	涅石		
174	王屋之山	今河東東垣縣北。		潞水	西北流注秦澤。王屋山流水所出。潞水聲相近。					石				
175	散山 發九之山(河中兩山)			散水	西流注河。冬乾夏流。乾河。河東聞吾縣東北有乾河口。名乾河里。					玉	無石	金(發九之山上)		
176	景山 南望鹽販之澤。河東碭及縣鹽池。北望少澤。					草落葵 根似羊蹄可食 秦椒 子似椒細葉草		<ul style="list-style-type: none"> <li>○鳴自鼓。狀似蛇。四翼。六足。鳴自鼓。見邑有恐。</li> </ul>		蒼玉	金	黃瑩	涅石	
177	孟門之山			河出孟門之山。						蒼玉	金	黃瑩	涅石	
178	平山			平水出其上。潛其下。						美玉				
177	京山			高水	南流注河	漆木	竹			美玉	赤銅(陽)	玄石	蕭	磁石
180	岳尾之山			丹水	南流注河。薄水出。鮮于山東南流注黃澤。	竹				金玉	青碧			

北山經卷三	山系	所在	水系	植物	動物	鑛物
181 第五圖	肥遺之山	肥遺之水東南流注河。肥水南流注林水。	多水(山F)	無草木 <sub>上</sub>	肥遺之虫它(山F)肥遺之蛇。	金玉
182	小侯之山		明漳之水南流注黃澤。		鵠鵠狀如烏白文。食不瀆。	
183	秦頭之山		共水南流注摩池。	竹箭 <sub>下</sub>		金 <sub>上</sub> 玉
184	軒轅之山			竹 <sub>下</sub>	黃鳥狀如梟白首。鳴自設。食不妒。	銅 <sub>上</sub>
185	言侯之山 耳林東有林	今上黨郡潞縣	沁水南流注河。至陽縣東北入河。或出穀運縣草頭山。耳林之水南流注河。嬰侯之水北流注沁水。	松 <sub>上</sub> 柏		金 <sub>上</sub> 玉
186	沮洳之山		漳水南流注河。今洪水出汝郡隆慮縣大張山。東過河內縣南。為自漳。	無草木	白蛇 <sub>下</sub> 飛蟲	金玉
187	禕園之山		黃水東流注沮洳水。沮水出汝郡林慮縣東北。至魏郡長樂。入清水。淦水東流注區水。淦水今出臨水縣西蓋口山。經鄴西北。至列入縣入漳。			文石 <sub>上</sub>
188	發鳩之山	今上黨郡長子縣之西	漳水東流注河。或出長子縣鹿谷山。東至鄴入清漳。	柘木 <sub>上</sub>	精衛狀如鳥。文首白喙。赤足。鳴自詠。堯爭之。少女女娃。女娃游東海。溺死。反為精衛。銜西山木石。以埋東海。	
189	少山	今樂平郡沾縣故屬上黨	清漳之水東流注			金 <sub>上</sub> 玉

北山經 卷三								
	山	系	所在	水	系	植 物	動 物	鑛 物
189				濁漳之水清濁出 以水繩谷至武 安縣南襄寧宮入 濁漳或東北至 城入大河。				
190	錫山			牛首之水東流 注澹水。				玉 <sub>上</sub> 磁 <sub>下</sub>
191	景山			景水東南流注 海澤。				美玉
192	題首之山			無水				玉 石
193	繡山			涇水東流注河。	柗 芍藥 芍 芩 藥 芍 藥 芍 芩	龍 龜 鼈 似 蝦 蟻 小 青 或 鱗 龍 一 物 名		玉 <sub>上</sub> 青碧
194	松山			陽水東北流注河				
195	致輿之山			灤水出其陽東 流注秦陸之水大 陸水今鉅鹿北廣 平澤 涿水出其陰東流 注彭水今涿水 出中丘縣窮泉谷 東注堂陽縣入 涿水。 槐水東流注涿 澤。	無草木 <sub>上</sub>			金 玉
196	笱山			歷發之水北流 注涿水				金(陽) 玉 鐵(陰)
197	經龍之山			肥水東流注卑 澤。 敵鐵之水北 流注大澤。				碧玉 <sub>上</sub> 金(陽) 鐵(陰) 碧石 璽石
198	白馬之山			木馬之水東北流 注摩訶				石(陽) 玉 鐵(陰) 赤銅

北山經卷三						
山	系	所 在	水 系	植 物	動 物	鑛 物
199 第 二 四 圖	空桑之山		冬夏有雪 空桑之水東流注 厚沱	無草木		
200	秦戲之山		厚沱之水 <small>今厚沱</small> 水出屬門 <small>今屬縣</small> 南或或山東流 注瀧水 液女之水出 <small>出揚</small> 南流注流求	無草木	獫狁狀如羊一背一目 目在耳後鳴自詘	金玉
201	石山		瀧瀧之水東流 注厚沱 解于之水南流 注厚沱			金玉
202	童戎之山		單涂之水東流 注瀧液水			
203	高是之山	今北地靈丘縣	瀧水南流注 厚沱 瀧水東流注 東流注河 <small>傳</small> 陵縣南東北 入瀧水	獲 多條草		
204 第 二 五 圖	陵山		瀧水東流注河			美玉
205	沂山		般水東流注河			
206	燕山		燕水東流注河			嬰石似玉有符 彩嬰燕燕石也
207	饒山		歷饒之水東流注 河	無草木	饒龜 鴟或鴟 師魚食殺人	瑤碧
208	乾山			無草木	呀原狀如牛三足鳴自鼓	金(陽) 玉 鐵(陰)
209	倫山		倫水東流注河		龍狀如麋川巖在尾上	
210	碣石之山	今遼西臨榆縣 南水中或右北平	繩水東流注河		蒲夷之魚(河中)	玉上 青碧下

北山經卷三		所在	水	系	植	物	動	物	鑛	物
200	第 三 圖	所 在	驪城縣東海邊							
201		雁門之山	北陵西險鷹之所出 在高柳北			無草木				
202		帝都之山		秦澤		無草木				金玉
203		爲于無逢之山 北望雞號之山 西望幽都之山		浴水黑水出				大蛇赤首白身音如牛 見邑大旱		
204		北次三經之首 自大行之山 至于無逢之山						馬身人面耳神 象身戴玉十四神 象身八足蛇尾子神		
東山經卷四										
215	第 十 六 圖	東山經之首 嶽嶽之山北 臨乾味		食水東北流注海				鱗鱗之魚狀如犛牛 似虎文音如囁鳴		
216		蘿山		湖水東流注食水				活師科科		玉上 金下
217		枸狀之山		汜水北流注湖水				從從狀如大足鳴 說 紫鼠鳥狀如雞鼠毛見 邑大旱 歲狀如僮啜如 歲出東海今江東水中 有之食無疫疾		金玉上 青碧石
218		勃莖之山		無水		無草木				
219		番條之山		瀘水北流注海		無草木		鱗鱗鱗		沙
220		姑兒之山		姑兒之水北流注海		漆上 桑下 柘		魚感魚		
221		高氏之山		諸繩之水東流注澤						玉上 藏石下爲磁針 金(水中) 玉

	東山經卷四						
	山	系	所在	水系	植	動物	礦物
222 第五圖	嶽山			灤水東流注澤	桑上 樺下		金(水中) 玉
223	豺山			多水下	無草木上	獠獠之魚 如李父獸狀李父龍毛 音如呼見天下大水	
224	獨山			末塗之水東流注河		鼈鼈狀如黃蛇魚翼 出入有光見邑大水	金上 玉 美石下
225	泰山東嶽岱宗	今泰山奉高縣西北		環水東流注江		桐狗狀如豚有珠鳴自訃	玉上 金下 水玉(水中)
226	竹山 鍾于江			激水東南流注壑檀之水	無草木	氾羸(水中)	璠碧
227	東山經之首 自嶽山 至竹山					人身龍首神	
228	東山二經之首 空桑之山北臨 晨水東流注 南望沙陵西望 潞澤				出琴瑟材	幹幹狀如牛虎文音如 欽吟鳴自呌見天下大水	
229	曹夕之山			無水	穀下	多鳥獸	
230	澤華之山			澤華之水東流注激如之水		蜃珠蜃蚌也珠玉珠蚌屬	金上 白玉 白堊下
231 第七圖	葛山之尾南水 行五百里流沙 三百里				無草木		砥石礪
232	葛山之首			澧水東流注余澤	無草木	藻藻狀如肺有目六 足有珠味甘食無 癆魚之美	
233	餘莪之山			雜余之水東流注黃水	杼上 柎下 荊下 芑	狻狻狀如菴鳥喙臨 目蛇尾見人服伴死 鳴自訃見竊竊為敗	

東山經 卷四		所在	水系	植物	動物	鑛物
234	山系					
第廿七圖 235	杜父之山 獸山		多水	無草木	大蛇 朱獮狀如狐。魚翼。鳴自計。見國有恐。	水碧 水玉之類。
236	盧其之山		沙水南流注滂 求	無草木	鷲鵠狀如鴛鴦。人足。鳴自計。見國多土功。	沙石。
237	姑射之山		多水	無草木		
238	北姑射之山 南水行三百里。 流沙			無草木		多石
239	南姑射之山		多水	無草木		
240	碧山			無草木	大蛇	碧水玉。
241	侯良之山 溪 良之山		原水東流注 沙澤。	無草木		金玉
242	姑逢之山			無草木	獾狀如狐。有翼。 音如鴻雁。見天下大旱。	金玉
243	臯麗之山				獾狀如狐。九尾九首。 虎爪。音如嬰兒。食人。	金玉 藏石。
244	石梁山 南臨礪 水。東望湖澤。				收收狀如馬。羊目。四角半尾。音如犂狗。見國多收。音收。音收。 黎鉤鳥狀如鼯鼠。尾甚。澄水。見國多疫。	
245	東次二經之首 自空桑之山 至石梁山				獸身人面神。	
246	東次三經之首 尸胡之山 北 望澤山			棘	黎胡狀如麋。魚目。鳴自計。	金玉
247	岐山 南水行 八百里。			桃李	虎	



東山經卷四	山系	所在	水系	植 物	動 物	鑛 物
248 第 五 圖	諸鉤之山 南水行五百里。			無草木	鯨魚	沙石
249	中父之山 南水行七百里。			無草木		沙
250	胡射之山 東水行千里。			無草木		沙石
251	孟水之山 南水行七百里。		有水碧陽	梓 桐 桃 李 菌 蒲	麋 鹿 鱧 鱒 鱒 似鱧長尾。無鱗甲。 鱒鱒。鱒。	
252	跋踵之山 南水行五百里。流沙行五百里。		有水涌。深澤	無草木	大蛇 蟻 蟻黃螞大龜。甲有文彩。似瑤瑁。 鯨 鯨之魚。狀如鯉。六足。鳥尾。鳴自叫。	玉上
253	海隅之山 南水行九百里。			多草木上赤者	精精 狀如牛。馬尾。鳴自叫。	金玉
254	無牟之山 南水行五百里。流沙三百里。南望幼海。少海。東望樛杪。多風。			無草木		
255 第 五 圖	東次三經之首 尸胡之山 至無牟之山				人身羊角神。見風雨。水敗。	
256	東次四經之首 北號之山 臨北海。		食水 東北流注海。	木 狀如楊。赤華實如棗。熱核。味酸甘。食不瘥。	獨狽 狀如狼。赤首鼠目。音如豚。食人。 ○ 龜雀 狀如雞。白首鼠足。虎爪。食人。	
257	旄山		蒼體之水 西流注辰水。	無草木	魚 魚蝦龜。狀如鯉。大首。食不泥。	
258	東始之山		泚水 東北流注海。	色木 狀如楊。赤理。汁如血。不實。可服。馬以汁塗。馬調良。	美貝 莖魚 狀如鮒。一首十身。臭如麝。食不積。	蒼玉上
259 第 五 圖	安流之山		石膏水 西注瀛海。	無草木	薄魚 狀如鱈魚。一目。音如歐。見天下大單。	

東山經卷四		所在	水系	植物	動物	鑛物
260 第 十 圖	欽山		脚水北流注卑澤		鱧魚 文具 當康狀如豚有牙鳴自叫見天下大鱧	金玉 無石
261	子桐之山		子桐之水西流注餘如之澤		鱧魚狀如魚有翼出以有光音如鴛鴦見天下大鱧	
262	新山				谷鼠狀如鼠人面黃赤尾音如嬰兒食人食蟲蛇見天下大水	金玉
263	大山		鉤水北流注勞水	槲木女榘葉冬不凋	蜚狀如牛白首一目蛇尾行水鳴行草死見天下大瘖魚魚	金玉
264	東次四經之首 自北號之山 至大山					
中山經卷五						
265 第 十 圖	薄山之首首蒙之山		共水西流注河	粗木 澤草發木香葉 黃華實可已瘖	蒙能狀如獸文題食已瘖	
266	歷兒之山			槲 瀾木發買葉黃華毛實如棗子如指頭白黏以浣衣服不忘		
267	滌者之山		滌者之水南流注河	竹	蒙魚狀如鮪似鱧赤喙尾赤羽可已白癩	
268	蔥嶺之山		大谷			白堊 黑青黃堊
269	海山					赤銅 鐵(陰)
270	脫扈之山			植楮草狀如葵葉赤華實如棗葉似以早英可已瘖		
271	金星之山					天藥狀如龍骨可已瘖

中山經卷五						
山	系	所在	水系	植	物	礦
272 第 三 十 圖	秦威之山		巢谷			鐵
273	檀谷之山 檀谷之山					赤銅
274	吳林之山			蕨草		
275	牛首之山	今長安西南牛首山未知是非。	伊水西流注滴 <small>伊</small> 梨	鬼草葉如葵赤莖秀如木服不憂。	鳴魚狀如鮪魚食已持衡	
276	鑿山			穀	胎胎狀如狸日尾蠶養之可已憂。	
277	合谷之山			蔞棘		
278	陰山 陰山		少水	蔞葉如榆葉方實如赤菽食已聾		礪石 文石
279	鼓鑿之山			榮草葉如柳木如雞卵食已風		赤銅
280	薄山之首 自甘栗之山 至鼓鑿之山 歷兒冢					
281	中次之經 濟山 之首 燁諸之山				蘭麝 鷄似雉大青色有毛勇健關死止。	
282	發視之山		即食之水西流注伊水			金玉 砥礪
283	豪山			無草木		金玉
284	鮮山		鮮水北流注伊水	無草木	鳴身它狀如蛇四翼音如磬見邑大旱。	金玉
285	陽山		陽水北流注伊水	無草木	化身它狀如人面豹身鳥翼蛇行音如叱呼見邑大水。	多石
286 三 十 圖	昆吾之山				鸞羝狀如羝有角音如馬鹿食不眠	赤銅上昆吾之鐵

	中山經卷五						
	山	系	所 在	水 系	植 物	動 物	鐘 物
287	第 三 十 三 圖 蘇山			蕪水北流注伊水	芒草狀如葉赤葉可煮魚		金 <sub>上</sub> 玉 青雄黃 <sub>下</sub>
288	獨蘇之山			多水	無草木		
289	蔓渠之山			伊水東流注洛今伊水出上洛盧氏縣熊耳山東北至河南洛陽縣入洛	竹箭	馬腹狀人面虎首音如擊兒食人	金 <sub>上</sub> 玉
290	濟山經之首 自澤諸之山 至蔓渠之山					人面鳥身神	
291	中次三經實山 之首殺聲之山 北望河林				(草木)狀如箭如擊	神靈池 夫諸狀如白鹿四角見邑大水	璿璣之玉(陽) 赤黃金(陰) 美玉(山)
292	青要之山帝之密都北望河曲南望澤清禹父之所化歸北狩淵為黃能宜女子			蕪水北流注河	荀草狀蕪似菜方莖黃華青實本如蕪本眼似蕪青草苞草眼美人色	鳧息 僕紫蝸牛 蒲蘆蝶鈴 武羅狀人面豹文小要白齒貫穿耳以鐘鳴如鳴玉如鳴玉佩聲 鸞狀如鳥青身朱目赤尾赤淺赤食宜子	
293	驪山			正回之水北流注河	美粟	飛魚狀如豚赤文腹不畏雷可禦兵	璿璣之玉(陰)
294	第 三 十 四 圖 宜蘇之山			瀟瀟之水北流注河	蔓居之木	黃貝	金 <sub>上</sub> 玉
295	和山又曲			河之九都九水所滌九水合北流注河	無草木 <sub>上</sub>	吉神泰逢狀如人虎尾卷尾居首山之陽出入有光動天地氣	璿璣 蒼玉(水中)
296	實山之首 自殺聲之山 至和山					(祠)泰逢靈池武羅	
297	中次四經釐山 之首鹿蹄之山			甘水北流注洛			玉 <sub>上</sub> 金 <sub>下</sub>

明・蔣應鑄畫『山海經』

中山經卷五	所 在	水 系	植 物	動 物	鑛 物
297 298 扶荔之山		瀧水北流注洛		麇狀如貉藏人且	冷石(水中) 石屬山上今屬門山 中出石屬石自若如 水中有赤色 鑛石(水中)
299 釐山		瀧水南流 注伊水		澤菜狀如牛蒼身音如嬰 兒食人 獺狀如獺犬有鱗毛如 鼠鬣	玉(陽) 菟(陰)茅菟蒲草
300 箕尾之山			穀		漆石 薄瑀之玉
301 柄山		滔離之水北流 注洛	芡狀如檉葉如桐 莢實可食魚芡一作艾	藏羊	玉上 銅下
302 白邊之山					金上 玉 青雄黃
303 熊耳之山	今上洛縣南	浮濠之水西流 注洛	漆上 稷 葍草狀如蘇赤華 可毒魚	人魚	水玉
304 柢山			竹箭 竹籊	牝牛 藏羊 赤鷩鷩雉	文石上
305 鑿鑿之山(山者 洛關也)		谷水東北流注 玄扈之水洛水今 出上洛縣冢嶺山 玄扈洛水謂此關		馬腸之物	
306 釐山之首 自鹿蹄之山 至玄扈之山				人面獸身神	
307 中次五經薄山之 首荀林之山荀 林山			無草木		怪石似玉鉛松 怪石也
308 首山		柢谷(陰)	穀 柞	鷩鳥狀如鳥三日有耳音 如錄食已變	瑋瑋之山(陽)

中山經卷五						
山	系	所	在	水	系	植 物 動 物 鑛 物
308 第廿三圖						山藟 堇華中藥 槐(陽)
309	縣斷之山					無草木 文石
310	鬲鬲之山					無草木 矦石
311	條谷之山					槐 桐 芍藥 蠶冬滿冬
312	超山			井(陽) 有水(各)竭(陰)		蒼玉(陰)
313	成侯之山					櫟木 <small>櫟上似櫟樹冲草</small> 賴 凡草
314	朝歌之山					美玉(谷中)
315	槐山					金(谷中) 錫
316	歷山					槐 玉(陽)
317	尸山			尸水南流注洛水		麋似鹿小黑色 蒼玉 美玉(水中)
318	良餘之山			餘水出其陰北流注河 乳水出其陽東南流注洛		穀 上 柞
319	蠶尾之山			龍餘之水東南流注洛		加鷹石 赤銅
320	弁山			黃酸之水北流注河		穀 柞 楸 藜 藜 藜 藜 寇脫 <small>隗生南方高丈許似荷葉莖中有穀似正白</small>

中山經卷五	系	所在	水系	植物	動物	鎮物
321 第三圖	陽虛之山 臨玄扈洛河		臨玄扈之水			金
322	薄山之首 自荀林之山 至陽虛之山 升山冢				首山魍	
323 第四圖	中次六經 縞羆山之首 平逢之山南望 伊洛東望穀 城之山在濟 北穀城縣西黃 石公石在山下		無水	無草木	騎蟲為螭狀如人 二首蜂窠之腹	多沙石
324	縞羆之山			無草木		金玉
325	厲山		管谷(山西) 交龍之水出陽 南流注洛 管隨之水出陰 北流注穀水	柳楮	鷓鴣狀如山雞長尾赤 如丹火青喙鳴自呼眼 不昧	持璋之玉(陰)
326	瞻諸之山		澗水東南流注 洛 少水出陰東流 注穀水蕩澗			金(陽) 文石(陰)
327	蔓涿之山		瞻水出陽東流 注洛 服水出陰北流 注穀水	無草木		金 玉 荒石(水中) 文石
328	白石之山		惠水出陽南流 注洛 澗水出陰伊洛 澗澗西北流 注穀水			水玉(水中) 麋石(水中) 楹升
329	穀山		蕘水出麻澗西 北流注穀水	穀上 桑下		碧綠
330	窞山		蕘水南流注 洛	無草木	旋龜狀如鼈尾音如 判木	玉(陽) 鐵(陰)

中山經卷五	山系	所在	水系	植物	動物	鑛物
331 第三四圖	長石之山		共谷(山西) 共水西南流注洛	無草木 竹(共谷)		金玉 鳴石(水中)襄陽郡鳴石似玉色青撞擊聞七八里今零陵泉陵縣永正鄉鳴石二所一狀如鼓石鼓
332	博山(博山) (山西林)		麻梁之水出陽南流注洛 穀水東流注洛出穀陽谷東北至穀城縣入洛河	無草木	人魚	瑤碧瑠璃
333	蘆山		蘆水北流注河	櫛楠木今蜀中有櫛木七八月中吐櫛蕭蒿	脩辟之魚狀如鼉蚌烏白喙音如鷓食已白癩	金(陽) 玉 鐵
334	常燕之山		漁水東北流注河 蓄水北流注河	無草木		聖麇
335	夸父之山 桃林今弘農湖縣關鄉南谷中鏡野馬山羊山牛		湖水北流注河	稷稗竹箭	牝牛羴羊鷲馬	玉(陽) 鐵(陰) 瑠璃(河中)
336	陽華之山		楊水西南流注洛 門水東北流注河 緡姑之水出陰東流注門水 門水出河入緡水	諸藥 苦辛狀如櫛椒實如瓜味酸甘食已瘡	人魚(水中)	金(陽) 玉 黃壤黃(陰) 黑砥石(水中) 銅
337	縞巖山之首 自半達之山 至陽華之山					
338	中次七經 苦山之首 休與與之山			夙條狀如蒼赤葉本叢生可為蔭		帝臺之棋石帝臺神人名五色之狀如鷄眼履百神



中山經卷五	山系	所在	水系	植	物	動物	鑛物
338 卷五 四圖	鼓鍾之山 帝臺之陽百神			葛 <sup>43</sup> 為酸 <sup>44</sup> 方蓬 <sup>45</sup> 黃華 <sup>46</sup> 負葉 <sup>47</sup> 三成 <sup>48</sup> 連 <sup>49</sup> 可為 <sup>50</sup> 李			服不 <sup>51</sup> 蠱 石厲 <sup>52</sup> <sub>上</sub> 石砥 <sup>53</sup> <sub>下</sub>
340	姑媯之山			蒼草 <sup>54</sup> 女 <sup>55</sup> 化 <sup>56</sup> 葉 <sup>57</sup> 青 <sup>58</sup> 成 <sup>59</sup> 葉 <sup>60</sup> 相 <sup>61</sup> 重 <sup>62</sup> 華 <sup>63</sup> 黃 <sup>64</sup> 實 <sup>65</sup> 如 <sup>66</sup> 菟 <sup>67</sup> 丘 <sup>68</sup> 葉 <sup>69</sup> 綠 <sup>70</sup> 服 <sup>71</sup> 媚 <sup>72</sup> 人 <sup>73</sup> 荒 <sup>74</sup> 夫 <sup>75</sup> 草	女尸 <sup>76</sup> 帶 <sup>77</sup> 死		
341	茗山			黃 <sup>78</sup> 楝 <sup>79</sup> 上 <sup>80</sup> 黃 <sup>81</sup> 華 <sup>82</sup> 負 <sup>83</sup> 葉 <sup>84</sup> 實 <sup>85</sup> 如 <sup>86</sup> 蘭 <sup>87</sup> 服 <sup>88</sup> 不 <sup>89</sup> 字 <sup>90</sup> 熱 <sup>91</sup> 條 <sup>92</sup> 服 <sup>93</sup> 不 <sup>94</sup> 藥	山 <sup>95</sup> 青 <sup>96</sup> 獸 <sup>97</sup> 狀 <sup>98</sup> 如 <sup>99</sup> 豕 <sup>100</sup> 豚 <sup>101</sup> 赤 <sup>102</sup> 若 <sup>103</sup> 丹 <sup>104</sup> 火 <sup>105</sup> 善 <sup>106</sup> 嘗		
342	堵山		怪風雨	天 <sup>107</sup> 橋 <sup>108</sup> 方 <sup>109</sup> 莖 <sup>110</sup> 嬰 <sup>111</sup> 狀 <sup>112</sup> 服 <sup>113</sup> 不 <sup>114</sup> 噎	神 <sup>115</sup> 天 <sup>116</sup> 憑		
343	放效 <sup>117</sup> 枝 <sup>118</sup> 單 <sup>119</sup> 之 <sup>120</sup> 山		明水南流注伊水	蒙 <sup>121</sup> 木 <sup>122</sup> 葉 <sup>123</sup> 如 <sup>124</sup> 槐 <sup>125</sup> 葉 <sup>126</sup> 華 <sup>127</sup> 不 <sup>128</sup> 實 <sup>129</sup> 服 <sup>130</sup> 不 <sup>131</sup> 蠱	文 <sup>132</sup> 獸 <sup>133</sup> 狀 <sup>134</sup> 如 <sup>135</sup> 蜂 <sup>136</sup> 枝 <sup>137</sup> 尾 <sup>138</sup> 及 <sup>139</sup> 舌 <sup>140</sup> 善 <sup>141</sup> 呼		蒼 <sup>142</sup> 玉 <sup>143</sup> (中)
344	大苦之山		陽狂水西南流注伊水	牛 <sup>144</sup> 傷 <sup>145</sup> 草 <sup>146</sup> 狀 <sup>147</sup> 葉 <sup>148</sup> 如 <sup>149</sup> 榆 <sup>150</sup> 方 <sup>151</sup> 莖 <sup>152</sup> 若 <sup>153</sup> 傷 <sup>154</sup> 根 <sup>155</sup> 蒼 <sup>156</sup> 文 <sup>157</sup> 服 <sup>158</sup> 不 <sup>159</sup> 疾 <sup>160</sup> 逆 <sup>161</sup> 氣 <sup>162</sup> 病 <sup>163</sup> 可 <sup>164</sup> 禦 <sup>165</sup> 兵	三 <sup>166</sup> 足 <sup>167</sup> 龜 <sup>168</sup> 夕 <sup>169</sup> 矣 <sup>170</sup> 與 <sup>171</sup> 陽 <sup>172</sup> 羨 <sup>173</sup> 縣 <sup>174</sup> 志 <sup>175</sup> 山 <sup>176</sup> 上 <sup>177</sup> 池 <sup>178</sup> 水 <sup>179</sup> 中 <sup>180</sup> 有 <sup>181</sup> 三 <sup>182</sup> 足 <sup>183</sup> 六 <sup>184</sup> 眼 <sup>185</sup> 龜 <sup>186</sup> 鼈 <sup>187</sup> 龜 <sup>188</sup> 三 <sup>189</sup> 足 <sup>190</sup> 者 <sup>191</sup> 食 <sup>192</sup> 無 <sup>193</sup> 大 <sup>194</sup> 疾 <sup>195</sup> 可 <sup>196</sup> 已 <sup>197</sup> 腫	璿 <sup>198</sup> 璠 <sup>199</sup> 之 <sup>200</sup> 玉 麤 <sup>201</sup> 玉	
345	半石之山		來需之水出陽西流注伊水合水出陰北流注洛	嘉 <sup>202</sup> 榮 <sup>203</sup> 草 <sup>204</sup> 生 <sup>205</sup> 秀 <sup>206</sup> 高 <sup>207</sup> 丈 <sup>208</sup> 餘 <sup>209</sup> 赤 <sup>210</sup> 葉 <sup>211</sup> 亦 <sup>212</sup> 華 <sup>213</sup> 不 <sup>214</sup> 實 <sup>215</sup> 服 <sup>216</sup> 不 <sup>217</sup> 寢 <sup>218</sup> 畏 <sup>219</sup> 齒 <sup>220</sup> 露 <sup>221</sup> 瘰	鱸 <sup>222</sup> 魚 <sup>223</sup> 黑 <sup>224</sup> 文 <sup>225</sup> 狀 <sup>226</sup> 如 <sup>227</sup> 鮐 <sup>228</sup> 食 <sup>229</sup> 不 <sup>230</sup> 睡 <sup>231</sup> 鱸 <sup>232</sup> 魚 <sup>233</sup> 狀 <sup>234</sup> 如 <sup>235</sup> 鮐 <sup>236</sup> 居 <sup>237</sup> 達 <sup>238</sup> 魚 <sup>239</sup> 脈 <sup>240</sup> 魚 <sup>241</sup> 大 <sup>242</sup> 口 <sup>243</sup> 大 <sup>244</sup> 目 <sup>245</sup> 細 <sup>246</sup> 鱗 <sup>247</sup> 班 <sup>248</sup> 彩 <sup>249</sup> 蒼 <sup>250</sup> 文 <sup>251</sup> 赤 <sup>252</sup> 尾 <sup>253</sup> 食 <sup>254</sup> 不 <sup>255</sup> 蠱 <sup>256</sup> 可 <sup>257</sup> 為 <sup>258</sup> 瘰		
346	少室之山 <sup>259</sup> 今 <sup>260</sup> 河南 <sup>261</sup> 陽 <sup>262</sup> 城 <sup>263</sup> 西 <sup>264</sup> 泰 <sup>265</sup> 室		休水北流注洛	百 <sup>266</sup> 草 <sup>267</sup> 木 <sup>268</sup> 成 <sup>269</sup> 因 <sup>270</sup> 帝 <sup>271</sup> 休 <sup>272</sup> 木 <sup>273</sup> 葉 <sup>274</sup> 狀 <sup>275</sup> 如 <sup>276</sup> 楊 <sup>277</sup> 枝 <sup>278</sup> 立 <sup>279</sup> 衝 <sup>280</sup> 樹 <sup>281</sup> 枝 <sup>282</sup> 交 <sup>283</sup> 錯 <sup>284</sup> 相 <sup>285</sup> 重 <sup>286</sup> 又 <sup>287</sup> 出 <sup>288</sup> 黃 <sup>289</sup> 華 <sup>290</sup> 黑 <sup>291</sup> 實 <sup>292</sup> 服 <sup>293</sup> 不 <sup>294</sup> 怒	魚 <sup>295</sup> 鱈 <sup>296</sup> 狀 <sup>297</sup> 如 <sup>298</sup> 鱈 <sup>299</sup> 長 <sup>300</sup> 距 <sup>301</sup> 足 <sup>302</sup> 自 <sup>303</sup> 對 <sup>304</sup> 食 <sup>305</sup> 無 <sup>306</sup> 蠱 <sup>307</sup> 可 <sup>308</sup> 禦 <sup>309</sup> 兵		玉 <sup>310</sup> 上 <sup>311</sup> 山 <sup>312</sup> 巖 <sup>313</sup> 有 <sup>314</sup> 白 <sup>315</sup> 玉 <sup>316</sup> 魯 <sup>317</sup> 服 <sup>318</sup> 之 <sup>319</sup> 得 <sup>320</sup> 仙 <sup>321</sup> 道 <sup>322</sup> 金 <sup>323</sup> 鐵 <sup>324</sup> <sub>下</sub>
347	泰室之山 <sup>325</sup> 中 <sup>326</sup> 嶽 <sup>327</sup> 嵩 <sup>328</sup> 高 <sup>329</sup> 山 <sup>330</sup> 今 <sup>331</sup> 陽 <sup>332</sup> 城 <sup>333</sup> 縣 <sup>334</sup> 西			有 <sup>335</sup> 木 <sup>336</sup> 葉 <sup>337</sup> 狀 <sup>338</sup> 如 <sup>339</sup> 椶 <sup>340</sup> 赤 <sup>341</sup> 理 <sup>342</sup> 服 <sup>343</sup> 不 <sup>344</sup> 如 <sup>345</sup> 蒼 <sup>346</sup> 草 <sup>347</sup> 狀 <sup>348</sup> 如 <sup>349</sup> 龍 <sup>350</sup> 以 <sup>351</sup> 斷 <sup>352</sup> 自 <sup>353</sup> 華 <sup>354</sup> 黑 <sup>355</sup> 實 <sup>356</sup> 澤 <sup>357</sup> 如 <sup>358</sup> 藥 <sup>359</sup> 煎 <sup>360</sup> 服 <sup>361</sup> 不 <sup>362</sup> 味			美 <sup>363</sup> 石 <sup>364</sup> <sub>上</sub>
348	講山			石 <sup>365</sup> 栢 <sup>366</sup> 帝 <sup>367</sup> 屋 <sup>368</sup> 木 <sup>369</sup> 葉 <sup>370</sup> 狀 <sup>371</sup> 如 <sup>372</sup> 椶 <sup>373</sup> 反 <sup>374</sup> 傷 <sup>375</sup> 刺 <sup>376</sup> 肉 <sup>377</sup> 赤 <sup>378</sup> 實 <sup>379</sup> 可 <sup>380</sup> 禦 <sup>381</sup> 兵			玉 <sup>382</sup> <sub>上</sub>

中山經 卷五		系	所	在	水	系	植	物	動	物	鑛	物
349	嬰梁之山										蒼玉 <small>上</small> 鑛 <small>石</small> 或石 蒼玉 <small>上</small> 依石生 或鑛 <small>石</small> 樂器名 形似推頭	
350	浮戲之山				汜水北流注 河 蛇谷東谷出蛇		木葉狀如檉赤 實食不蠹 少辛 <small>上</small> (山椒)					
351	少陘之山				器難之水北 流注役水		闊草葉狀如葵赤莖 白華實如蓂食不 愚 <small>人</small> 智					
352	大山				太水出陽東南 流注役水禮水 承水出陰東北 流注役靖湖水		梨單葉狀如菽青赤 華可已直					
353	末山				末水北流注 役水經作液 <small>水</small>						赤金 <small>上</small>	
354	役山				役水北注河						白金 <small>上</small> 鐵	
355	敏山						刺柏狀如荆白華 赤實 <small>服</small> 不瘳					
356	大馬鬼之山 <small>今梁 陽密縣大馬山 驪園溝水所出</small>						猿華狀如蒼毛青華 白實 <small>服</small> 不火盡毒				鐵 美玉 青莖	
357	苔山之首 自休輿之山 至大馬鬼之山								豕身人面十六神 人面三首神			
358	中次八經 荆山之首景山 今南郡陽中				雎水東南流注 江 <small>雎水出新城 魏昌縣東南蔡河 山東南至南郡 江縣入江</small>	杼 檀 丹衆		文魚有斑彩			金 <small>上</small> 玉	
359	荊山 <small>今新城 沭鄉縣南</small>				漳水東南流注 雎 <small>出荆山至 南郡當陽縣入 沮水</small>	松 柏 竹 橘 楸 <small>似橘大皮厚味酸</small>		犛牛 <small>犛牛屬黑色出西南徼</small> 麋 豹 虎 魚 <small>魚類</small> 珠文聖 尾末有毒螫人			鐵 <small>(陰)</small> 赤金 <small>(陽)</small> 黃金 閭 <small>閭似鹿大</small>	

明・蔣應鑄畫『山海經』

中山經卷五	山系	所在	水系	植 物	動 物	鑲 物
360 (第三十五圖)	騶山		淮、漳之淵	松柏 桃枝 鉤端	神羆圍狀如人面羊身虎爪遊淮漳之淵出入有光	玉 <sub>上</sub> 青瓊 <sub>下</sub>
361	女儿之山				豹 虎 閭 康 麋 麋 似獐大, 佷毛豹脚 白鶴 <small>似大雉長尾, 走且鳴</small> 翟 鴝 <small>大如鸚, 紫綠色長頸赤喙食穀蛇頭, 雄名暹日, 雌名陰諧</small>	玉 <sub>上</sub> 黃金 <sub>下</sub>
362	宜諸之山	南郡湖北省江陵 華容縣湖北省監利西北	澧水南流注漳今澧水出南郡東澧山至華容縣入江			金 <sub>上</sub> 玉 青瓊 白玉(水中)
363	綸山			梓 栉 桃枝 祖 <small>似植酢瀟</small> 栗 楠 櫟	閭 麋 麋 似死鹿脚青色	
364	陸渚之山			楛 檀		璆 <sub>浮之玉</sub> <sub>上</sub> 璆 <sub>下</sub>
365	光山			多木 <sub>下</sub>	神計蒙狀人身龍首遊漳淵出入有飄風暴雨	碧 <sub>上</sub>
366	岐山			檜	神涉羆狀人身方面三足	赤金(陽) 白瓊(陰)似玉 金 <sub>上</sub> 玉 青瓊

中山經 卷五		山	系	所	在	水	系	植	物	動	物	鑛	物
367	銅山							穀 柞 祖 栗 楠 蘇		豹		金 <sup>上</sup> 銀 鐵	
368	美山									閭 麇 兕 牛 豕 鹿		金 <sup>上</sup> 青 腹 <sub>F</sub>	
369	大堯之山							松 柏 梓 桑 机 竹		豹 虎 麇 麋			
370	靈山							桃 李 梅 杏 <sup>似杏酸</sup>				金 <sup>上</sup> 玉 青 瓊	
371	龍山							寓木宛童寄生 桃枝草→ <sub>36</sub> 鉤端→ <sub>36</sub>				碧 赤 錫	
372	衡山							寓木 穀 柞				黃 白 堊	
373	石山							寓木				金 <sup>上</sup> 青 腹	
374	若山							寓木 楛				摯 <sup>浮之玉</sup> 摯 <sup>赤土</sup> 摯 <sup>石</sup>	
375	舜山							柘				美石	
376	玉山							柏 楸				金 碧 鐵	

中山經卷五	山系	所在	水經	植物	動物	鑛物
377 第廿六圖	謹山		郁水出於潛其下	檀		鄧石 → 374 白錫 白鐵 砥礪 (水中) → 222
378	仁舉之山			穀柞		赤金 (陽) 赤精 (陰)
379	師每之山			柏 檀 栝 竹		砥礪 (陽) 蒼瓊
380	琴鼓之山			穀柞 椒 <small>小葉生下有棘蘇</small> 柘	豕 鹿 白犀 鳩 → 361	白珉 上 → 366 流石 下 → 43
381	荆山之首 自象山 至琴鼓之山				神鳥身人面	
382	中次九經 岷山之首 女几 之山		洛水東注江	柎 檀 菴 菜 → 308	虎 豹	石望 → 61 雄黃 (水中)
383	岷山 今汶山 郡廣陽縣西大 江所出	廣陽縣 四川省藏 族自治区茂縣西 北	江水東北流注 海 至廣陽縣入 海	梅棠	良通 ○ 羅似於折蟻大者長二丈有 鱗彩波可冒鼓 犀象 麋牛 今蜀山中大半重數千 斤名麋牛 魏 翰自翰 鷲赤鷲	金玉 上 日珉 下
384	涑山 瑯琊山 今漢縣嚴道縣南 江水所出 有九折 坂	嚴道縣 四川省藏 族自治区榮經	江水東流注 大江	檀 栝 籬 菲 葍 葍	豹似熊黑自駝 食銅鐵 麋 麀 空 奪 蛇 皮 脫	黃金 (陽)



明・蔣應鑄畫『山海經』

中山經卷五	系	所在	水系	植 物	動 物	鑛 物
392 第廿六圖	風雨之山		宣余之水東流注江。	楸 <small>木未詳</small> 檉 <small>木白理中楸</small> 楊	蛇(水中) 閭 麋 麇 豹 虎 白鷄 <small>→361</small>	白金 <small>上</small> 石涅 <small>下→67</small>
393	玉山			豫章 <small>→74</small> 楸 枳	豕 鹿 麋 異 <small>→363</small> 鵠	銅(陽) 赤金(陰)
394 第廿七圖	熊山有穴熊之穴出神人夏啓冬則冬啓有兵。			檉 柳 蘧 <small>鹿草→320</small>		白玉 <small>上</small> 白金 <small>下</small>
395	槐山			桃枝 荆 芭		美玉(陽) 赤金 鐵
396	葛山			粗 <small>→363</small> 栗 楸 楸 楸 枳 嘉榮 <small>草→345</small>	麋 兔	赤金 <small>上</small> 珉石 <small>上</small> 玳瑁 <small>石似玉</small>
397	賈超之山			粗 栗 楸 楸 龍脩 <small>龍須似莞細生山石穴中莖倒垂可為席。</small>		黃璽(陽) 美赭(陰)
398	眠山之首自女儿山至賈超之山				神馬身龍首	
399	中次十經之首陽之山			無草木		金玉

中山經卷又	山系	所在	水系	植物	動物	礦物
400 第廿三圖	虎尾之山			椒 楛 → 129		封石 赤金(陽) 鐵(陰)
401	繁纒之山			穉 穉 枝勾 <small>今山中有此草</small>		
402	勇石之山		多水	無草木		白金
403	復州之山			檀	敗踵鳥狀如鴉一足絕尾見圓大疫一足似燕不為樂與來悲	黃金(陽)
404	猪山 渚州之山			寓木 → 377 椒 楛 → 129 柘		璽
405	又原之山				鸛鷓	菁蘄(陽) → 8 鐵(陰)
406	涿山			穀 柞 柎		璆瑋之玉 → 66
407	丙山			梓 檀 菹 菹		
408	首陽山之首 自首山 至丙山				神龍身人面	
409	中次十一山經 荆山之首翼望 之山		滹水 <small>東流注濟</small> 今流水逕南陽穰縣入清水 颯水 <small>東南流注漢</small>	松 <small>上</small> 柏 漆 <small>下</small> 梓	蛟似蛇四脚小頭細頸白癩大者十數圍如如一二石甕吞人	赤金(陽) 珉(陰)
410	朝歌之山	無陽縣河南省	無水 <small>今南陽舞陽縣東南流注</small>	梓 梓 菹 菹 <small>草可毒魚殺魚</small>	人魚 麇 麇	



明・蔣應鑄畫『山海經』

山	系	所 在	水 系	植 物	動 物	鑛 物
441	帝園之山		帝園之水出其上，潛其下。		鳴蛇	璿珠之玉(陽) 鐵(陰)
442	視山		天并夏有水冬竭	韭上 桑(大井上)		美玉(大井上) 金玉
443	前山			楮似柞子可食冬夏生作屋柱難腐。 柏		金(陽) 赭(陰)
444	豐山		清冷水在西號交縣山下。	穀柞 柞 柞	雍和狀如蝮赤日赤喙黃兼見圖犬惡。 神耕文章遊清冷之淵出入有光神來時水亦光耀見圖敗。	九鍾知雷鳴 金上 穀
445	兔林之山			諸藥水 雞穀(本根)如雞卵味酸甘食和人		鐵(陽)
446	皮山			松柏		璽赭
447	瑤碧之山			梓楸	鴻狀如雉食蜚貝蟹非食蛇之鴻→361	青瑤→8 白金
448	支離之山		濟水南流注漢今濟水出麗陽縣西北山中南入漢。		嬰 <sup>嬰</sup> 狀如鶴赤日赤喙日身尾若勺似酒勺形鳴自呼 柞牛 藏羊	
449	秩簡之山			松柏 机 柞葉似柳皮黃不措子似棟着酒中飲辟惡氣流衣去垢核堅正黑可開香藥一名柞櫟		
420	董理之山			松柏 美梓	豹 虎狀如鶴青身自喙自音耕日自尾可禦疾鳴自	青瑤→37 金

中山經卷五	系	所	在	水	系	植	物	動	物	鑛	物
421 第三圖	依軛之山					柎	檀宜	獬豸狀如犬虎爪有甲體有鱗甲馬狀羊跳躍自撲食不風不畏天風。			
422	卽谷之山							玄豹黑豹今荊州山中出黑虎 閻崖 → 352 鷹崖 → 363 鷹崖 → 363	美玉 璆(陽) 菁履		
423	雞山					美梓	桑 韭				
424	高前之山			帝臺之漿	寒清飲不比露。					金上 楮下	
425 第三圖	游戲之山					柎	檀穀			玉 封石	
426	從山			從水出其上	潛其下。	松上 柏下 竹下		三足鼈枝尾名能食無蟲疫。			
427	嬰履之山					松上 柏下 梓下 檀下 → 313					
428	畢山			帝苑之水	東北流注視。			蛟 → 409		水玉(水中) 璆璠之玉	
429	樂馬之山							猴狀如猿赤丹文見國大疫。			
430	崑山	南陽今河南省南陽市		視水	觀水今在南陽東南流注汝水			人魚 蛟 頭如青狗			
431	嬰山									菁履下 金 玉上	

明・蔣應鑄畫『山海經』

中山經卷五	山系	所在	水系	植物	動物	礦物
432 卷五(圖)	虎首之山			蕉 →421 檳榔		
433	嬰侯之山					封石 <sub>上</sub> 赤錫 <sub>下</sub>
434	大觀之山		殺水東北流注視水			白堊(水中)
435	卑山			桃李 直梓 粟 <small>今虎豆</small> 狸豆 <small>今扁豆</small> 石膝		
436	倚帝之山				狸 <small>鼠</small> 狀如鼯鼠 <small>鼠</small> 惟說鼠十三種中有此鼠。耳耳白。喙見國大兵。	玉 <sub>上</sub> 金 <sub>下</sub>
437	鯨兒山		鯨兒水出其上潛其下。			美堊(水中) 金 <sub>上</sub> 青瓊
438	雅山		澧水今出南陽東流注視水。	美桑 <sub>上</sub> 苴 <sub>下</sub>	大魚	赤金
439	宣山		淪水東南流注視水。	桑 <sub>上</sub> 大五丈圍五丈。枝四圍 <small>或三四出</small> 葉尺餘。亦理黃華。青樹。帝女之桑。婦女主蠶。故名桑。	蛟	
440	衡山在衡陽湘南縣。南岳。响灑山。	湘南縣 湘南看湘潭之西。		桑	鸚鵡 <small>→405</small>	青瓊 <sub>上</sub>
441	豐山			桑 羊桃狀如桃方莖。鬼桃。可為皮張。		封石 <sub>上</sub>
442	鼓山			雞穀 <small>單</small> →415		美玉 <sub>上</sub> 金 <sub>下</sub>

	中山經卷五	所在	水系	植物	動物	鑛物
443 (第三十八圖)	鮮山			楸 楸 <small>→421</small> 莖 <small>冬草</small>	獸狀如膜大赤 喙赤日尾。見邑有火。	金(陽) 鐵(陰)
444	章山童山		皋水東流注 澧水			金(陽) 美石(陰) 脆石
445	大支之山			穀 柞 無草木		金(陽)
446	區吳之山			苴		
447	聲匈之山			穀		玉 封石上
448	大龜之山 <small>→356</small>					赤金(陽) 砥石(陰)
449	灑日之山			無草木		
450	歷磨石之山			荆芑	渠狀如狸。白首虎爪 見國大兵	黃金(陽) 砥石(陰)
451	求山		求水出其上。潛 其下。	簞 簞 <small>篠屬</small>		美楮 金(陽) 鐵(陰)
452	女鴉之山			櫛 <small>→432</small> 櫛	鳥。餘狀如鳥赤足。可禦 火。	
453	輿山		輿水東流注 硯水	栢上 栢 檀		璿璣之玉
454	服山			苴		封石上 赤錫下
455	管山			嘉榮草上		金 玉
456	九山			楸 檀 楸 草多香	簡鱗狀如鏡。黃身白頭 白尾。見天下大風。	

	中山經卷五					
	山系	所在	水系	植物	動物	礦物
457 第十入圖	荆山之首 自翼望之山 至凡山				神彘身人首	
458	中次十二經 洞庭山之首 篇邁之山			無草木		黃金
459	雲山	桂陽縣廣東省 連縣		無草木 桂竹甚毒傷人必死。 今始興郡桂陽縣北 筰竹圍二尺長四丈。 交趾葉作實中勁強。 有毒銳刺虎中死。 此類。		黃金上 璆璠之玉下
460	龜山			穀 柞 擗 旒 扶竹擗竹高節實中 中枝。扶老竹。		黃金上 青雄黃
461	丙山			筰竹 無木		黃金 銅 鐵
462	風伯之山 莽浮之林東 有林			柳 柎 檀 楮 美木(林中)	鳥(林中) 獸	金上 玉 瘞石 文石 鐵
463	夫夫之山			桑 楮 竹 草 鷄 鼓	神于兒狀人身操兩蛇 遊江湖出入有光。	黃金上 青雄黃下
464 第十九圖	洞庭之山今長 沙巴陵縣西。洞 庭陂潛伏通江			粗 梨 橘 檉 菴 草	帝之二女天帝之二女處江 為神。江妃二女。湘夫人 帝堯女舜妃。死葬此。湘 君。遊江湖。漣沅之風 交瀟湘之淵在九江之間。	黃金上 銀下 鐵

中山經卷五		所 在	水 系	植 物	動 物	鑛 物
445 (第三十九圖)	山 系			蕨 <small>燕</small> 似蛇林香 藜 <small>藥</small> 芎 <small>藎</small>	九江今魯陽南。江自壽陽 分為九。東會大江。出入颯 風暴雨。 怪神狀如人戴蛇。左右 手操蛇。 怪鳥	
445	暴 山			檉 <small>柝</small> 色 荆 竹 箭 <small>箭</small> →441 楛 <small>楛</small> 類。	麋 鹿 麇 就 <small>鷓也</small> 。	黃金 <sub>上</sub> 文石 鐵
446 第三十八圖	即公之山			柳 扭 檀 桑	鳴 <small>危</small> 狀如龜。日身赤首可 禦火。	黃金 <sub>上</sub> 璫 <small>璫</small> 之玉 <sub>下</sub>
447 第三十九圖	堯 山			荆 <small>色</small> 柳 檀 <small>桑</small> 楛 <small>楛</small> 箭 <small>箭</small>		黃堊 <small>(陰)</small> 黃金 <small>(陽)</small>
448	江澤之山			無草木	豕 鹿	銀 <sub>上</sub> 砥 <small>砥</small>
449	真陵之山			穀 柞 柳 扭 榮 <small>草</small> →277		黃金 <sub>上</sub> 玉 <sub>下</sub>
470	陽帝之山			檀 扭 糜 <small>山桑</small> 楮	麋 麇	美銅
447	茶桑之山 <small>今海陽茶桑縣前。</small>	海陽茶桑縣今江 西省九江市。		柳 芎 藎	麋 鹿 日蛇	銀 <sub>上</sub> 碧 <sub>下</sub> 冷石

中山經卷之五	山系	所在	水系	植 物	動 物	鑛 物
471	共廬山相連			桑	飛蛇騰蛇乘霧飛	赤者 <sub>下</sub>
472	榮余之山			柳 芭	怪蛇(無) 怪蟲	銅 <sub>上</sub> 銀 <sub>下</sub>
473	洞庭山之首 自篇遇之山 至榮余之山				神鳥龍首	
474	禹曰天下名山 經五千三百七十 山。音五藏。出 水之山八千里。 受水者八千里。 出銅之山四百 六十七。出鐵之 山三千六百九十。 ○右五藏山經 五篇。					

山海經圖像目次



南山經 八卷之一 第一圖 二

南山經 八卷之一 第二圖 四



南山經

八卷之一 第三圖

六



南山經

八卷之一 第四圖

八





西山經

卷之二 第七圖

二



西山經

卷之二 第八圖

四





西山經

八卷之二 第十圖

十五



西山經

八卷之二 第十二圖

十九



西山經

卷之二 第十三圖

壬



西山經

卷之二 第十四圖

三丙





西山經

八卷之二 第十七圖

三



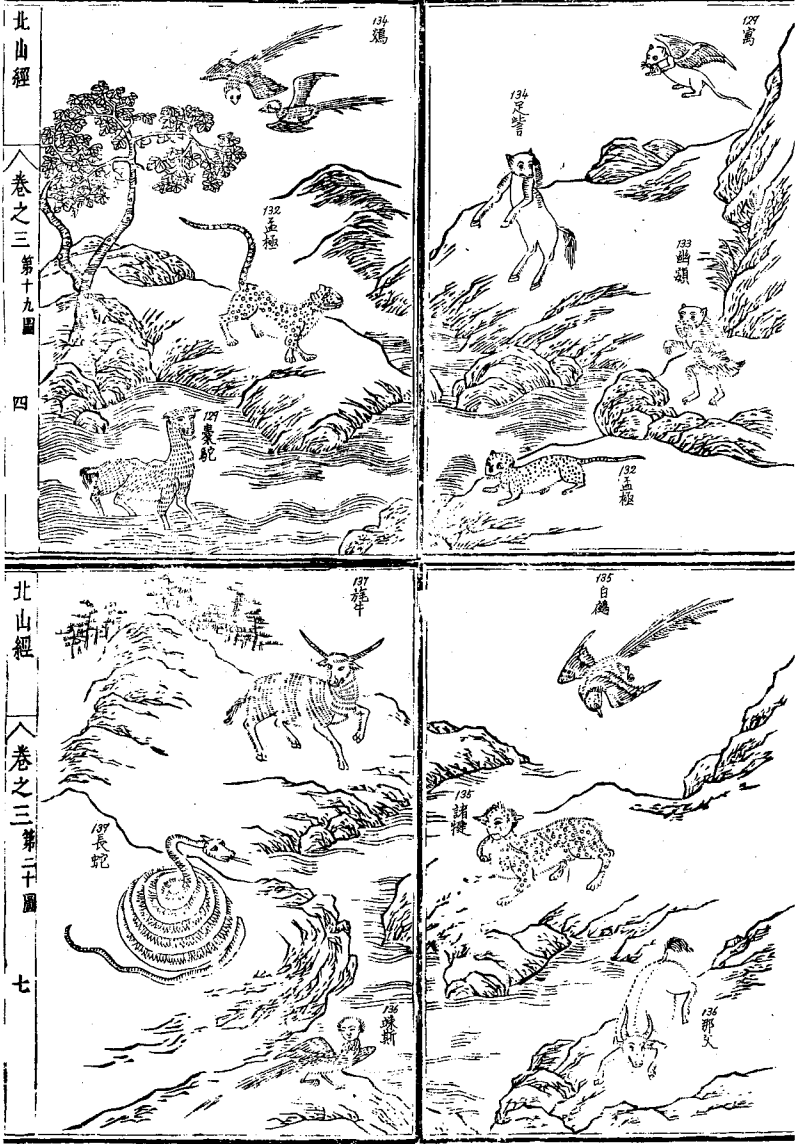
北山經

八卷之三 第十八圖

二







北山經  
 八卷之三第廿五圖  
 九



北山經  
 八卷之三第廿二圖  
 十





北山經

八卷之三 第三十圖

三西



東山經

八卷之四 第二十六圖

二



東山經

卷之四(第七圖)

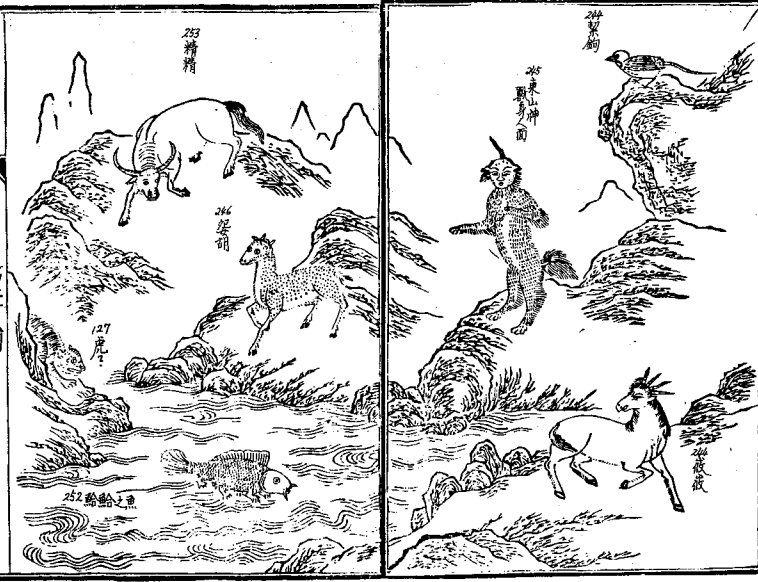
五

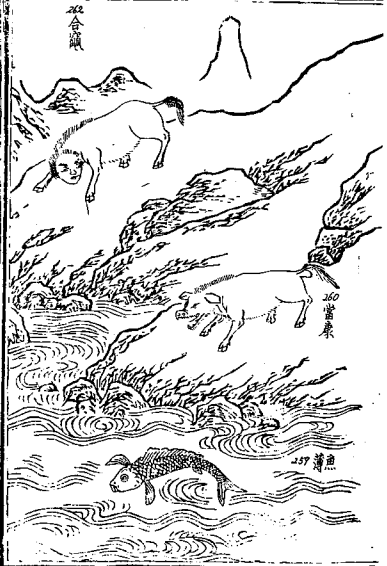


東山經

卷之四(第八圖)

八





中山經

卷之五 第三十圖

二



中山經

卷之五 第三十二圖

六







中山經

卷之五 第三十五圖

壬



中山經

卷之五 第三十六圖

壬







中山經

卷之五 第三十九圖

堅

帝女

山海經

山海經圖序

左傳曰昔夏氏之方有德也遠方圖物貢金九牧鑄鼎象物物物而為之備使

民知神姦入山林不逢不若魑魅魍魎莫能逢之此山海經之所由始也神禹既錫玄圭以成水功遂受

山海經圖序

左傳曰昔夏氏之方有德也遠方圖物貢金九牧鑄鼎象物物物而為之備使

序一

民知神姦入山林不逢不若魑魅魍魎莫能逢之此山海經之所由始也神禹既錫玄圭以成水功遂受

舜禪以家天下於是乎收  
九牧之金以鑄鼎鬲之象  
則取遠方之圖山之奇水  
之奇草之奇木之奇禽之

奇獸之奇說其形著其生  
別其性分其類其神奇殊  
彙駭視驚聽者或見或聞  
或恒有或時有或不必有

舜禪以家天下於是乎收  
九牧之金以鑄鼎鬲之象  
則取遠方之圖山之奇水  
之奇草之奇木之奇禽之

序二

奇獸之奇說其形著其生  
別其性分其類其神奇殊  
彙駭視驚聽者或見或聞  
或恒有或時有或不必有

皆一一書焉蓋其經而可  
守者具在禹貢竒而不法  
者則備在九鼎九鼎既成  
以觀萬國同彼象而魏之

序三

日使耳而目之脫輜軒之  
使重譯之貢績有呈焉固  
以為恒而不怪矣此聖王  
明民牖俗之意也夏后氏

皆一一書焉蓋其經而可  
守者具在禹貢竒而不法  
者則備在九鼎九鼎既成  
以觀萬國同彼象而魏之

序三

日使耳而目之脫輜軒之  
使重譯之貢績有呈焉固  
以為恒而不怪矣此聖王  
明民牖俗之意也夏后氏

之世雖曰尚忠而文反過  
于成周太史終古藏古今  
之圖至桀焚黃圖終古乃  
抱之以歸殷又史官孔甲

于黃帝姚姒盤孟之銘皆  
緝之以為書則九鼎之圖  
其傳固出于終古孔甲之  
流也謂之曰山海圖其文

之世雖曰尚忠而文反過  
于成周太史終古藏古今  
之圖至桀焚黃圖終古乃  
抱之以歸殷又史官孔甲

序四

于黃帝姚姒盤孟之銘皆  
緝之以為書則九鼎之圖  
其傳固出于終古孔甲之  
流也謂之曰山海圖其文



則謂之山海經至秦而九  
鼎亡獨圖與經存晋陶潛  
詩流觀山海圖阮氏七錄  
有張僧繇山海圖可證已

今則經存而圖亡後人因  
其義例而推廣之益以秦  
漢罷縣地名故讀者疑信  
相半信者直以為禹益所

則謂之山海經至秦而九  
鼎亡獨圖與經存晋陶潛  
詩流觀山海圖阮氏七錄  
有張僧繇山海圖可證已

序五

今則經存而圖亡後人因  
其義例而推廣之益以秦  
漢罷縣地名故讀者疑信  
相半信者直以為禹益所

著既迷其元而疑者遂斥  
為後人贗作詭譎抑亦軋  
矣漢劉歆七略所上其文  
古矣晉郭璞注釋所序其  
說奇矣此書之傳二子之  
功與但其著作之源後學  
或忽故著其說弁之簡端

成都楊慎譔

著既迷其元而疑者遂斥  
為後人贗作詭譎抑亦軋  
矣漢劉歆七略所上其文  
古矣晉郭璞注釋所序其

序六

說奇矣此書之傳二子之  
功與但其著作之源後學  
或忽故著其說弁之簡端

成都楊慎譔

山海經序

晉記室參軍郭璞撰

世之覽山海經者皆以其闕誕迂誇多奇恠傲儻之言莫不疑焉嘗試論之曰莊生有云人之所知莫若其所不知於吾山海經見之矣夫以宇宙之寥廓羣生之紛紜陰陽之煦蒸萬殊之區分精氣渾滑自相漬薄遊魂靈恠觸像而構流形於山川麗狀於木石者惡可勝言乎然則總其所以垂鼓之於一響成其所以變混之於一象世之所謂異未知其所以異世

山海經

不序

之所謂不異未知其所以不異何者物不自異待我而後異異果在我非物異也故胡人見布而疑廣越人見罽而駭羗蓋信其習見而奇所希聞此人情之常蔽也今畧舉可以明之者陽火出於水木陰鼠生於炎山而俗之論者莫之或恠及談山海經所載而咸恠之是不恠所可恠而恠所不可恠也不恠所可恠則幾於無恠矣恠所不可恠則未始有可恠也夫能然所不可不可所不可然則理無不然矣宋汲郡竹書及穆天子傳穆王西征見西王母執壁帛之好

山海經序

晉記室參軍郭璞撰

世之覽山海經者皆以其闕誕迂誇多奇恠傲儻之言莫不疑焉嘗試論之曰莊生有云人之所知莫若其所不知於吾山海經見之矣夫以宇宙之寥廓羣生之紛紜陰陽之煦蒸萬殊之區分精氣渾滑自相漬薄遊魂靈恠觸像而構流形於山川麗狀於木石者惡可勝言乎然則總其所以垂鼓之於一響成其所以變混之於一象世之所謂異未知其所以異世

山海經

不序

之所謂不異未知其所以不異何者物不自異待我而後異異果在我非物異也故胡人見布而疑廣越人見罽而駭羗蓋信其習見而奇所希聞此人情之常蔽也今畧舉可以明之者陽火出於水木陰鼠生於炎山而俗之論者莫之或恠及談山海經所載而咸恠之是不恠所可恠而恠所不可恠也不恠所可恠則幾於無恠矣恠所不可恠則未始有可恠也夫能然所不可不可所不可然則理無不然矣宋汲郡竹書及穆天子傳穆王西征見西王母執壁帛之好

獻錦組之屬穆王享王母於瑤池之上賦詩往來辭  
 義可觀遂襲崑崙之丘遊軒轅之宮眺鍾山之嶺玩  
 帝者之寶勒石王母之山紀跡玄圃之上乃取其嘉  
 木艷草奇鳥怪獸玉石珍珠之器金膏燭銀之寶歸  
 而殖養之於中國穆王駕八駿之乘右服盜驪左騾  
 騾耳造父爲御奔戎爲右萬里長騫以周歷四荒名  
 山大川靡不登濟東升大人之堂西燕王母之廬南  
 轅寇蠱之梁北躡積羽之衢窮歡極娛然後旋歸案  
 史記說穆王得盜驪騾耳驪騾之驥使造父御之以

山海經 八序 二

獻錦組之屬穆王享王母於瑤池之上賦詩往來辭  
 義可觀遂襲崑崙之丘遊軒轅之宮眺鍾山之嶺玩  
 帝者之寶勒石王母之山紀跡玄圃之上乃取其嘉  
 木艷草奇鳥怪獸玉石珍珠之器金膏燭銀之寶歸  
 而殖養之於中國穆王駕八駿之乘右服盜驪左騾  
 騾耳造父爲御奔戎爲右萬里長騫以周歷四荒名  
 山大川靡不登濟東升大人之堂西燕王母之廬南  
 轅寇蠱之梁北躡積羽之衢窮歡極娛然後旋歸案  
 史記說穆王得盜驪騾耳驪騾之驥使造父御之以

山海經 八序 二

王頎訪兩面之客海民獲長臂之衣精驗潛効絕代

懸符於戲羣惑者其可以少寤乎是故聖皇原化以極變象物以應性鑿無滯頤曲盡幽情神焉度哉神焉度哉蓋此書誇世七代歷載三千雖暫顯於漢而尋亦寢廢其山川名號所在多有舛謬與今不同師訓莫傳遂將湮泯道之所存俗之所喪悲夫余有懼焉故爲之創傳疏其壅閼闢其弗蕪領其玄致標其洞涉庶幾令逸文不墜于世奇言不絕於今夏后之迹靡刊於將來八荒之事有聞於後裔不亦可乎夫藝薈之翔巨以論垂天之凌蹄涉之遊無以知終其之騰鈞天之庭豈伶人之所躡無航之津豈蒼兕之所涉非天下之至通難與言山海之義矣嗚呼達觀博物之客其鑒之哉

臨莫射委珠野泥之流竹谷之酒喪夫余亦難  
尋亦寐廢其山川名號所在多有舛謬與今不同  
尋亦寐廢其山川名號所在多有舛謬與今不同  
尋亦寐廢其山川名號所在多有舛謬與今不同  
尋亦寐廢其山川名號所在多有舛謬與今不同  
尋亦寐廢其山川名號所在多有舛謬與今不同  
尋亦寐廢其山川名號所在多有舛謬與今不同  
尋亦寐廢其山川名號所在多有舛謬與今不同

懸符於戲羣惑者其可以少寤乎是故聖皇原化以極變象物以應性鑿無滯頤曲盡幽情神焉度哉神焉度哉蓋此書誇世七代歷載三千雖暫顯於漢而尋亦寢廢其山川名號所在多有舛謬與今不同師訓莫傳遂將湮泯道之所存俗之所喪悲夫余有懼焉故爲之創傳疏其壅閼闢其弗蕪領其玄致標其洞涉庶幾令逸文不墜于世奇言不絕於今夏后之迹靡刊於將來八荒之事有聞於後裔不亦可乎夫藝薈之翔巨以論垂天之凌蹄涉之遊無以知終其之騰鈞天之庭豈伶人之所躡無航之津豈蒼兕之所涉非天下之至通難與言山海之義矣嗚呼達觀博物之客其鑒之哉

山海經 八序

三

山海經目

南山經第一	本三千五百四十七字注二十一
西山經第二	本五千六百七十二字注三千二百二十二
北山經第三	本五千七百四十六字注二千三百八十二
東山經第四	本二千四百字注三百七十五
中山經第五	本四千七百一十八字注三千四百八十五
海外南經第六	本五百一十一字注六百三十二
海外西經第七	本五百三十七字注四百五十二
海外北經第八	本五百八十四字注四百九十三
海外東經第九	本四百四十二字注五百九十五
海外南經第十	本三百六十四字注七百九十四
海內西經第十一	本四百三十九字注六百九十五
海內北經第十二	本五百九十五字注四百九十五
海內東經第十三	本六百二十四字注一千四百九十五
大荒東經第十四	本八百六十四字注八百一十三
大荒南經第十五	本九百七十三字注五百九十八
大荒西經第十六	本一千二百八十二字注一千二百三十三
大荒北經第十七	本一千五百十六字注七百六十七

山海經目

南山經第一	本三千五百四十七字注二十一
西山經第二	本五千六百七十二字注三千二百二十二
北山經第三	本五千七百四十六字注二千三百八十二
東山經第四	本二千四百字注三百七十五
中山經第五	本四千七百一十八字注三千四百八十五
海外南經第六	本五百一十一字注六百三十二
海外西經第七	本五百三十七字注四百五十二
海外北經第八	本五百八十四字注四百九十三
海外東經第九	本四百四十二字注五百九十五
海外南經第十	本三百六十四字注七百九十四
海內西經第十一	本四百三十九字注六百九十五
海內北經第十二	本五百九十五字注四百九十五
海內東經第十三	本六百二十四字注一千四百九十五
大荒東經第十四	本八百六十四字注八百一十三
大荒南經第十五	本九百七十三字注五百九十八
大荒西經第十六	本一千二百八十二字注一千二百三十三
大荒北經第十七	本一千五百十六字注七百六十七

山海經 八目錄

一

海內經第十八 本一千一百一十一字注九百六十七字此海內經及大荒

經本皆

總十八卷 本三萬九百十九字注二萬三百五十字總五萬一千二百六十九字

侍中奉車都尉光祿大夫臣秀領校祕書言校祕書太常屬臣望所校山海經凡三十二篇今定為一十八篇已定山海經者出於唐虞之際昔洪水洋溢漫衍中國民人失據崎嶇於丘陵巢於樹木鱗既無功而帝堯使禹繼之禹乘四載隨山川木定高山大川蓋與伯翳主驅禽獸命山川類草木別水土四嶽佐之以周四方逮人跡之所希至及舟輿之所罕到內別五方之山外分八方之海紀其珍寶奇物異方之所生水土草木禽獸昆蟲麟鳳之所止禎祥之所隱及四海之外絕域之國殊類之人禹別九州任土作貢而益等類物善惡著山海經皆賢聖之遺事古文之著明者也其事質明有信孝武皇帝時嘗有獻異鳥者食之百物所不肯食東方朔見之言其鳥名又言其所當食如朔言問朔何以知之即山海經所出

海內經第十八 本一千一百一十一字注九百六十七字此海內經及大荒

經本皆

總十八卷 本三萬九百十九字注二萬三百五十字總五萬一千二百六十九字

侍中奉車都尉光祿大夫臣秀領校祕書言校祕書太常屬臣望所校山海經凡三十二篇今定為一十八篇已定山海經者出於唐虞之際昔洪水洋溢漫衍中國民人失據崎嶇於丘陵巢於樹木鱗既無功而帝堯使禹繼之禹乘四載隨山川木定高山大川山海經 二 蓋與伯翳主驅禽獸命山川類草木別水土四嶽佐之以周四方逮人跡之所希至及舟輿之所罕到內別五方之山外分八方之海紀其珍寶奇物異方之所生水土草木禽獸昆蟲麟鳳之所止禎祥之所隱及四海之外絕域之國殊類之人禹別九州任土作貢而益等類物善惡著山海經皆賢聖之遺事古文之著明者也其事質明有信孝武皇帝時嘗有獻異鳥者食之百物所不肯食東方朔見之言其鳥名又言其所當食如朔言問朔何以知之即山海經所出

也孝宣皇帝時擊磻石於上郡陪得石室其中有反縛盜械人時臣秀父向為諫議大夫言此貳負之臣也詔問何以知之亦以山海經對其文曰貳負殺窾窾帝乃梏之疏屬之山徑其右足及縛兩手上大驚朝士由是多奇山海經者文學大儒皆讀學以為奇可以考禎祥變恠之物見遠國異人之謠俗故易曰言天下之至賾而不可亂也博物之君子其可不惑焉臣秀昧死謹上

山海經 不目 三

諫臣

言天

博士出

窾窾帝八獄之窾窾之山徑其右足及縛兩手上大驚朝士由是多奇山海經者文學大儒皆讀學以為奇可以考禎祥變恠之物見遠國異人之謠俗故易曰言天下之至賾而不可亂也博物之君子其可不惑焉臣秀昧死謹上

也孝宣皇帝時擊磻石於上郡陪得石室其中有反縛盜械人時臣秀父向為諫議大夫言此貳負之臣也詔問何以知之亦以山海經對其文曰貳負殺窾窾帝乃梏之疏屬之山徑其右足及縛兩手上大驚朝士由是多奇山海經者文學大儒皆讀學以為奇可以考禎祥變恠之物見遠國異人之謠俗故易曰言天下之至賾而不可亂也博物之君子其可不惑焉臣秀昧死謹上

山海經 不目 三



山海經第一

晉記室參軍郭璞傳

南山經

南山經之首曰鵠山其首曰招搖之曰臨于西海之

上在蜀伏山山南之西頭瀆西海也多桂桂葉似枇杷長二尺餘廣

冬夏常青間無雜木多金玉有草焉其狀如韭日

莊音九蘭雅云而青花其名曰祝餘或作食之不饑

有木焉其狀如穀而黑理穀楮也皮作紙食之不饑

也其花四照言其有光燄也若木華赤其其名曰迷

山海經第一

晉記室參軍郭璞傳

南山經

南山經之首曰鵠山其首曰招搖之曰臨于西海之

上在蜀伏山山南之西頭瀆西海也多桂桂葉似枇杷長一尺餘廣

冬夏常青間無雜木多金玉有草焉其狀如韭日

莊音九蘭雅云而青花其名曰祝餘或作食之不饑

有木焉其狀如穀而黑理穀楮也皮作紙食之不饑

也其花四照言其有光燄也若木華赤其其名曰迷

南山經 八卷之一



2 白猿  
3 蟻  
3 怪蛇

1 狹狂



南山經

八卷之一 第一圖

二

袞佩之不迷有獸焉其狀如禺而白耳再似獬廌而大赤目長尾今江南山中多有說者不實此物名禺作牛字圖亦作牛形或作猴皆失之也禺字音遇伏行人走其名曰狂狽食之善走生牛禺獸狀如猿伏行交足亦此類也見京房易麗磨之水出焉麗音几而西流注於海其中多育沛詳未佩之無痕疾痕蟲病也

又東三百里曰堂一作庭庭之山多棧木棧別名連其子似棗而赤可食多白猿今猿似獼猴而大臂脚長便捷色有黑有黃鳴其聲哀多水玉今水精也相如山林賦曰水玉多黃金蓋和赤松子所服見列仙傳

又東三百八十里曰獲翼之山其中多怪獸水多怪魚凡言怪者皆謂貌狀備奇不常也尸子曰徐偃王好怪沒深水而得怪魚入深山而得怪獸者多列於多白玉多蝮蟲蝮蟲色如絞文鼻上有針一音多怪蛇多怪木不可以上

又東三百七十里曰柘陽之山音絳其陽多赤金銅也其陰多白金銀也見爾雅山南有獸焉其狀如馬而白首其文如虎而赤尾其音如謠如人歌聲其名曰鹿蜀佩之宜子孫佩謂帶其皮尾怪木出焉而東流注於憲翼之水

其中多玄龜其狀如龜而鳥首龜尾也其名曰旋龜其音如判木如破木聲佩之不聾可以為底底謂也為猶治也外

南山經 卷之十一 三

袞佩之不迷有獸焉其狀如禺而白耳再似獬廌而大赤目長尾今江南山中多有說者不實此物名禺作牛字圖亦作牛形或作猴皆失之也禺字音遇伏行人走其名曰狂狽食之善走生牛禺獸狀如猿伏行交足亦此類也見京房易麗磨之水出焉麗音几而西流注於海其中多育沛詳未佩之無痕疾痕蟲病也

又東三百里曰堂一作庭庭之山多棧木棧別名連其子似棗而赤可食多白猿今猿似獼猴而大臂脚長便捷色有黑有黃鳴其聲哀多水玉今水精也相如山林賦曰水玉多黃金蓋和赤松子所服見列仙傳

又東三百八十里曰獲翼之山其中多怪獸水多怪魚凡言怪者皆謂貌狀備奇不常也尸子曰徐偃王好怪沒深水而得怪魚入深山而得怪獸者多列於多白玉多蝮蟲蝮蟲色如絞文鼻上有針一音多怪蛇多怪木不可以上

又東三百七十里曰柘陽之山音絳其陽多赤金銅也其陰多白金銀也見爾雅山南有獸焉其狀如馬而白首其文如虎而赤尾其音如謠如人歌聲其名曰鹿蜀佩之宜子孫佩謂帶其皮尾怪木出焉而東流注於憲翼之水

其中多玄龜其狀如龜而鳥首龜尾也其名曰旋龜其音如判木如破木聲佩之不聾可以為底底謂也為猶治也外

南山經 卷之十一 三



6 類

5 龍 4 旋龍

4 鹿蜀

4 旋龍



南山經

卷之一 第二圖

四

傳曰疾不可為一  
作底猶病愈也  
又東三百里曰柢山音帶多水無草木有魚焉其狀如

牛陵居蛇尾有翼其羽在頤下亦作其音如留牛于  
日執犖之狗謂此牛也穆天  
子傳曰天子之狗執虎豹其  
名曰鮭六冬死而夏

生此亦蠶類也謂之死者  
言其蠶無所知如死耳食之無腫疾  
又東四百里曰膏爰之山音蠶多水無草木不可以

上言崇有獸焉其狀如狸而有髦其名曰類類或作  
作自為牝牡食者不妬非子亦曰類自為雌雄而

又東三百里曰基山其陽多玉其陰多怪木有獸焉  
其狀如羊九尾四耳其目在背其名曰狔池音施一

作佩之不畏不知有鳥焉其狀如雞而三首六目六  
足三翼其名曰鵠鵠鵠急姓食之無卧使人

又東三百里曰青丘之山音丘國在海外水經  
云即上林賦云秋田於青  
丘其陽多玉其陰多青蠶音蠶有獸焉其狀如狐

而九尾音九其音如嬰兒能食人食者不蠱敬其肉  
或曰蠱蠱毒有鳥焉其狀如鳩其音若阿如人相

曰灌灌或作佩之不感英水出焉南流注于即翼之

南山經

傳曰疾不可為一  
作底猶病愈也  
又東三百里曰柢山音帶多水無草木有魚焉其狀如  
牛陵居蛇尾有翼其羽在頤下亦作其音如留牛于  
日執犖之狗謂此牛也穆天  
子傳曰天子之狗執虎豹其  
名曰鮭六冬死而夏

生此亦蠶類也謂之死者  
言其蠶無所知如死耳食之無腫疾  
又東四百里曰膏爰之山音蠶多水無草木不可以

上言崇有獸焉其狀如狸而有髦其名曰類類或作  
作自為牝牡食者不妬非子亦曰類自為雌雄而

又東三百里曰基山其陽多玉其陰多怪木有獸焉  
其狀如羊九尾四耳其目在背其名曰狔池音施一

作佩之不畏不知有鳥焉其狀如雞而三首六目六  
足三翼其名曰鵠鵠鵠急姓食之無卧使人

又東三百里曰青丘之山音丘國在海外水經  
云即上林賦云秋田於青  
丘其陽多玉其陰多青蠶音蠶有獸焉其狀如狐

而九尾音九其音如嬰兒能食人食者不蠱敬其肉  
或曰蠱蠱毒有鳥焉其狀如鳩其音若阿如人相

曰灌灌或作佩之不感英水出焉南流注于即翼之

傳曰疾不可為一  
作底猶病愈也  
又東三百里曰柢山音帶多水無草木有魚焉其狀如

牛陵居蛇尾有翼其羽在頤下亦作其音如留牛于  
日執犖之狗謂此牛也穆天  
子傳曰天子之狗執虎豹其  
名曰鮭六冬死而夏

生此亦蠶類也謂之死者  
言其蠶無所知如死耳食之無腫疾  
又東四百里曰膏爰之山音蠶多水無草木不可以

上言崇有獸焉其狀如狸而有髦其名曰類類或作  
作自為牝牡食者不妬非子亦曰類自為雌雄而

又東三百里曰基山其陽多玉其陰多怪木有獸焉  
其狀如羊九尾四耳其目在背其名曰狔池音施一

作佩之不畏不知有鳥焉其狀如雞而三首六目六  
足三翼其名曰鵠鵠鵠急姓食之無卧使人

又東三百里曰青丘之山音丘國在海外水經  
云即上林賦云秋田於青  
丘其陽多玉其陰多青蠶音蠶有獸焉其狀如狐

而九尾音九其音如嬰兒能食人食者不蠱敬其肉  
或曰蠱蠱毒有鳥焉其狀如鳩其音若阿如人相

曰灌灌或作佩之不感英水出焉南流注于即翼之

南山經

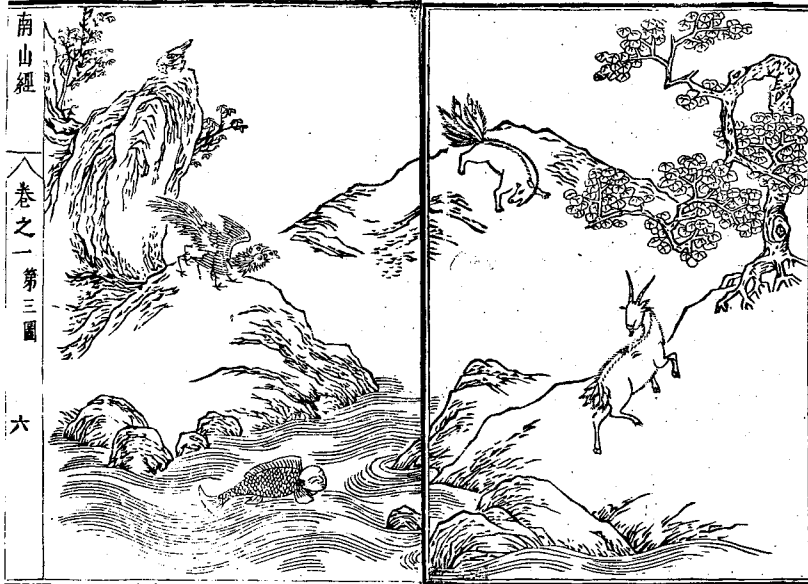
卷之一



8 瀧瀨  
7 鵝鴨  
8 赤鱗

8 九尾狐

7 獬豸



南山經

卷之一 第三圖

六

澤其中多赤鱗音鱗其狀如魚而人面其音如鴛鴦食  
之不亦疾一作

第三圖終

又東三百五十里曰箕尾之山其尾踰于東海多沙  
石音石臨海上音存 沝水出焉音沝而南流注于滄音滄其中

多白玉凡離山之首自招搖之山以至箕尾之山凡

十山二千九百五十里其神狀皆鳥身而龍首其祠

之禮毛音擲擲其毛也音擲也周用一璋玉音璋璋玉音璋璋玉音璋

也音擲擲其毛也音擲也周用一璋玉音璋璋玉音璋

一壁稻米白菅為鹿音茅屬

南次二經之首曰柁山音柁西臨流黃北望諸毗東望

長右音右皆山 萊水出焉西南流注于赤水其中多白玉

尸音尸玉音玉圓折者有珠多丹粟音粟細丹砂有獸焉其狀如豚

有距其音如狗吠其名曰狸力見則其縣多土功有

鳥焉其狀如鴟而人手音鴟其脚如人手其音如痺音痺未其

名曰鴝音鴝其鳴自號也見則其縣多放土音放放逐或

東南四百五十里曰長右之山無草木多水有獸焉

其狀如禺而四耳其名長右音右以山出此獸其音如吟

如人呻 見則郡縣大水

南山經

澤其中多赤鱗音鱗其狀如魚而人面其音如鴛鴦食  
之不亦疾一作

第三圖終

又東三百五十里曰箕尾之山其尾踰于東海多沙  
石音石臨海上音存 沝水出焉音沝而南流注于滄音滄其中

多白玉凡離山之首自招搖之山以至箕尾之山凡

十山二千九百五十里其神狀皆鳥身而龍首其祠

之禮毛音擲擲其毛也音擲也周用一璋玉音璋璋玉音璋

也音擲擲其毛也音擲也周用一璋玉音璋璋玉音璋

一壁稻米白菅為鹿音茅屬

南次二經之首曰柁山音柁西臨流黃北望諸毗東望

長右音右皆山 萊水出焉西南流注于赤水其中多白玉

尸音尸玉音玉圓折者有珠多丹粟音粟細丹砂有獸焉其狀如豚

有距其音如狗吠其名曰狸力見則其縣多土功有

鳥焉其狀如鴟而人手音鴟其脚如人手其音如痺音痺未其

名曰鴝音鴝其鳴自號也見則其縣多放土音放放逐或

東南四百五十里曰長右之山無草木多水有獸焉

其狀如禺而四耳其名長右音右以山出此獸其音如吟

如人呻 見則郡縣大水

南山經

卷之一

七



南山經  
卷之十四  
八

12 長右(長夔)

11 鵙

11 狸力



10 離山之神鳥身龍首

13 狔



南山經  
卷之一  
第四圖  
八





又東三百四十里曰堯光之山其陽多玉其陰多金有獸焉其狀如人而羸鬣穴居而冬蟄其名曰猾褊滑褊其音如斲木如人所斲見則縣有大鱸謂作役也或曰其鱸

又東三百五十里曰羽山今東海嶧縣西南有羽山即縣所經處計此道里不相應其下多水其上多雨無草木多蝮蟲似非也

又東三百七十里曰鞠父之山音無草木多金玉又東四百里曰句餘之山無草木多金玉今在會稽餘姚縣南

又東五百里曰浮玉之山北望具區具區今吳縣西南太湖也尚書謂之東望諸毗水有獸焉其狀如虎而牛尾其音如吠犬其名曰彘是食人若水出于其陰北流注于具

區其中多鯀魚鯀魚狹薄而長頭大者尺餘太湖中今饒之一名刀魚音祥於反又東五百里曰成山四方而三壇崇也成亦重耳其

上多金玉其下多青護闕水出焉音深而南流注于作流注于西序庫音乎勺或其中多黃金今永昌郡水出于西序作多下同其中多黃金金如糠在沙中

又東五百里曰會稽之山四方今在會稽郡山陰縣南上有禹冢及井出黃金玉英

南山經 八卷之一

又東三百四十里曰堯光之山其陽多玉其陰多金有獸焉其狀如人而羸鬣穴居而冬蟄其名曰猾褊滑褊其音如斲木如人所斲見則縣有大鱸謂作役也或曰其鱸

又東三百五十里曰羽山今東海嶧縣西南有羽山即縣所經處計此道里不相應其下多水其上多雨無草木多蝮蟲似非也

又東三百七十里曰鞠父之山音無草木多金玉又東四百里曰句餘之山無草木多金玉今在會稽餘姚縣南

又東五百里曰浮玉之山北望具區具區今吳縣西南太湖也尚書謂之東望諸毗水有獸焉其狀如虎而牛尾其音如吠犬其名曰彘是食人若水出于其陰北流注于具

區其中多鯀魚鯀魚狹薄而長頭大者尺餘太湖中今饒之一名刀魚音祥於反又東五百里曰成山四方而三壇崇也成亦重耳其

上多金玉其下多青護闕水出焉音深而南流注于作流注于西序庫音乎勺或其中多黃金今永昌郡水出于西序作多下同其中多黃金金如糠在沙中

又東五百里曰會稽之山四方今在會稽郡山陰縣南上有禹冢及井出黃金玉英

南山經 八卷之一

九



卷之一 第五圖

26 蟲雕

28 南山之神  
龍耳鳥首

17 鯨魚

17 歲

23 獐



南山經  
卷之一 第五圖  
十

其上多金玉其下多砭石砭武夫石似玉今長沙臨湘出之赤地白文色龍意

不分勺水出焉而南流注于瀨音

又東五百里曰夷山無草木多沙石渚一作水出焉

而南流注于列塗

又東五百里曰僕勾一作之其山其上多金玉其下多草木無鳥獸無水

又東五百里曰咸陰之山無草木無水

又東四百里曰洵一作山其陽多金其陰多玉有獸焉其狀如羊而無口不可殺也稟氣其名曰羆音選

惠洵水出焉音而南流注于關之澤音其中多比羆紫紫色也

又東四百里曰摩勾之山其上多梓枏梓山楸也枏今作楠音南其下多荆杞也子赤澇水出焉音澇

爾雅以爲枏其下多荆杞也音澇澇水出焉音澇

而東流注于海

又東五百里曰區吳之山無草木多砂石鹿水出焉

而南流注于澇水

又東五百里曰鹿吳之山上無草木多金石澤更

水出焉而南流注于澇水有獸焉名曰蠱雕蠱或作蠱

南山經 八卷之一 十一

其上多金玉其下多砭石砭武夫石似玉今長沙臨湘出之赤地白文色龍意

不分勺水出焉而南流注于瀨音

又東五百里曰夷山無草木多沙石渚一作水出焉

而南流注于列塗

又東五百里曰僕勾一作之其山其上多金玉其下多草木無鳥獸無水

又東五百里曰咸陰之山無草木無水

又東四百里曰洵一作山其陽多金其陰多玉有獸焉其狀如羊而無口不可殺也稟氣其名曰羆音選

惠洵水出焉音而南流注于關之澤音其中多比羆紫紫色也

又東四百里曰摩勾之山其上多梓枏梓山楸也枏今作楠音南其下多荆杞也子赤澇水出焉音澇

爾雅以爲枏其下多荆杞也音澇澇水出焉音澇

而東流注于海

又東五百里曰區吳之山無草木多砂石鹿水出焉

而南流注于澇水

又東五百里曰鹿吳之山上無草木多金石澤更

水出焉而南流注于澇水有獸焉名曰蠱雕蠱或作蠱

南山經 八卷之一 十一

其狀如雕而有角其音如嬰兒之音是食人

又東五百里曰漆吳之山無草木多博石無玉可以為博

基處于海東望丘山其光載出載入神光之是惟日

次是日景之凡南次二經之首自柘山至于漆吳之

山凡十七山七千二百里其神狀皆龍身而鳥首其

祠毛用一璧瘞瘡用糝糝也

第五圖終

南次三經之首曰天虞之山其下多水不可以上

東五百里曰禱過之山其上多金玉其下多犀兕犀

水牛猪頭獐脚似象有三蹄大腹黑色三角一在

頂上一在額上二在鼻上者小而不可食角

也好啖棘口中常灑血沫兕亦多象象獸之最大者

似水牛青色一角重三千斤長鼻大者牙長

一丈性如有鳥焉其狀如鴉尾音散箭之較而白

首三足或作手人面其名曰瞿如音其鳴自號也泔水

出焉音而南流注于海其中有虎蛟蛟似蛇四足龍屬其狀

魚身而蛇尾其音如鴛鴦食者不腫可以已痔

又東五百里曰丹穴之山其上多金玉丹水出焉而

其狀如雕而有角其音如嬰兒之音是食人

又東五百里曰漆吳之山無草木多博石無玉可以為博

基處于海東望丘山其光載出載入神光之是惟日

次是日景之凡南次二經之首自柘山至于漆吳之

山凡十七山七千二百里其神狀皆龍身而鳥首其

祠毛用一璧瘞瘡用糝糝也

第五圖終

南次三經之首曰天虞之山其下多水不可以上

東五百里曰禱過之山其上多金玉其下多犀兕犀

水牛猪頭獐脚似象有三蹄大腹黑色三角一在

頂上一在額上二在鼻上者小而不可食角

也好啖棘口中常灑血沫兕亦多象象獸之最大者

似水牛青色一角重三千斤長鼻大者牙長

一丈性如有鳥焉其狀如鴉尾音散箭之較而白

首三足或作手人面其名曰瞿如音其鳴自號也泔水

出焉音而南流注于海其中有虎蛟蛟似蛇四足龍屬其狀

魚身而蛇尾其音如鴛鴦食者不腫可以已痔

又東五百里曰丹穴之山其上多金玉丹水出焉而

南山經 卷之一

南山經 卷之一

南山經  
卷之一 第六圖  
十三



30 嬰如

42 南之神龍取面  
30 虎蛟

30 犀

38 顯  
37 鱗魚

南山經  
卷之一 第六圖  
十三



南流注于渤海渤海海岸有鳥焉其狀如雞五采而

文名曰鳳皇首文曰德翼文曰義背文曰禮膚文曰

仁腹文曰信是鳥也飲食自然自歌自舞見則天下

安寧漢時鳳皇數出高五六尺五采莊周說鳳文字

與此有異廣雅云鳳雞頭鸕領蛇頭龜背魚尾

雄曰皇雌曰凰

又東五百里曰發爽或作爽之山無草木多水多白猿

泚水出焉而南流注于渤海

又東四百里至于旄山之尾其南有谷曰育遺或作

多怪鳥廣雅云鷓鴣鷓鴣愛居凱風自是出凱風

又東四百里至于非山之首其上多金玉無水其下

多螻蟲

又東五百里曰陽夾之山無草木多水

一作瀟湖

又東五百里曰澗山其上多金其下多丹澗者或曰

腹美丹也見尚黑水出焉而南流注于海其中有鱉

魚音團扇其狀如鮒而羸毛其音如豚見則天下大

旱

南山經 卷之一

南流注于渤海渤海海岸有鳥焉其狀如雞五采而

文名曰鳳皇首文曰德翼文曰義背文曰禮膚文曰

仁腹文曰信是鳥也飲食自然自歌自舞見則天下

安寧漢時鳳皇數出高五六尺五采莊周說鳳文字

與此有異廣雅云鳳雞頭鸕領蛇頭龜背魚尾

雄曰皇雌曰凰

又東五百里曰發爽或作爽之山無草木多水多白猿

泚水出焉而南流注于渤海

又東四百里至于旄山之尾其南有谷曰育遺或作

多怪鳥廣雅云鷓鴣鷓鴣愛居凱風自是出凱風

又東四百里至于非山之首其上多金玉無水其下

多螻蟲

又東五百里曰陽夾之山無草木多水

一作瀟湖

又東五百里曰澗山其上多金其下多丹澗者或曰

腹美丹也見尚黑水出焉而南流注于海其中有鱉

魚音團扇其狀如鮒而羸毛其音如豚見則天下大

旱

南山經 卷之一 十四

又東四百里曰今丘之山無草木多火其南有谷焉  
 曰中谷條風自是出東北風為條風說曰條風至出輕緊督通留有鳥焉  
 其狀如梟人面四目而有耳其名曰鵬音其鳴自號  
 也見則天下大旱

又東三百七十里曰侖者之山音論說之其上多金玉其下多青腹有木焉其狀如穀而赤理其汗如漆其味如飴食者不饑可以釋勞其名曰白蒼或作華廣雅音羔可以血玉血謂可用藥玉作光彩

又東五百八十里曰禺彊之山多怪獸多大蛇  
 又東五百八十里曰海隅之山其上多金玉其下多水有穴焉水春輒入夏乃出冬則閉佐水出焉而東南流注于海有鳳皇鷓鴣亦鳳屬

凡南次三經之首自天虞之山以至南禺之山凡一十四山六千五百三十里其神皆龍身而人面其祠皆一白狗祈祈請也糈糈用糗  
 右南經之山志大小凡四十山萬六千三百八十里

南山經 卷之一 第六圖終

又東四百里曰今丘之山無草木多火其南有谷焉  
 曰中谷條風自是出東北風為條風說曰條風至出輕緊督通留有鳥焉  
 其狀如梟人面四目而有耳其名曰鵬音其鳴自號  
 也見則天下大旱

又東三百七十里曰侖者之山音論說之其上多金玉其下多青腹有木焉其狀如穀而赤理其汗如漆其味如飴食者不饑可以釋勞其名曰白蒼或作華廣雅音羔可以血玉血謂可用藥玉作光彩

又東五百八十里曰禺彊之山多怪獸多大蛇  
 又東五百八十里曰南隅之山其上多金玉其下多水有穴焉水春輒入夏乃出冬則閉佐水出焉而東南流注于海有鳳皇鷓鴣亦鳳屬

凡南次三經之首自天虞之山以至南隅之山凡一十四山六千五百三十里其神皆龍身而人面其祠皆一白狗祈祈請也糈糈用糗  
 右南經之山志大小凡四十山萬六千三百八十里

南山經 卷之一 第六圖終

山海經第二

晉記室參軍郭璞傳

西山經

西山經華山之首曰錢來之山其上多松其下多洗

石 瀑洗可以礮體去 垢水礮初兩反有獸焉其狀如羊而馬尾名曰

羴羊雅云羊六尺為羴謂此羊也 臧音針其脂可以

尸腊治體皴 腊音昔

西四十五里曰松果之山澗水出焉北流注于渭其

中多銅有鳥焉其名曰鳴渠鳴音形其狀如山雞黑

西山經

八卷之二十一

山海經第二

晉記室參軍郭璞傳

西山經

西山經華山之首曰錢來之山其上多松其下多洗

石 瀑洗可以礮體去 垢水礮初兩反有獸焉其狀如羊而馬尾名曰

羴羊雅云羊六尺為羴謂此羊也 臧音針其脂可以

尸腊治體皴 腊音昔

西四十五里曰松果之山澗水出焉北流注于渭其

中多銅有鳥焉其名曰鳴渠鳴音形其狀如山雞黑

西山經

八卷之二十一





46 赤鷲 47 葱嶺  
45 肥瓠

44 鵝渠  
43 羴羊



身赤足可以已膠謂皮皺起也

又西六十里曰太華之山在弘農華陰縣西南今削成

而四方今山形上大其高五千仞其廣十里也八尺

明星玉女持玉漿得上服之即鳥獸莫居有蛇焉名

成仙道險僻不通時含神霧云鳥獸莫居有蛇焉名

曰肥蠶六足四翼見則天下大旱時此蛇見于陽

疑是

又西八十里曰小華之山即少華山其木多荆杞其獸多

柞牛今華陰山中多山平山羊肉其陰多磬石可以

不其陽多璵璠之玉璵璠玉名所采鳥多赤鷲

之屬胃腹洞赤冠金皆黃頭綠尾可以禦火其草有

草荔草荔香草也狀如烏韭而生於石上亦緣木而

生鳥韭在屋者曰昔邪在墻者曰垣衣食之已心痛

又西八十里曰符禺之山其陽多銅其陰多鐵其上

有木焉名曰文莖其實如棗可以已聾其草多條其

狀如葵而赤花黃實如嬰兒舌食之使人不感符禺

之水出焉而北流注于渭其獸多葱蘢其狀如羊而

赤鬣其鳥多鵙音其其狀如翠而赤喙似燕而可以

禦火畜之辟火災也

西山經

八卷之三

身赤足可以已膠謂皮皺起也

又西六十里曰太華之山在弘農華陰縣西南今削成

而四方今山形上大其高五千仞其廣十里也八尺

明星玉女持玉漿得上服之即鳥獸莫居有蛇焉名

成仙道險僻不通時含神霧云鳥獸莫居有蛇焉名

曰肥蠶六足四翼見則天下大旱時此蛇見于陽

疑是

又西八十里曰小華之山即少華山其木多荆杞其獸多

柞牛今華陰山中多山平山羊肉其陰多磬石可以

不其陽多璵璠之玉璵璠玉名所采鳥多赤鷲

之屬胃腹洞赤冠金皆黃頭綠尾可以禦火其草有

草荔草荔香草也狀如烏韭而生於石上亦緣木而

生鳥韭在屋者曰昔邪在墻者曰垣衣食之已心痛

又西八十里曰符禺之山其陽多銅其陰多鐵其上

有木焉名曰文莖其實如棗可以已聾其草多條其

狀如葵而赤花黃實如嬰兒舌食之使人不感符禺

之水出焉而北流注于渭其獸多葱蘢其狀如羊而

赤鬣其鳥多鵙音其其狀如翠而赤喙似燕而可以

禦火畜之辟火災也

西山經

八卷之二



西山經  
卷之二  
第八圖  
四

58 兕

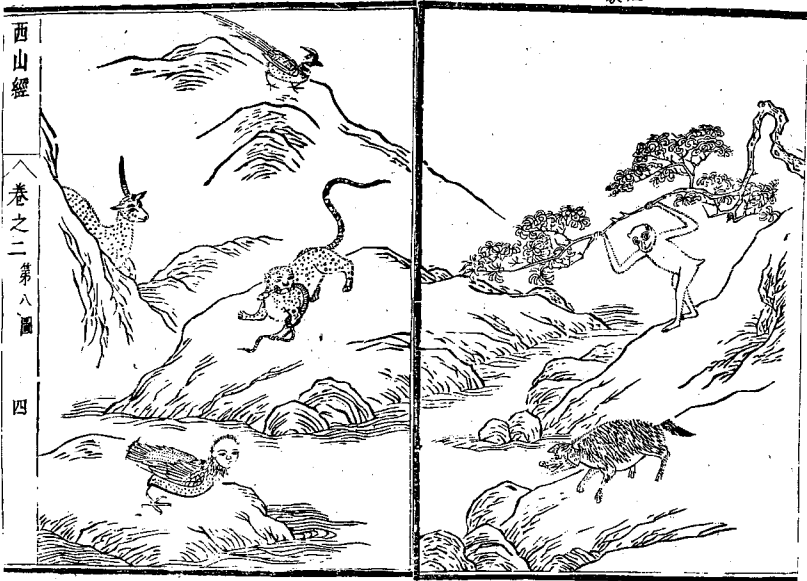
52 蒙

49 肥遺

54 猛豹

50 蒙

52 羆



西山經  
卷之二  
第八圖  
四

又西六十里曰石脆之山其木多櫻栒樹高三丈許無枝條葉大而圓枝生稍頭實皮相異上行一皮者其草多條為一節可以為繩一名栒音馬騾之騾其狀如韭而白華黑實食之已芥其陽多瑋瑋之玉其陰多銅灌水出焉而北流注于禺水其中有流豬豬赤以塗牛馬無病今人亦以未塗牛馬

又西七十里曰英山其上多柎柎似棗而細葉一音美其陰多鐵其陽多赤金禺水出焉北流注于招水音其其中多鮮魚音同蚌蛤之蚌其狀如鼈其音如羊其陽多箭箭今漢中郡出類竹厚葉而長節根深其狀多射牛藏羊有鳥焉其狀如鴉黃身而赤喙其名曰肥遺食之已癘癘疾也或曰惡瘡可以殺蟲

又西五十二里曰竹山其上多喬木枝上棘其陰多鐵有草焉其名曰黃蘗其狀如檉其葉如麻白華而赤實其狀如赭紫赤浴之已疥又可以已附治附腫也音符

竹水出焉北流注于渭其陽多竹箭箭籜也音符多蒼玉丹水出焉今所在有獸焉其狀如豚而白毛大如笄而黑端魚如鮪魚有獸焉其狀如豚而白毛大如笄而黑端笄音脚有獸焉其狀如豚而白毛大如笄而黑端笄音脚有獸焉其狀如豚而白毛大如笄而黑端笄音脚有獸焉其狀如豚而白毛大如笄而黑端笄音脚

又西六十里曰石脆之山其木多櫻栒樹高三丈許無枝條葉大而圓枝生稍頭實皮相異上行一皮者其草多條為一節可以為繩一名栒音馬騾之騾其狀如韭而白華黑實食之已芥其陽多瑋瑋之玉其陰多銅灌水出焉而北流注于禺水其中有流豬豬赤以塗牛馬無病今人亦以未塗牛馬

又西七十里曰英山其上多柎柎似棗而細葉一音美其陰多鐵其陽多赤金禺水出焉北流注于招水音其其中多鮮魚音同蚌蛤之蚌其狀如鼈其音如羊其陽多箭箭今漢中郡出類竹厚葉而長節根深其狀多射牛藏羊有鳥焉其狀如鴉黃身而赤喙其名曰肥遺食之已癘癘疾也或曰惡瘡可以殺蟲

又西五十二里曰竹山其上多喬木枝上棘其陰多鐵有草焉其名曰黃蘗其狀如檉其葉如麻白華而赤實其狀如赭紫赤浴之已疥又可以已附治附腫也音符

竹水出焉北流注于渭其陽多竹箭箭籜也音符多蒼玉丹水出焉今所在有獸焉其狀如豚而白毛大如笄而黑端魚如鮪魚有獸焉其狀如豚而白毛大如笄而黑端笄音脚有獸焉其狀如豚而白毛大如笄而黑端笄音脚有獸焉其狀如豚而白毛大如笄而黑端笄音脚有獸焉其狀如豚而白毛大如笄而黑端笄音脚

西山經

卷之二

五

西山經

卷之二

五

楚呼為鸞猪  
亦此類也

又西百二十里曰浮山多聯木音美目盼枳葉而無

傷枳刺針也能木蟲居之在樹有草焉名曰薰音草

麻葉而方莖赤華而黑實臭如薜荔薜荔香草易曰

兩佩之可以已瘡

又西七十里曰渝次之山音漆水出焉今漆水北流

注于渭其上多棧棧白板其下多竹箭其陰多赤

銅其陽多嬰垣之玉垣或作短或作根或作有獸焉

其狀如禺而長臂善投其名曰鸞亦在畏獸畫中有

鳥焉其狀如彘人面而一足曰彘音肥冬見夏鬻服

之不畏雷著其毛羽令人不

又西百五十里曰時山無草木逐或作水出焉北流

注于渭其中多水玉

又西百七十里曰南山上多丹粟丹水出焉北流注

于渭獸多猛豹猛豹似熊而小毛淺有光澤能鳥多

尸鳩尸鳩布穀類也或曰

又西百八十里曰大時之山上多穀柞柞下多柰檀

陰多銀陽多白玉潑水出焉潑音北流注于渭清水出

西山經

八卷之二

六

楚呼為鸞猪  
亦此類也

又西百二十里曰浮山多聯木音美目盼枳葉而無

傷枳刺針也能木蟲居之在樹有草焉名曰薰音草

麻葉而方莖赤華而黑實臭如薜荔薜荔香草易曰

兩佩之可以已瘡

又西七十里曰渝次之山音漆水出焉今漆水北流

注于渭其上多棧棧白板其下多竹箭其陰多赤

銅其陽多嬰垣之玉垣或作短或作根或作有獸焉

其狀如禺而長臂善投其名曰鸞亦在畏獸畫中有

鳥焉其狀如彘人面而一足曰彘音肥冬見夏鬻服

之不畏雷著其毛羽令人不

又西百五十里曰時山無草木逐或作水出焉北流

注于渭其中多水玉

又西百七十里曰南山上多丹粟丹水出焉北流注

于渭獸多猛豹猛豹似熊而小毛淺有光澤能鳥多

尸鳩尸鳩布穀類也或曰

又西百八十里曰大時之山上多穀柞柞下多柰檀

陰多銀陽多白玉潑水出焉潑音北流注于渭清水出

西山經

八卷之二

六

焉南流注于漢水今河內修武縣縣北黑山亦出清水

又西三百二十里曰嶧冢之山今在武都氏道嶧音波

出焉而東南流注于河至江夏安陸縣江即河水焉水出焉北流

注于湯水或作湯其上多桃枝鉤端鉤端獸多犀兕

熊羆似熊而黃白鳥多白翰赤鷩白翰白鶴也亦名鶴雉又曰白

有草焉其葉如蕙蕙香草蘭屬也或以其本如桔梗本根黑華而不實名曰葇麥爾雅釋草曰榮而食

之使人無子

之使人無子

又西三百五十里曰天帝之山上多櫻柎下多菅蕙

類也菅蕙有獸焉其狀如狗名曰谿或作邊席其皮

者不蠱有鳥焉其狀如鴉黑文而赤翁翁頭下毛音

名曰櫟音砂食之已痔有草焉其狀如葵其臭如

靡蕪名曰杜衡香草也可以走馬帶之令人便馬或食

之已瘦

西南三百八十里曰臯塗之山音色或作賈又作蕭水出焉

西流注于諸資之水塗水出焉南流注于集獲之水

其陽多丹粟其陰多銀黃金其上多桂木有白石焉

西山經

卷之二

七

焉南流注于漢水今河內修武縣縣北黑山亦出清水

又西三百二十里曰嶧冢之山今在武都氏道嶧音波

出焉而東南流注于河至江夏安陸縣江即河水焉水出焉北流

注于湯水或作湯其上多桃枝鉤端鉤端獸多犀兕

熊羆似熊而黃白鳥多白翰赤鷩白翰白鶴也亦名鶴雉又曰白

有草焉其葉如蕙蕙香草蘭屬也或以其本如桔梗本根黑華而不實名曰葇麥爾雅釋草曰榮而食

之使人無子

之使人無子

又西三百五十里曰天帝之山上多櫻柎下多菅蕙

類也菅蕙有獸焉其狀如狗名曰谿或作邊席其皮

者不蠱有鳥焉其狀如鴉黑文而赤翁翁頭下毛音

名曰櫟音砂食之已痔有草焉其狀如葵其臭如

靡蕪名曰杜衡香草也可以走馬帶之令人便馬或食

之已瘦

西南三百八十里曰臯塗之山音色或作賈又作蕭水出焉

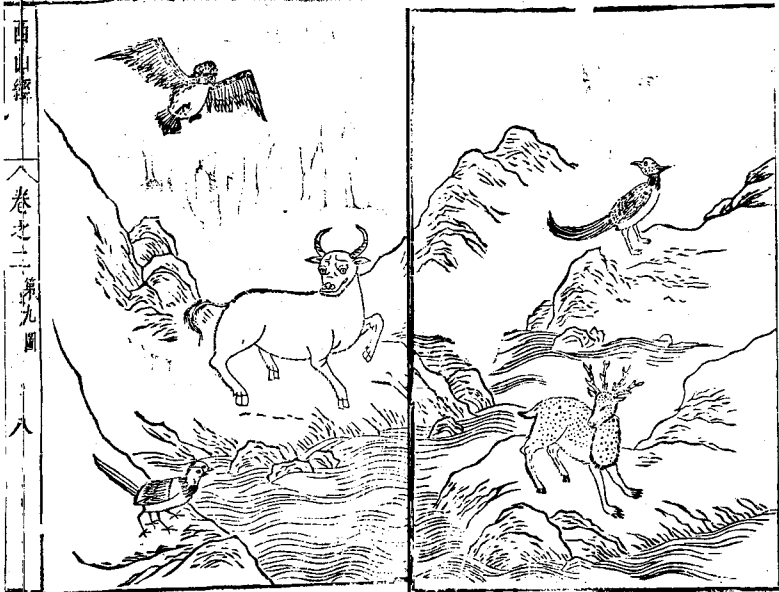
西流注于諸資之水塗水出焉南流注于集獲之水

其陽多丹粟其陰多銀黃金其上多桂木有白石焉

西山經

卷之二

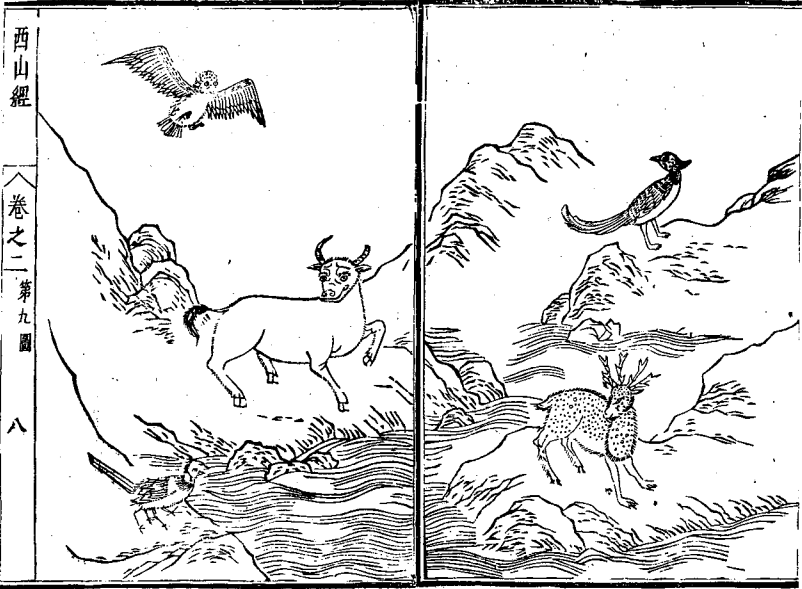
七



西山經  
卷之一 第九圖  
八

57 鸚鵡  
60 鵲  
59 犛

58 數斯  
58 獐如



西山經  
卷之一 第九圖  
八

其名曰麋今麋石發見音可以毒鼠麋食之而肥有草焉其狀如  
 藁茛藁茛其葉如葵而赤背名曰無條可以毒鼠有  
 獸焉其狀如鹿而白尾馬足人手前兩脚而四角名  
 曰獬如音假獬有鳥焉其狀如鴟而人足名曰數斯  
 食之已瘵或作瘵

又西百八十里曰黃山今始平魏里縣有黃山上故  
 無草木多竹箭盼水出焉音美目盼西流注于赤水  
 其中多玉有獸焉其狀如牛而蒼黑大目其名曰擊  
 音有鳥焉其狀如鴉青羽赤喙人舌能言名曰鸚鵡  
鸚鵡舌似小兒脚背前後各兩扶掖微  
外出色者亦有純赤白者大如鴈也

又西二百里曰驪山其上多櫻柎其下多竹箭其陽  
 多黃金玉其陰多旄牛麀麋麀似羊而大角細食好  
在山崖間麀似獬而小  
 有鳥焉多鸚鵡其狀如鴟赤黑而兩首四足可以禦  
 火

又西二百五十里曰騶山音魏是鍾于西海鍾  
 堤埒也音騶山之隈無草木多玉淒水出焉或作西流注于海  
 其甲多采石黃金采石石有彩色者今多丹粟  
 凡西經之首自鎩來之山至于騶山凡十九山二千  
 南山經 八卷之二 九

其名曰麋今麋石發見音可以毒鼠麋食之而肥有草焉其狀如  
 藁茛藁茛其葉如葵而赤背名曰無條可以毒鼠有  
 獸焉其狀如鹿而白尾馬足人手前兩脚而四角名  
 曰獬如音假獬有鳥焉其狀如鴟而人足名曰數斯  
 食之已瘵或作瘵

又西百八十里曰黃山今始平魏里縣有黃山上故  
 無草木多竹箭盼水出焉音美目盼西流注于赤水  
 其中多玉有獸焉其狀如牛而蒼黑大目其名曰擊  
 音有鳥焉其狀如鴉青羽赤喙人舌能言名曰鸚鵡  
鸚鵡舌似小兒脚背前後各兩扶掖微  
外出色者亦有純赤白者大如鴈也

又西二百里曰驪山其上多櫻柎其下多竹箭其陽  
 多黃金玉其陰多旄牛麀麋麀似羊而大角細食好  
在山崖間麀似獬而小  
 有鳥焉多鸚鵡其狀如鴟赤黑而兩首四足可以禦  
 火

又西二百五十里曰騶山音魏是鍾于西海鍾  
 堤埒也音騶山之隈無草木多玉淒水出焉或作西流注于海  
 其中多采石黃金采石石有彩色者今多丹粟  
 凡西經之首自鎩來之山至于騶山凡十九山二千  
 西山經 八卷之二 九



九百五十七里華山家也家者神鬼之所舍也其祠之禮太牢牛羊豕禴山神也祠之用燭燭或作齋百日以百犧犧為太牢瘞用百瑜瑜亦美玉湯或作其酒百樽溫酒嬰以百珪百璧嬰謂陳之以環祭也或曰嬰即古鬯字謂孟也徐州云穆天子傳曰黃金之嬰之屬也

其餘十七山之屬皆毛袞用一羊祠之袞謂牲體全牲牲肥燭者百草之末灰白蕭采等純之色純之等差其文袞也周禮莞席紛純

西次二經之首曰鈴山音兒錫之錫或作鈴其上多銅其

下多玉其木多柷櫃

西二百里曰泰冑之山其陽多金其陰多鉄浴水出焉東流注于河其中多藻玉藻玉玉有符形者或作東音練多白蛇

又西一百七十里曰敷歷之山其上多黃金其下多

銀其木多柷櫃其鳥多鸚鵡焚水出焉而南流注于

渭其中多白珠今蜀郡平澤出青珠又西百五十里曰高山其上多銀其下多青碧碧亦玉類

西山經 八卷之二 十

九百五十七里華山家也家者神鬼之所舍也其祠之禮太牢牛羊豕禴山神也祠之用燭燭或作齋百日以百犧犧為太牢瘞用百瑜瑜亦美玉湯或作其酒百樽溫酒嬰以百珪百璧嬰謂陳之以環祭也或曰嬰即古鬯字謂孟也徐州云穆天子傳曰黃金之嬰之屬也

其餘十七山之屬皆毛袞用一羊祠之袞謂牲體全牲牲肥燭者百草之末灰白蕭采等純之色純之等差其文袞也周禮莞席紛純

西次二經之首曰鈴山音兒錫之錫或作鈴其上多銅其

下多玉其木多柷櫃

西二百里曰泰冑之山其陽多金其陰多鉄浴水出焉東流注于河其中多藻玉藻玉玉有符形者或作東音練多白蛇

又西一百七十里曰敷歷之山其上多黃金其下多

銀其木多柷櫃其鳥多鸚鵡焚水出焉而南流注于

渭其中多白珠今蜀郡平澤出青珠又西百五十里曰高山其上多銀其下多青碧碧亦玉類

西山經 八卷之二 十

又西一百七十里曰敷歷之山其上多黃金其下多

銀其木多柷櫃其鳥多鸚鵡焚水出焉而南流注于

渭其中多白珠今蜀郡平澤出青珠又西百五十里曰高山其上多銀其下多青碧碧亦玉類

西山經 八卷之二 十



80 人面駢  
80 西山之神  
人面身  
71 未取



67 鳥  
67 鳥像



也今越前會稽 雄黃 晉太興三年高二郡界有 其木 縣東山出碧 山麓其中出數千斤 雄黃 其木

多樓其草多竹澗水出焉而東流注于涓今涓水出 安定朝那

縣西井頭山至京 其中多磬石書曰泗濱 青碧 此高陵縣入涓也

西南三百里曰女牀之山其陽多赤銅其陰多石涅即礬石也 楚人名為涅石 秦名為 其獸多虎豹犀兕 羽涅也 本草經亦名曰石涅也

有鳥焉其狀如翟而五彩文翟似雉而大 長尾 或作鸚鵡鵬屬也 名曰 鸞鳥 見則天下安寧 周成王時 西戎獻之

又西二百里曰龍首之山其陽多黃金其陰多鐵若 水出焉東南流注于涇水其中多美玉

又西二百里曰鹿臺之山今在 其上多白玉其下多 銀其獸多牝牛羝羊白毫羝 羊也 猶也有鳥焉其狀如雄雞

而人面名曰鳧僕其名自叫也見則有兵

西南二百里曰鳥危之山其陽多磬石其陰多檀栳栳 猶也 未詳

其中多丹粟

又西四百里曰小次之山其上多白玉其下多赤銅

有獸焉其狀如猿而白首赤足名曰朱厭見則大兵

一作見則有兵起 焉一作見則為兵

南山經 卷之二 七

也今越前會稽 雄黃 晉太興三年高二郡界有 其木 縣東山出碧 山麓其中出數千斤 雄黃 其木

多樓其草多竹澗水出焉而東流注于涓今涓水出 安定朝那

縣西井頭山至京 其中多磬石書曰泗濱 青碧 此高陵縣入涓也

西南三百里曰女牀之山其陽多赤銅其陰多石涅即礬石也 楚人名為涅石 秦名為 其獸多虎豹犀兕 羽涅也 本草經亦名曰石涅也

有鳥焉其狀如翟而五彩文翟似雉而大 長尾 或作鸚鵡鵬屬也 名曰 鸞鳥 見則天下安寧 周成王時 西戎獻之

又西二百里曰龍首之山其陽多黃金其陰多鐵若 水出焉東南流注于涇水其中多美玉

又西二百里曰鹿臺之山今在 其上多白玉其下多 銀其獸多牝牛羝羊白毫羝 羊也 猶也有鳥焉其狀如雄雞

而人面名曰鳧僕其鳴自叫也見則有兵

西南二百里曰鳥危之山其陽多磬石其陰多檀栳栳 猶也 未詳

其中多丹粟

又西四百里曰小次之山其上多白玉其下多赤銅

有獸焉其狀如猿而白首赤足名曰朱厭見則大兵

一作見則有兵起 焉一作見則為兵

西山經 卷之二 七

又西三百里曰大次之山其陽多望望似土色其陰多碧其獸多狝牛麀羊

又西四百里曰蕭吳之山無草木多金玉

又西四百里曰庇陽之山音皆其木多稷柎豫章稷似刺細理音即豫章大木似楸葉其獸多犀兕虎豹狝牛狝音生七年而後復可知

又西二百五十里曰象獸之山其上多瑇瑁之玉其下多檀栝多黃金其獸多犀兕

又西五百里曰皇人之山其上多金玉其下多青雉

黃即雌黃也或曰空青曾青之屬皇水出焉西流注于赤水其中多丹粟

又西三百里曰中皇之山其上多黃金其下多蕙棠

又西三百五十里曰西皇之山其陽多金其陰多鐵其獸多麀鹿狝牛麀大如小牛鹿屬也

又西三百五十里曰萊山其木多檀栝其鳥多羅羅

是食人羅羅之鳥所未詳也

凡西次二經之首自鈴山至于萊山凡十七山四千

入卷之二 十三

又西三百里曰大次之山其陽多望望似土色其陰多碧其獸多狝牛麀羊

又西四百里曰蕭吳之山無草木多金玉

又西四百里曰庇陽之山音皆其木多稷柎豫章稷似刺細理音即豫章大木似楸葉其獸多犀兕虎豹狝牛狝音生七年而後復可知

又西二百五十里曰象獸之山其上多瑇瑁之玉其下多檀栝多黃金其獸多犀兕

又西五百里曰皇人之山其上多金玉其下多青雉

黃即雌黃也或曰空青曾青之屬皇水出焉西流注于赤水其中多丹粟

又西三百里曰中皇之山其上多黃金其下多蕙棠

又西三百五十里曰西皇之山其陽多金其陰多鐵其獸多麀鹿狝牛麀大如小牛鹿屬也

又西三百五十里曰萊山其木多檀栝其鳥多羅羅

是食人羅羅之鳥所未詳也

凡西次二經之首自鈴山至于萊山凡十七山四千

入卷之二 十三

一百四十里其十神者皆人面而馬身其七神皆人面牛身四足而一臂操杖以行是為飛獸之神其祠之毛用少牢羊豕為少牢也白菅為席其十輩音背神者其之毛雄鷄鈴而不稱餘所用參焉名所未詳也

毛采言用雞也

西次三經之首曰崇吾之山在河之南北望冢迷山名

南望番之澤音通西望帝之搏獸之丘搏武東望鳴於

然淵有木焉圓葉而白音今江東人呼草木子房為

丈夫字或赤華而黑理其實如枳食之宜子孫音有獸

焉其狀如禺而文臂豹虎而善投名曰舉父或作李父有

鳥焉其狀如鳧而一翼一目相得乃飛名曰蠻蠻此鳥也色青赤不比不能飛爾雅作鸚鵡鳥也見則天下大水

西北三百里曰長沙之山泚水出焉音紫北流注于沔

水鳥交反又音黑也無草木多青雄黃

西山經 卷之二 十四

一百四十里其十神者皆人面而馬身其七神皆人面牛身四足而一臂操杖以行是為飛獸之神其祠之毛用少牢羊豕為少牢也白菅為席其十輩音背神者其之毛雄鷄鈴而不稱餘所用參焉名所未詳也

毛采言用雞也

西次三經之首曰崇吾之山在河之南北望冢迷山名

南望番之澤音通西望帝之搏獸之丘搏武東望鳴於

然淵有木焉圓葉而白音今江東人呼草木子房為

丈夫字或赤華而黑理其實如枳食之宜子孫音有獸

焉其狀如禺而文臂豹虎而善投名曰舉父或作李父有

鳥焉其狀如鳧而一翼一目相得乃飛名曰蠻蠻此鳥也色青赤不比不能飛爾雅作鸚鵡鳥也見則天下大水

西北三百里曰長沙之山泚水出焉音紫北流注于沔

水鳥交反又音黑也無草木多青雄黃

西山經 卷之二 十四



西山經  
八卷之第十一圖

85 鍾山黿

87 欽鵠

86 文鰐魚

87 鸞父 87 鸞鸞(比翼鳥)



西山經  
八卷之第十一圖  
十五

又西北三百七十里曰不周之山此山形有缺不周不周風自北望諸毗之山臨彼嶽崇之山東望洶澤

河水所潛也其源渾渾泡泡河南出崑崙崑崙行地下流較出合而東流注初澤已復潛行南出于闕國復分而為中國河也名洶澤即蒲澤一名蒲昌海廣三四百里其水停冬夏不增減去玉門關三百餘里即河之重源所謂潛行也渾渾泡泡水漬浦之聲也哀咆

音二爰有嘉果其實如桃其葉如棗黃華而赤附食之不勞

又西北四百二十里曰崦嵫山其上多丹木圓葉而赤莖黃華而赤實其味如飴食之不饑丹水出焉西流注于穉澤后稷神所馮因名云其中多白玉是有玉膏其源沸沸湯湯上有白玉膏一服即仙矣亦此類也沸音拂黃帝是食是饗所以得登龍於天是生玄玉又出黑玉玉膏所出以灌丹木丹木五歲五色乃清鮮也

五味乃馨言滋香也黃帝乃取崑崙之玉榮謂玉華也離之華矣又曰登崑崙今食玉而投之鍾山之陽以種

瑤瑜之玉為良言最善也或作堅粟精密禮記曰瑤

彩互映色王子靈符應曰赤如鸚冠黃如以和柔剛

燕栗白如割肪黑如醉漆王之符彩也

南山經 卷之二 十六

又西北三百七十里曰不周之山此山形有缺不周不周風自北望諸毗之山臨彼嶽崇之山東望洶澤

河水所潛也其源渾渾泡泡河南出崑崙崑崙行地下流較出合而東流注初澤已復潛行南出于闕國復分而為中國河也名洶澤即蒲澤一名蒲昌海廣三四百里其水停冬夏不增減去玉門關三百餘里即河之重源所謂潛行也渾渾泡泡水漬浦之聲也哀咆

音二爰有嘉果其實如桃其葉如棗黃華而赤附食之不勞

又西北四百二十里曰崦嵫山其上多丹木圓葉而赤莖黃華而赤實其味如飴食之不饑丹水出焉西流注于穉澤后稷神所馮因名云其中多白玉是有玉膏其源沸沸湯湯上有白玉膏一服即仙矣亦此類也沸音拂黃帝是食是饗所以得登龍於天是生玄玉又出黑玉玉膏所出以灌丹木丹木五歲五色乃清鮮也

五味乃馨言滋香也黃帝乃取崑崙之玉榮謂玉華也離之華矣又曰登崑崙今食玉而投之鍾山之陽以種

瑤瑜之玉為良言最善也或作堅粟精密禮記曰瑤

彩互映色王子靈符應曰赤如鸚冠黃如以和柔剛

燕栗白如割肪黑如醉漆王之符彩也

西山經 卷之二 十六

言玉備九德也。天地鬼神是食是饗。玉所以祈祭者言能動天地感鬼神。君子服之以禦不祥。今微外出金剛石石屬而似金有光彩可以刻玉外國人帶之云辟惡氣亦此。自崧山至于鍾山四百六十里其間盡澤也是類也。

多奇鳥怪獸奇魚皆異物焉。

又西北四百二十里曰鍾山其子曰鼓。此亦神名名之子耳其類皆其狀如人面而龍身。啓蓋曰麗山之子見歸藏啓蓋。

狀也是與欽鴆音殺蓀江于崑崙之陽蓀或帝乃戮

之鍾山之東曰嶠音逆崖欽鴆化為大鴞也音鸞其狀

如鵬而黑文白首赤喙而虎爪其音如晨鶴晨鶴屬鴞

晨鳧耳說苑曰鸞見則有大兵鼓亦化為鴟鳥音俊其

狀如鴟赤足而直喙黃文而白首其音如鴟見即其

邑大旱穆天子傳云鍾山作春字音同耳穆王北升

百獸之所聚飛鳥之栖也爰有赤豹白虎白鳥青鸞

執犬羊食豕鹿穆王五日觀于鍾山乃為鐘述於縣

又西百八十里曰秦器之山觀水出焉西流注于流

沙是多文鰩魚音遙狀如鯉魚魚身而鳥翼蒼文而白

首赤喙常行西海遊於東海以夜飛其音如鸞鴟鸞或作鸞

其味酸甘食之已狂見則天下大穰豐穰

西山經

卷之二

七

言玉備九德也。天地鬼神是食是饗。玉所以祈祭者言能動天地感鬼神。君子服之以禦不祥。今微外出金剛石石屬而似金有光

多奇鳥怪獸奇魚皆異物焉。

又西北四百二十里曰鍾山其子曰鼓。此亦神名名之子耳其類皆其狀如人面而龍身。啓蓋曰麗山之子見歸藏啓蓋。

狀也是與欽鴆音殺蓀江于崑崙之陽蓀或帝乃戮

之鍾山之東曰嶠音逆崖欽鴆化為大鴞也音鸞其狀

如鵬而黑文白首赤喙而虎爪其音如晨鶴晨鶴屬鴞

晨鳧耳說苑曰鸞見則有大兵鼓亦化為鴟鳥音俊其

狀如鴟赤足而直喙黃文而白首其音如鴟見即其

邑大旱穆天子傳云鍾山作春字音同耳穆王北升

百獸之所聚飛鳥之栖也爰有赤豹白虎白鳥青鸞

執犬羊食豕鹿穆王五日觀于鍾山乃為鐘述於縣

又西百八十里曰秦器之山觀水出焉西流注于流

沙是多文鰩魚音遙狀如鯉魚魚身而鳥翼蒼文而白

首赤喙常行西海遊於東海以夜飛其音如鸞鴟鸞或作鸞

其味酸甘食之已狂見則天下大穰豐穰

西山經

卷之二

七



也韓子曰  
穰成之秋

又西三百二十里曰槐江之山丘時之水出焉而北  
流注于泐水其中多蘼母即蝶也其上多青雉黃多藏

琅玕黃金玉琅玕石似珠者藏其陽多丹粟其陰多

采黃金銀實惟帝之平圃即安圃也穆天子傳曰乃

石紀功德如秦皇神萊招司之其狀馬身而

人面虎文而鳥翼狗于四海狗謂周其音如留音留

西望大澤后稷所潛也后稷生而靈知及其終化形

木也其中多玉其陰多稻木之有若稻木木木也言

之離命其鷹鷂之所宅也鷂亦鷂屬也莊周曰鷂鷂

有白鳥青鸚東望恒山四成成亦重也爾雅有窮鬼

居之各在一搏搏猶會也言羣鬼各以類聚爰有滯

水其清洛洛水留下之貌有天神焉其狀如牛而八

足二首馬尾其音如勃皇詳見則其邑有兵

西南四百里曰崑崙之丘是實惟帝之下都天帝都

下者也穆天子傳曰吉日辛酉天子升于崑崙之丘

西山經

卷之二

木

也韓子曰  
穰成之秋

又西三百二十里曰槐江之山丘時之水出焉而北  
流注于泐水其中多蘼母即蝶也其上多青雉黃多藏

琅玕黃金玉琅玕石似珠者藏其陽多丹粟其陰多

采黃金銀實惟帝之平圃即安圃也穆天子傳曰乃

石紀功德如秦皇神萊招司之其狀馬身而

人面虎文而鳥翼狗于四海狗謂周其音如留音留

西望大澤后稷所潛也

木也其中多玉其陰多稻木之有若

之離命其鷹鷂之所宅也

有白鳥青鸚東望恒山四成成亦重也爾雅有窮鬼

居之各在一搏搏猶會也言羣鬼各以類聚爰有滯

水其清洛洛水留下之貌有天神焉其狀如牛而八

足二首馬尾其音如勃皇

西南四百里曰崑崙之丘是實惟帝之下都

下者也穆天子傳曰吉日辛酉天子升于崑崙之丘

以觀黃帝之宮而封靈隆之肆以詔後世言增封于

西山經

卷之二

木

木



88 神陸吾 88 欽原 88 土螻

87 天神 87 神與招



嶺南山 神陸吾司之吾得之也莊周曰肩其神狀虎

身而九尾人面而虎爪是神也司天之九部及帝之

囿時帝堯圖之時節也有獸焉其狀如羊而四角名

曰土螻是食人有鳥焉其狀如蜂大如鴛鴦名曰欽

原欽或作爰蠶鳥獸則死蠶木則枯有鳥焉其名曰

鶉鳥是司帝之百服服事也或作鷩有木焉其狀如

棠棠葉華黃赤實其味如李而無核名曰沙棠可以

禦水食之使人不溺言體浮輕也沙棠為木不可得

之實銘曰安得沙棠刻以遊有草焉名曰賁音頓草其狀

焉為舟沉彼滄海以遊如葵其味如葱食之已勞美者崑崙之蕪河水出

焉北出山東而南流東注于無達山亦山名赤水所窮也

而東南流注于汨天之水汨天亦山名赤水所窮也

之側赤水之陽陽陽或作滄而西南流注

于醜塗之水醜塗亦山名也皆在南極穆天子傳

水出焉亦出西而西流于大杆山名也穆天子傳曰

西河是惟崑崙滿鸞之謂有一鳥六首之

屬也

西山經 卷之二 于 第十二圖終

嶺南山 神陸吾司之即肩吾也莊周曰肩其神狀虎

身而九尾人面而虎爪是神也司天之九部及帝之

囿時帝堯圖之時節也有獸焉其狀如羊而四角名

曰土螻是食人有鳥焉其狀如蜂大如鴛鴦名曰欽

原欽或作爰蠶鳥獸則死蠶木則枯有鳥焉其名曰

鶉鳥是司帝之百服服事也或作鷩有木焉其狀如

棠棠葉華黃赤實其味如李而無核名曰沙棠可以

禦水食之使人不溺言體浮輕也沙棠為木不可得

之實銘曰安得沙棠刻以遊有草焉名曰賁音頓草其狀

焉為舟沉彼滄海以遊如葵其味如葱食之已勞美者崑崙之蕪河水出

焉北出山東而南流東注于無達山亦山名赤水所窮也

而東南流注于汨天之水汨天亦山名赤水所窮也

之側赤水之陽陽陽或作滄而西南流注

于醜塗之水醜塗亦山名也皆在南極穆天子傳

水出焉亦出西而西流于大杆山名也穆天子傳曰

西河是惟崑崙滿鸞之謂有一鳥六首之

屬也

西山經 卷之二 于 第十二圖終



90 神長乘

91 勝通

91 西玉母

91 殺

89 鯨魚



又西三百七十里曰樂游之山桃水出焉西流注于稷澤是多白玉其中多鱗滑音魚其狀如蛇而四足是食魚

西水行四百里曰流沙二百里至于羸母之山神長乘司之是天之九德也九德九氣所生其神狀如人而豹之

反尾其上多玉其下多青石而無水

又西三百五十里曰玉山是西王母所居也此山多玉石因

以名云穆天子傳謂之羸母之山見其山河無險四徽中繩先王之所謂策旆冢草木無鳥獸羸母於是攻其玉石取玉石版二乘玉器服物西王母其狀如戴玉萬髮以歸雙玉為設半鼓為復

人豹尾虎齒而善嘯蓬髮戴勝蓬頭亂髮勝是司天之厲及五殘王知宋厲五刑殘殺之氣也穆天子傳曰吉日甲子天子賓于西王母執玄圭

白璧以見西王母獻錦組百純紺三百純西王母再拜受之乙丑天子歸西王母于瑯池之上西王母為天子謫曰白雲在天山陵自出道里悠遠山川開之將于無死尚復能來天子答之曰子還東土和理諸夏萬民均平吾願見汝比及三年將復而野西王母

又為天子吟曰組彼西七爰居其所虎豹為羣鳥鵲與處嘉命不遷我惟帝女彼何世氏又將去于吹笙鼓簧中心翱翔世民之子惟天之望天子遂驅升于

有山乃紀述于卷山之石而樹之槐眉曰西王母之山卷山即峻嶺山也秦竹書穆王五十七年西王母來見靈于昭宮瑤時西王母遣使獻玉環見禮三朝有獸焉其狀如犬而豹文

其角如牛羊其名曰狡其音如吠犬見則其國大

南山經卷之二

又西三百七十里曰樂游之山桃水出焉西流注于稷澤是多白玉其中多鱗滑音魚其狀如蛇而四足是食魚

西水行四百里曰流沙二百里至于羸母之山神長乘司之是天之九德也九德九氣所生其神狀如人而豹之

反尾其上多玉其下多青石而無水

又西三百五十里曰玉山是西王母所居也此山多玉石因

以名云穆天子傳謂之羸母之山見其山河無險四徽中繩先王之所謂策旆冢草木無鳥獸羸母於是攻其玉石取玉石版二乘玉器服物西王母其狀如戴玉萬髮以歸雙玉為設半鼓為復

人豹尾虎齒而善嘯蓬髮戴勝蓬頭亂髮勝是司天之厲及五殘王知宋厲五刑殘殺之氣也穆天子傳曰吉日甲子天子賓于西王母執玄圭

白璧以見西王母獻錦組百純紺三百純西王母再拜受之乙丑天子歸西王母于瑯池之上西王母為天子謫曰白雲在天山陵自出道里悠遠山川開之將于無死尚復能來天子答之曰子還東土和理諸夏萬民均平吾願見汝比及三年將復而野西王母

又為天子吟曰組彼西七爰居其所虎豹為羣鳥鵲與處嘉命不遷我惟帝女彼何世氏又將去于吹笙鼓簧中心翱翔世民之子惟天之望天子遂驅升于

有山乃紀述于卷山之石而樹之槐眉曰西王母之山卷山即峻嶺山也秦竹書穆王五十七年西王母來見靈于昭宮瑤時西王母遣使獻玉環見禮三朝有獸焉其狀如犬而豹文

其角如牛羊其名曰狡其音如吠犬見則其國大

西山經卷之二

獲晉太康七年邵陵扶夷縣獵得一獸狀如豹有鳥  
焉其狀如翟而赤名曰胜音遇是食魚其音如錄義未  
詳見則其國大水

又西四百八十里曰軒轅之丘無草木黃帝居此丘  
因號軒轅丘要西陵氏女洶水出焉南流注于黑水其中多丹粟多青

雄黃

又西三百里曰積石之山其下有石門河水冒以西  
流音猶覆也積石山今在金城河門關是山也萬物

無不有焉水經引山海經云積石山第十三圖終  
在西南羌中河水行塞外東入塞內

又西二百里曰長留之山其神白帝少昊居之全天  
氏帝其獸皆文尾或作其鳥皆文首長是多文

玉石實惟員神魄音魄氏之官是神也主司反景日西  
景及東照之

又西二百八十里曰章莪之山無草木多瑤碧瑤亦  
所為甚怪多有非有獸焉其狀如赤豹五尾一角其

音如擊石其名曰猓京氏易義曰音如有鳥焉其狀

如鶴一足赤文青質而白喙名曰畢方其鳴自叫也

見則其邑有譌火譌亦妖

西山經 卷之二 三

獲晉太康七年邵陵扶夷縣獵得一獸狀如豹有鳥  
焉其狀如翟而赤名曰胜音遇是食魚其音如錄義未  
詳見則其國大水

又西四百八十里曰軒轅之丘無草木黃帝居此丘  
因號軒轅丘要西陵氏女洶水出焉南流注于黑水其中多丹粟多青

雄黃

又西三百里曰積石之山其下有石門河水冒以西  
流音猶覆也積石山今在金城河門關是山也萬物

無不有焉水經引山海經云積石山第十二圖終  
在西南羌中河水行塞外東入塞內

又西二百里曰長留之山其神白帝少昊居之全天  
氏帝其獸皆文尾或作其鳥皆文首長是多文

玉石實惟員神魄音魄氏之官是神也主司反景日西  
景及東照之

又西二百八十里曰章莪之山無草木多瑤碧瑤亦  
所為甚怪多有非有獸焉其狀如赤豹五尾一角其

音如擊石其名曰猓京氏易義曰音如有鳥焉其狀

如鶴一足赤文青質而白喙名曰畢方其鳴自叫也

見則其邑有譌火譌亦妖

西山經 卷之二 三



100 帝江  
98 檄猢

96 天狗  
95 畢方  
95 如狻



又西三百里曰陰山濁浴之水出焉而南流注于蕃澤其中多文貝餘泉蛭之類也見爾雅有獸焉其狀如狸或作豹而白首名曰天狗其音如榴榴或作榴榴可以禦凶

又西二百里曰符陽音陽之山其上多稷柎下多金玉神江疑居之是山也多怪雨風雲之所出也

又西二百二十里曰三危之山今在敦煌郡尚書云三危是也三青鳥居之是山也廣圍百里取食者別自棲息于此山也竹書曰穆王西征至于青鳥所解也其上有獸焉其狀如牛白身四角其毫如披蓑蓑辟雨之衣也音梭其名曰微猓微音是食

人有鳥焉一首而三身其狀如鸚其名曰鵙鵙似鸚則枯應在上欽原下脫鋪在此耳又西一百九十里曰驪山其上多玉而無石神者童居之童者童老童顯頤之字其音常如鐘磬其下多積蛇

又西三百五十里曰天山多金玉有青雄黃英木出焉而西南流注于湯谷有神焉其狀如黃囊赤如丹火體色黃而精光赤也六足四翼渾敦無面目是識歌舞實惟帝江也夫形無全者則神自然靈照精無見者則聞混池為儻忽所鑿七窰而死者蓋假此以實言也

西山經 卷之二 第十四圖經

又西三百里曰陰山濁浴之水出焉而南流注于蕃澤其中多文貝餘泉蛭之類也見爾雅有獸焉其狀如狸或作豹而白首名曰天狗其音如榴榴或作榴榴可以禦凶

又西二百里曰符陽音陽之山其上多稷柎下多金玉神江疑居之是山也多怪雨風雲之所出也

又西二百二十里曰三危之山今在敦煌郡尚書云三危是也三青鳥居之是山也廣圍百里取食者別自棲息于此山也竹書曰穆王西征至于青鳥所解也其上有獸焉其狀如牛白身四角其毫如披蓑蓑辟雨之衣也音梭其名曰微猓微音是食

又有鳥焉一首而三身其狀如鸚其名曰鵙鵙似鸚則枯應在上欽原下脫鋪在此耳又西一百九十里曰驪山其上多玉而無石神者童居之童者童老童顯頤之字其音常如鐘磬其下多積蛇

又西三百五十里曰天山多金玉有青雄黃英木出焉而西南流注于湯谷有神焉其狀如黃囊赤如丹火體色黃而精光赤也六足四翼渾敦無面目是識歌舞實惟帝江也夫形無全者則神自然靈照精無見者則聞混池為儻忽所鑿七窰而死者蓋假此以實言也

西山經 卷之二 第十四圖經





103 羊身人面神

102 鸛鶴



101 神蓐收

102 謹



又西二百九十里曰湖山湖音黠神蓐收居之亦金人面虎爪白尾其上多嬰短未詳之玉其陽多瑾瑜之玉其陰多青雄黃是山也西望日之所入其氣員形員故其氣神紅光之所司也未開其狀

象亦然也

西水行百里至于翼望之山或作土無草木多金玉有獸焉其狀如狸一曰而三尾名曰謹音獸或音其首如奪百聲言其能作百種物聲也或曰奪百物名亦所未詳是可以禦凶服之已痺黃痺病也音且有鳥焉其狀如鳥三首六尾而善笑名曰鵠鵠音餘服之使人不服不服夢也周書曰服者不味音莫禮反或

曰昧昧 又可以禦凶

凡西次三經之首崇吾之山至于翼望之山凡二十  
三山六千七百四十四里其神狀皆羊身人面其祠  
之禮用一吉玉瘞玉加采色者也尸精用稷米

第十五圖終

西次四經之首曰陰山上多穀無石其草多茆蕃茆也蕃青蕃似莎而大茆煩兩音陰水出焉西流注于洛

北五十里曰勞山多苳草一名苳草弱水出焉而西

流注于洛

卷之二十

五

又西二百九十里曰湖山湖音黠神蓐收居之亦金人面虎爪白尾其上多嬰短未詳之玉其陽多瑾瑜之玉其陰多青雄黃是山也西望日之所入其氣員形員故其氣神紅光之所司也未開其狀

象亦然也

西水行百里至于翼望之山或作土無草木多金玉有獸焉其狀如狸一曰而三尾名曰謹音獸或音其首如奪百聲言其能作百種物聲也或曰奪百物名亦所未詳是可以禦凶服之已痺黃痺病也音且有鳥焉其狀如鳥三首六尾而善笑名曰鵠鵠音餘服之使人不服不服夢也周書曰服者不味音莫禮反或

曰昧昧 又可以禦凶

凡西次三經之首崇吾之山至于翼望之山凡二十  
三山六千七百四十四里其神狀皆羊身人面其祠  
之禮用一吉玉瘞玉加采色者也尸精用稷米

第十五圖終

西次四經之首曰陰山上多穀無石其草多茆蕃茆也蕃青蕃似莎而大茆煩兩音陰水出焉西流注于洛

北五十里曰勞山多苳草一名苳草弱水出焉而西

流注于洛

西山經

卷之二

五



西山經 卷之二十六圖 天

119 當尾  
117 駘  
118 丹道魚

116 神魂  
117 雙蠻



西山經 卷之二 第十六圖 天

西五十里曰罷父之山海水出焉而西流注于洛其  
中多此碧

北百七十里曰申山其上多穀柞其下多柎榿其陽  
多金玉區水出焉而東流注于河

北二百里曰鳥山其上多桑其下多楮其陰多鉄其  
陽多玉厚水出焉而東流注于河

又北百二十里曰上甲之山上無草木而多硌石硌石下多榛栲榛子似栗而小味美栲木可以獸  
獸音洛  
多白鹿其鳥多當尾或作戶其狀如雉以其髯飛下須

毛食之不聊目湯水出焉東流注于河

又北百八十里曰諸次之山諸次之水出焉而東流  
注于河是山也多木無草鳥獸莫居是多衆蛇

又北百八十里曰驪山其木多漆櫟漆樹似其草多  
藥薺芎藭薺白芷別名薺香草也芎藭一名江離約音鳥較反多冷石今未詳

端水出焉而東流注于河

又北二百二十里曰孟山其陰多鐵其陽多銅其  
獸多白狼白虎外傳云周穆王伐犬戎得其鳥多白

雉白翟或作翠生水出焉而東流注于河

南山經 卷之二 无

西五十里曰罷父之山海水出焉而西流注于洛其  
中多此碧

北百七十里曰申山其上多穀柞其下多柎榿其陽  
多金玉區水出焉而東流注于河

北二百里曰鳥山其上多桑其下多楮其陰多鉄其  
陽多玉厚水出焉而東流注于河

又北百二十里曰上甲之山上無草木而多硌石硌石下多榛栲榛子似栗而小味美栲木可以獸  
獸音洛  
多白鹿其鳥多當尾或作戶其狀如雉以其髯飛下須

毛食之不聊目湯水出焉東流注于河

又北百八十里曰諸次之山諸次之水出焉而東流  
注于河是山也多木無草鳥獸莫居是多衆蛇

又北百八十里曰驪山其木多漆櫟漆樹似其草多  
藥薺芎藭薺白芷別名薺香草也芎藭一名江離約音鳥較反多冷石今未詳

端水出焉而東流注于河

又北二百二十里曰孟山其陰多鐵其陽多銅其  
獸多白狼白虎外傳云周穆王伐犬戎得其鳥多白

雉白翟或作翠生水出焉而東流注于河

西山經 卷之二 三五

西二百五十里曰白於之山上多松柏下多櫟檀櫟即柞其獸多牝牛羴羊其鳥多鴉鵙似鴉而青色洛水出于其陽而東流注于渭夾水出于其陰東流注于生水

西北三百里曰申首之山無草木冬夏有雪申水出于其上潛于其下是多白玉

又西五十五里曰涇谷之山或無之涇水出焉或以此山二字涇水出焉或以此山二字東南流注于渭是多白金白玉

又西百二十里曰剛山多柒木多瑇瑁之玉剛水出焉北流注于渭是多神魏魏亦醜魅之類也其狀人面獸身一足一手其音如欽欽亦吟字假音

又西二百里至剛山之尾洛水出焉而北流注于河其中多蠻蠻其狀鼠身而鼈首其音如吠犬

又西三百五十里曰英韃之山上多漆木下多金玉鳥獸盡白澗水出焉澗或作澗音寬在之寬而北注于陵羊之澤是多再遺之魚魚身蛇首六足其目如馬耳食之使人不昧可以禦凶

又西三百里曰申曲之山其陽多玉其陰多雄黃白玉及金有獸焉其狀如馬而白身黑尾一角虎牙爪

西山經 卷之二 手

西二百五十里曰白於之山上多松柏下多櫟檀櫟即柞其獸多牝牛羴羊其鳥多鴉鵙似鴉而青色洛水出于其陽而東流注于渭夾水出于其陰東流注于生水

西北三百里曰申首之山無草木冬夏有雪申水出于其上潛于其下是多白玉

又西五十五里曰涇谷之山或無之涇水出焉或以此山二字涇水出焉或以此山二字東南流注于渭是多白金白玉

又西百二十里曰剛山多柒木多瑇瑁之玉剛水出焉北流注于渭是多神魏魏亦醜魅之類也其狀人面獸身一足一手其音如欽欽亦吟字假音

又西二百里至剛山之尾洛水出焉而北流注于河其中多蠻蠻其狀鼠身而鼈首其音如吠犬

又西三百五十里曰英韃之山上多漆木下多金玉鳥獸盡白澗水出焉澗或作澗音寬在之寬而北注于陵羊之澤是多再遺之魚魚身蛇首六足其目如馬耳食之使人不昧可以禦凶

又西三百里曰申曲之山其陽多玉其陰多雄黃白玉及金有獸焉其狀如馬而白身黑尾一角虎牙爪

西山經 卷之二 手

音如誠音其名曰駮是食虎豹爾雅說駮不道有角  
 盡可以禦兵養之辟有木焉其狀如棠而圓葉赤實  
 實大如木瓜木瓜如名曰穰穰木食之多力木食之  
 人多為仁者名  
 焉若木此之類

第十六圖終

又西二百六十里曰邽音圭山其上有獸焉其狀如牛  
 蝟毛名曰窮奇音如獬狗是食人或云似虎蝟毛有

厥形甚醜馳逐妖邪莫不潰水出焉南流注于泮水  
 泮水是以一名號曰神狗魚身而鳥翼音  
 其中多黃貝貝甲玉肉如科羸音

如鴛鴦見則其邑大水

又西二百二十里曰烏鼠同穴之山今在隴西首陽  
 鼠同穴鳥名曰鴝鼠名曰鵲鵲如人家鼠而短尾鴝  
 似燕而黃色穿地入數尺鼠在內鳥在外而共處其  
 氏尚書傳曰共為雌雄張其上多白虎白玉渭水出  
 氏地里記云不為牲也

焉而東流注于河出山東至弘農其中多鱖音魚其

南山經 卷之二 圭

音如誠音其名曰駮是食虎豹爾雅說駮不道有角  
 盡可以禦兵養之辟有木焉其狀如棠而圓葉赤實  
 實大如木瓜木瓜如名曰穰穰木食之多力木食之  
 人多為仁者名  
 焉若木此之類

第十六圖終

又西二百六十里曰邽音圭山其上有獸焉其狀如牛  
 蝟毛名曰窮奇音如獬狗是食人或云似虎蝟毛有

厥形甚醜馳逐妖邪莫不潰水出焉南流注于泮水  
 泮水是以一名號曰神狗魚身而鳥翼音  
 其中多黃貝貝甲玉肉如科羸音

如鴛鴦見則其邑大水

又西二百二十里曰烏鼠同穴之山今在隴西首陽  
 鼠同穴鳥名曰鴝鼠名曰鵲鵲如人家鼠而短尾鴝  
 似燕而黃色穿地入數尺鼠在內鳥在外而共處其  
 氏尚書傳曰共為雌雄張其上多白虎白玉渭水出  
 氏地里記云不為牲也

焉而東流注于河出山東至弘農其中多鱖音魚其

西山經 卷之二 圭



人乘車馬... 卷之二十七

120 窮奇

122 人面鵝  
121 鰐魚

122 黿湖

121 鳥鼠同穴  
121 蟹鯢魚



西山經

卷之二十七

三十一

狀如鯪魚鯪魚大魚也口在頰下動則其邑有大兵  
或脫無從動體有連甲也或作鯪鯪  
則以下語者濫檻水出于其西西流注于漢水多鯪  
鯪之魚如玳其狀如覆鈹鳥首而魚翼魚尾音如磬

石之聲是生珠玉亦珠母蚌類  
而能生出之

西南三百六十里曰崦嵫之山日沒所入山也見其  
離騷奄茲兩音

上多丹木其葉如穀其實大如瓜赤符而黑理食之

已癯可以禦火其陽多龜其陰多玉苻或作水山焉

而西流注于海大禹傳曰消盤其中多砥礪磨石也

倉為有獸焉其狀馬身而鳥翼人面蛇尾是好舉人

喜抱舉人名曰執湖有鳥焉其狀如鴉而人面雌身犬尾

雌稱猴屬也音贈遺之遺其鳴自號也或作設設

音諫見中山經尾又作皆此脫見則其邑大旱

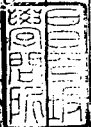
凡西次四經自陰山以下至于崦嵫之山凡十九山

三千六百八十里其祠祀禮皆用一白雞祈糈以稻

米白菅為席

右西經之山凡七十七山一萬七千五百一十七

里



第十七圖終

狀如鯪魚鯪魚大魚也口在頰上動則其邑有大兵  
或脫無從動體有連甲也或作鯪鯪  
則以下語者濫檻水出于其西西流注于漢水多鯪  
鯪之魚如玳其狀如覆鈹鳥首而魚翼魚尾音如磬

石之聲是生珠玉亦珠母蚌類  
而能生出之

西南三百六十里曰崦嵫之山日沒所入山也見其  
離騷奄茲兩音

上多丹木其葉如穀其實大如瓜赤符而黑理食之

已癯可以禦火其陽多龜其陰多玉苻或作水山焉

而西流注于海大禹傳曰消盤其中多砥礪磨石也

倉為有獸焉其狀馬身而鳥翼人面蛇尾是好舉人

喜抱舉人名曰執湖有鳥焉其狀如鴉而人面雌身犬尾

雌稱猴屬也音贈遺之遺其鳴自號也或作設設

音諫見中山經尾又作皆此脫見則其邑大旱

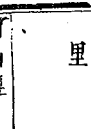
凡西次四經自陰山以下至于崦嵫之山凡十九山

三千六百八十里其祠祀禮皆用一白雞祈糈以稻

米白菅為席

右西經之山凡七十七山一萬七千五百一十七

里



第十七圖終



山海經第三

北山經

晉記室參軍郭璞傳

北山經之首曰單狐之山多杌木杌木似榆可燒以糞稻田出蜀中音

其上多華草澹音遂水出焉而西流注于泐水其中

多苙石文石

二百五十里曰求如之山其上多銅其下多玉

無草木滑水出焉而西流注于諸毗之水水出于毗山也其

中多滑魚其狀如鱣赤首鱣魚似鮪音善其音如梧如人相杖梧聲

卷之三

山海經第三

北山經

晉記室參軍郭璞傳

北山經之首曰單狐之山多杌木杌木似榆可燒以糞稻田出蜀中音

其上多華草澹音遂水出焉而西流注于泐水其中

多苙石文石

又北二百五十里曰求如之山其上多銅其下多玉

無草木滑水出焉而西流注于諸毗之水水出于毗山也其

中多滑魚其狀如鱣赤首鱣魚似鮪音善其音如梧如人相杖梧聲

北山經 卷之三



126 鵠鵠

127 孟槐



128 鱗鱗魚

127 柯羅魚

126 隴疏

128 儻魚

125 滑魚



音吾子 食之已疢也 就養 其中多水馬其狀如馬文臂  
牛尾 臂前脚也 周禮曰馬黑脊而斑臂腹漢武元狩  
四年燧煙灑注水出焉以為羣羆者即此類也  
其音如呼如入

又北三百里曰帶山其上多玉其下多青碧有獸焉  
其狀如馬一角有錯也或作厖其名曰臚 臚可  
以辟火有鳥焉其狀如鳥五采而赤文名曰鶉鶉已  
有此鳥是自為牝牡食之不疽無難病 彭水出焉而  
疑同各是為牝牡食之不疽無難病 彭水出焉而  
西流注于苾湖之水其中多儵魚其狀如雞而赤  
毛二尾六足四首其音如鶉食之可以已憂

又北四百里曰譙明之山譙水出焉西流注于河其  
中多何羅之魚一首而十身其音如吠犬食之已癘  
有獸焉其狀如狸而赤豪也音九其音如榴榴名曰  
孟槐可以禦凶在畏符畫中也 是山也無草木多青  
雄黃 一作多 音碧

又北三百五十里曰涿光之山巖水出焉而西流注  
于河其中多鰓鰈之魚其狀如鵠而十翼鱗皆在  
羽端其音如鵠可以禦火食之不癘其上多松柏其  
下多棗檀其獸多羆羊其鳥多蕃也 第十八圖終

北山經 八卷之三

注

音吾子 食之已疢也 就養 其中多水馬其狀如馬文臂  
牛尾 臂前脚也 周禮曰馬黑脊而斑臂腹漢武元狩  
四年燧煙灑注水出焉以為羣羆者即此類也  
其音如呼如入

又北三百里曰帶山其上多玉其下多青碧有獸焉  
其狀如馬一角有錯也或作厖其名曰臚 臚可  
以辟火有鳥焉其狀如鳥五采而赤文名曰鶉鶉已  
有此鳥是自為牝牡食之不疽無難病 彭水出焉而  
疑同各是為牝牡食之不疽無難病 彭水出焉而  
西流注于苾湖之水其中多儵魚其狀如雞而赤  
毛三尾六足四首其音如鶉食之可以已憂

又北四百里曰譙明之山譙水出焉西流注于河其  
中多何羅之魚一首而十身其音如吠犬食之已癘  
有獸焉其狀如狸而赤豪也音九其音如榴榴名曰  
孟槐可以禦凶在畏符畫中也 是山也無草木多青  
雄黃 一作多 音碧

又北三百五十里曰涿光之山巖水出焉而西流注  
于河其中多鰓鰈之魚其狀如鵠而十翼鱗皆在  
羽端其音如鵠可以禦火食之不癘其上多松柏其  
下多棗檀其獸多羆羊其鳥多蕃也 第十八圖終

北山經 八卷之三

三



129 麋  
134 鳩  
132 孟極

129 鸞  
134 足管  
132 孟極  
133 幽頭



又北三百八十里曰號山其上多漆其下多桐桐也楸橫木臚其陽多玉其陰多鐵伊水出焉西流節中扶柁音居注于河其獸多蒙駝有肉黻善行流沙中日行三百里其負千斤知水泉所在也其鳥多寓狀如鼠而鳥翼其音如羊可以禦兵

又北四百里至于號山之尾其上多玉而無石魚水出焉西流注于河其中多文貝

又北二百里曰丹熏之山其上多檉柏其草多韭菹音菜雅有其名多丹腹焉水出焉而西流注于棠水有獸焉其狀如鼠而菟首麋身其音如犍犬以其尾飛音飛名曰耳鼠食之不脛音脛又可以用音飛

又北二百八十里曰石者之山其上無草木多瑤碧音瑤泐水出焉西流注于河有獸焉其狀如豹而文題白音題身也音題名曰孟極是善伏其鳴自呼

又北百一十里曰邊春之山音春多葱葵韭山蔥名桃李山桃不辭核也音不紅水出焉而西流注于湖澤有獸焉其狀如禺而文身善笑見人則卧音作眠也音作名曰幽鷄音鷄其鳴自呼

北山經 卷之三 五

又北三百八十里曰號山其上多漆其下多桐桐也楸橫木臚其陽多玉其陰多鐵伊水出焉西流節中扶柁音居注于河其獸多蒙駝有肉黻善行流沙中日行三百里其負千斤知水泉所在也其鳥多寓狀如鼠而鳥翼其音如羊可以禦兵

又北四百里至于號山之尾其上多玉而無石魚水出焉西流注于河其中多文貝

又北二百里曰丹熏之山其上多檉柏其草多韭菹音菜雅有其名多丹腹焉水出焉而西流注于棠水有獸焉其狀如鼠而菟首麋身其音如犍犬以其尾飛音飛名曰耳鼠食之不脛音脛又可以用音飛

又北二百八十里曰石者之山其上無草木多瑤碧音瑤泐水出焉西流注于河有獸焉其狀如豹而文題白音題身也音題名曰孟極是善伏其鳴自呼

又北百一十里曰邊春之山音春多葱葵韭山蔥名桃李山桃不辭核也音不紅水出焉而西流注于湖澤有獸焉其狀如禺而文身善笑見人則卧音作眠也音作名曰幽鷄音鷄其鳴自呼

北山經 卷之三 五

又北二百里曰莫聯之山萬連其上無草木有獸焉其狀如禺而有鬣牛尾文臂馬蹄見人則呼名曰足警其鳴自呼有鳥焉羣居而朋飛朋猶其毛如雌雉名曰鴛音交或作鴻也其鳴自呼食之已風第十九圖終

又北百八十里曰單張之山其上無草木有獸焉其狀如豹而長尾人首而牛耳二目名曰諸捷音如捷善叱行則斷其尾居則蟠其尾有鳥焉其狀如雉而文首白翼黃足名曰白鶴音夜食之已噬痛噬咽也梁傳曰噬呼咽為噬音隘可以已癩癩癩病也櫟水出焉而南流注于枉水

又北三百二十里曰灌題之山其上多樗栎其下多流沙多砥有獸焉其狀如牛而白尾其音如訃訃如人呼名曰那父有鳥焉其狀如雌雉而人面見人則躍躍跳名曰疎斯其鳴自呼也匠韓之水出焉而西流注于湖澤其中多磁石磁石者下必有銅音慈

又北二百里曰潘侯之山其上多松柏其下多榛栝其陽多玉其陰多鐵有獸焉其狀如牛而四節生毛名曰旄牛今旄牛背膝及胡尾皆有長毛邊水出焉而南流注于櫟

北山經

卷之三

木

又北二百里曰莫聯之山萬連其上無草木有獸焉其狀如禺而有鬣牛尾文臂馬蹄見人則呼名曰足警其鳴自呼有鳥焉羣居而朋飛朋猶其毛如雌雉名曰鴛音交或作鴻也其鳴自呼食之已風第十九圖終

又北百八十里曰單張之山其上無草木有獸焉其狀如豹而長尾人首而牛耳二目名曰諸捷音如捷善叱行則斷其尾居則蟠其尾有鳥焉其狀如雉而文首白翼黃足名曰白鶴音夜食之已噬痛噬咽也梁傳曰噬呼咽為噬音隘可以已癩癩癩病也櫟水出焉而南流注于枉水

又北三百二十里曰灌題之山其上多樗栎其下多流沙多砥有獸焉其狀如牛而白尾其音如訃訃如人呼名曰那父有鳥焉其狀如雌雉而人面見人則躍躍跳名曰疎斯其鳴自呼也匠韓之水出焉而西流注于湖澤其中多磁石磁石者下必有銅音慈

又北二百里曰潘侯之山其上多松柏其下多榛栝其陽多玉其陰多鐵有獸焉其狀如牛而四節生毛名曰旄牛今旄牛背膝及胡尾皆有長毛邊水出焉而南流注于櫟

北山經

卷之三

六

北山經  
卷之三 第二十圖  
七



139 長蛇

137 旄牛  
138 珠斯

135 諸健

136 群父  
135 白鶴

北山經  
卷之三 第二十圖  
七



澤

又北二百三十里曰小威之山無草木冬夏有雪

北二百八十里曰大威之山無草木其下多玉是山

也四方不可以上有蛇名曰長蛇其毛如羸蒙說者

百尋今蝮蛇色似艾綠文間有毛如猪其音如鼓

擊此其類也常山亦有長蛇與此形不同拆如人行夜敲

又北三百二十里曰敦薨之山其上多櫻栴其下多

此草敦薨之水出焉而西流注于湖澤出于崑崙之

東北隅實惟河源即河水出崑崙之虛其中多赤鯪今名鯪魚

其獸多兕旄牛或作犏牛犏牛見離騷天問宋詳其鳥多鴈鳩

又北二百里曰少咸之山無草木多青碧有獸焉其

狀如牛而赤身人面馬足名曰窳窳爾雅云窳窳似

二音其音如嬰兒是食人教水出焉東流注于鴈門

之水水出鴈門山間其中多鮪鮪音沛未詳之魚食之殺人

又北二百里曰猷法之山漢音澤之水出焉而東北

流注于泰澤其中多鱣音鱣魚其狀如鯉而雞足食之

已疣有獸焉其狀如犬而人面善投見人則笑其名

北山經 卷之三 八

澤

又北二百三十里曰小威之山無草木冬夏有雪

北二百八十里曰大威之山無草木其下多玉是山

也四方不可以上有蛇名曰長蛇其毛如羸蒙說者

百尋今蝮蛇色似艾綠文間有毛如猪其音如鼓

擊此其類也常山亦有長蛇與此形不同拆如人行夜敲

又北三百二十里曰敦薨之山其上多櫻栴其下多

此草敦薨之水出焉而西流注于湖澤出于崑崙之

東北隅實惟河源即河水出崑崙之虛其中多赤鯪今名鯪魚

其獸多兕旄牛或作犏牛犏牛見離騷天問宋詳其鳥多鴈鳩

又北二百里曰少咸之山無草木多青碧有獸焉其

狀如牛而赤身人面馬足名曰窳窳爾雅云窳窳似

二音其音如嬰兒是食人教水出焉東流注于鴈門

之水水出鴈門山間其中多鮪鮪音沛未詳之魚食之殺人

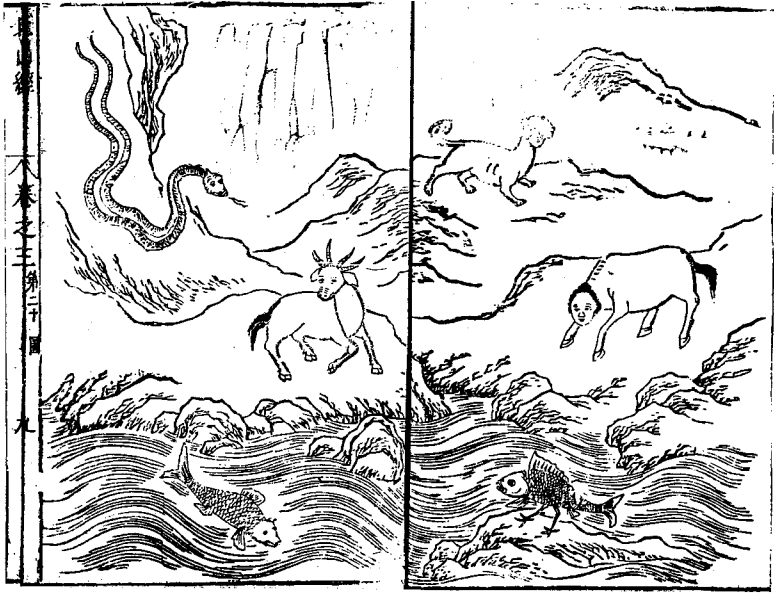
又北二百里曰猷法之山漢音澤之水出焉而東北

流注于泰澤其中多鱣音鱣魚其狀如鯉而雞足食之

已疣有獸焉其狀如犬而人面善投見人則笑其名

北山經 卷之三 八





144 肥遼

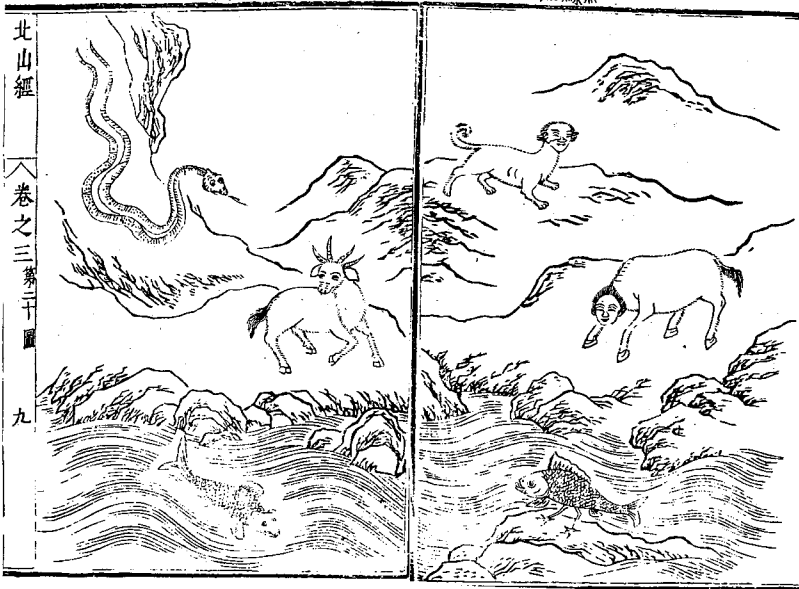
143 諸農

142 山獐

141 變藏

143 鮫魚

142 鱧魚



北山經

八卷之三第十圖

九

山獬音其行如風見則天下大風

又北二百里曰北嶽之山多枳棘剛木檀栢有獸焉

其狀如牛而四角人目羸耳其名曰諸懷其音如鳴

鴈是食人諸懷之水出焉而西流注于鬲水其中多

鮪音魚魚身而犬首其音如嬰兒今海中有虎鹿魚

而頭似鹿鹿食之已狂

又北百八十里曰渾夕之山無草木多銅玉鬲水出

焉而西北流注于海有蛇一首兩身名曰肥遺見則

其國大旱管子曰涸水之精名曰蟪一頭而兩身其狀如蛇長八尺以其名呼之可使取魚

又北五十里曰北單之山無草木多葱韭

又北百里曰熊羆之山無草木多馬野馬也似馬而小

又北百八十里曰北鮮之山是多馬鮮水出焉而西

北流注于滄吾之水漢元符二年馬出滄吾水中也第廿一圖終

又北百七十里曰隄或作隄古字耳山多馬有獸焉其狀如

豹而文首名曰狢音隄水出焉而東流注于秦澤其

中多龍龜

凡北山經之首自單狐之山至于隄山凡二十五山

北山經 卷之三 十

山獬音其行如風見則天下大風

又北二百里曰北嶽之山多枳棘剛木檀栢有獸焉

其狀如牛而四角人目羸耳其名曰諸懷其音如鳴

鴈是食人諸懷之水出焉而西流注于鬲水其中多

鮪音魚魚身而犬首其音如嬰兒今海中有虎鹿魚

而頭似鹿鹿食之已狂

又北百八十里曰渾夕之山無草木多銅玉鬲水出

焉而西北流注于海有蛇一首兩身名曰肥遺見則

其國大旱管子曰涸水之精名曰蟪一頭而兩身其狀如蛇長八尺以其名呼之可使取魚

又北五十里曰北單之山無草木多葱韭

又北百里曰熊羆之山無草木多馬野馬也似馬而小

又北百八十里曰北鮮之山是多馬鮮水出焉而西

北流注于滄吾之水漢元符二年馬出滄吾水中也第廿一圖終

又北百七十里曰隄或作隄古字耳山多馬有獸焉其狀如

豹而文首名曰狢音隄水出焉而東流注于秦澤其

中多龍龜

凡北山經之首自單狐之山至于隄山凡二十五山

北山經 卷之三 十



160 鸞  
159 狔鴞

147 北山神面蛇身  
148 龍龜

148 狔

160 獨豸  
158 羆



五千四百九十里其神皆人面蛇身其祠之毛用一  
雄鷄彘瘞吉玉用一珪瘞而不糝言祭不用米皆其  
理其所用牲玉其

山北人皆生食不火之物或作皆生  
食而不火

北次二經之首在河之東其首枕汾臨汾水上  
也音噴其名

曰管涔之山今在大原郡故汾陽縣  
北秀容山音岑其上無木而多草

其下多玉汾水出焉而西流注于河至汾陽縣  
北西入河

又西二百五十里曰少陽之山其上多玉其下多赤  
銀銀之  
精也酸水出焉而東流注于汾水其中多美楛楛  
子

曰山上有鐵者其下有鐵

又北五十里曰縣雍之山今在晉陽縣西  
名波窳雍音窳其上多玉

其下多銅其獸多闕虞闕即羆也似羆而岐蹄角如  
羆羊一名山羆周禮曰比唐

以間亦見其鳥多白翟白鶴音于六反  
音水出焉而

東南流注于汾水東過晉陽南  
又東入汾其中多鯀魚其狀如

鯀而赤鱗小魚  
曰鯀其音如叱食之不驕或作驕  
發真也

又北二百里曰狐岐之山無草木多青碧勝水出焉

而東北流注于汾水其中多蒼玉

又北三百五十里曰白濟山廣圓三百里盡沙也無

草木鳥獸出山之頂是  
停其底也水出于其上潛于其下

八卷之三

主

五千四百九十里其神皆人面蛇身其祠之毛用一  
雄鷄彘瘞吉玉用一珪瘞而不糝言祭不用米皆其  
理其所用牲玉其

山北人皆生食不火之物或作皆生  
食而不火

北次二經之首在河之東其首枕汾臨汾水上  
也音噴其名

曰管涔之山今在大原郡故汾陽縣  
北秀容山音岑其上無木而多草

其下多玉汾水出焉而西流注于河至汾陽縣  
北西入河

又西二百五十里曰少陽之山其上多玉其下多赤  
銀銀之  
精也酸水出焉而東流注于汾水其中多美楛楛  
子

曰山上有鐵者其下有鐵

又北五十里曰縣雍之山今在晉陽縣西  
名波窳雍音窳其上多玉

其下多銅其獸多闕虞闕即羆也似羆而岐蹄角如  
羆羊一名山羆周禮曰比唐

以間亦見其鳥多白翟白鶴音于六反  
音水出焉而

東南流注于汾水東過晉陽南  
又東入汾其中多鯀魚其狀如

鯀而赤鱗小魚  
曰鯀其音如叱食之不驕或作驕  
發真也

又北二百里曰狐岐之山無草木多青碧勝水出焉

而東北流注于汾水其中多蒼玉

又北三百五十里曰白沙山廣圓三百里盡沙也無

草木鳥獸出山之頂是  
停其底也水出于其上潛于其下

北山經

八卷之三

主

白玉

又北四百里曰爾是之山無草木無水

又北三百八十里曰狂山無草木是山也冬夏有雪

狃水出焉而西流注于浮水其中多美玉

又北三百八十里曰諸餘之山其上多銅玉其下多

松柏諸餘之水出焉而東流注于旄水

又北三百五十里曰敦頭之山其上多金玉無草木

旄水出焉而東流注于印澤其中多騂馬平尾而

白身一魚其音如呼

又北三百五十里曰鉤吾之山其上多玉其下多銅

有獸焉其狀如羊身人面其目在腋下虎齒人爪其

音如嬰兒名曰狍鴟是食人為物食人未盡還

所謂饕餮是也狍音咆

又北三百里曰北囂之山無石其陽多碧其陰多玉

有獸焉其狀如虎而白身犬首馬尾羆羆名曰獨狻

音有鳥焉其狀如鳥人面名曰鷲鴟或作夏也宵飛

而畫伏鴟鴞之屬食之已賜音謂浮水出焉而東流注

于印澤

北山經

卷之三

三

第二十二圖終

白玉

又北四百里曰爾是之山無草木無水

又北三百八十里曰狂山無草木是山也冬夏有雪

狂水出焉而西流注于浮水其中多美玉

又北二百八十里曰諸餘之山其上多銅玉其下多

松柏諸餘之水出焉而東流注于旄水

又北三百五十里曰敦頭之山其上多金玉無草木

旄水出焉而東流注于印澤其中多騂馬牛尾而

白身一魚其音如呼

又北三百五十里曰鉤吾之山其上多玉其下多銅

有獸焉其狀如羊身人面其目在腋下虎齒人爪其

音如嬰兒名曰狍鴟是食人為物食人未盡還

所謂饕餮是也狍音咆

又北三百里曰北囂之山無石其陽多碧其陰多玉

有獸焉其狀如虎而白身犬首馬尾羆羆名曰獨狻

音有鳥焉其狀如鳥人面名曰鷲鴟或作夏也宵飛

而畫伏鴟鴞之屬食之已賜音謂浮水出焉而東流注

于印澤

北山經

卷之三

三

第二十二圖終



167 鷓居

167 居暨

167 天馬

167 人魚



167 翼

167 麟

167 鵠

北山經

八卷之三 第三十三圖

十四



又北三百五十里曰梁渠之山無草木多金玉修水出焉而東流注于鴈門水名其獸多居暨其狀如彘而赤毛彘似鼠赤毛如其音如豚有鳥焉其狀如夸父或作四翼一目大尾名曰囂其音如鵲食之已腹痛可以止衄治衄下也音漏

又北四百里曰姑灌之山無草木是山也冬夏有雪又北三百八十里曰湖灌之山其陽多玉其陰多碧多馬湖灌之水出焉而東流注于海其中多鯁亦鯁魚字

有木焉其葉如柳而赤也

又北水行五百里流沙三百里至于涓山其上多金玉三桑生之其樹皆無枝其高百仞百果樹生之其

下多怪蛇

又北三百里曰敦題之山無草木多金玉是鐸于北

海

凡北次二經之首自管涔之山至于敦題之山凡十七山五千六百九十里其神皆蛇身人面其祠毛用

一雄雞彘彘理之用一璧一珪投而不糈糈玉於山中

地之

水卷之三

圭

又北三百五十里曰梁渠之山無草木多金玉修水出焉而東流注于鴈門水名其獸多居暨其狀如彘而赤毛彘似鼠赤毛如其音如豚有鳥焉其狀如夸父或作四翼一目大尾名曰囂其音如鵲食之已腹痛可以止衄治衄下也音漏

又北四百里曰姑灌之山無草木是山也冬夏有雪又北三百八十里曰湖灌之山其陽多玉其陰多碧多馬湖灌之水出焉而東流注于海其中多鯁亦鯁魚字

有木焉其葉如柳而赤也

又北水行五百里流沙三百里至于涓山其上多金玉三桑生之其樹皆無枝其高百仞百果樹生之其

下多怪蛇

又北三百里曰敦題之山無草木多金玉是鐸于北

海

凡北次二經之首自管涔之山至于敦題之山凡十七山五千六百九十里其神皆蛇身人面其祠毛用

一雄雞彘彘理之用一璧一珪投而不糈糈玉於山中

地之

水卷之三

圭

北次三經之首曰太行之山今在河內野王縣其首西北行音戶剛反

曰歸山其上有金玉其下有碧有獸焉其狀如麋羊

而四角馬尾而有距其名曰驪善還還旋旋也驪音輝其鳴也驪音輝

自訓有鳥焉其狀如鵲白身赤尾六足其名曰鵲音

是善驚其鳴自詠今吳人謂呼為詠音呼交反

又東北二百里曰龍侯之山無草木多金玉決決之

水出焉而東流注于河其中多人魚其狀如鱖魚四

足其音如嬰兒鱖見山中經或曰人魚即鮪也似鮪而四足聲如小兒啼今亦呼鮪為鱖

音食之無癡疾

又東北二百里曰焉成之山其上多文石其陰多金

玉有獸焉其狀如白犬而黑頭見人則飛言肉翅飛行自在

其名曰天馬其鳴自訓有鳥焉其狀如鳥首白而身

青足黃是名曰鵬鵬屈居二音或作鳴其鳴自詠食之不饑

可以已寓未詳或曰寓猶誤也

又東北七十里曰咸山其上有玉其下多銅是多松

栝草多此草條骨之水出焉而西南流注于長澤其

中多器酸三歲一成未詳食之已癩音音好

北山經 卷之三 第二十三圖終

北次三經之首曰太行之山今在河內野王縣其首西北行音戶剛反

曰歸山其上有金玉其下有碧有獸焉其狀如麋羊

而四角馬尾而有距其名曰驪善還還旋旋也驪音輝其鳴也驪音輝

自訓有鳥焉其狀如鵲白身赤尾六足其名曰鵲音

是善驚其鳴自詠今吳人謂呼為詠音呼交反

又東北二百里曰龍侯之山無草木多金玉決決之

水出焉而東流注于河其中多人魚其狀如鱖魚四

足其音如嬰兒鱖見山中經或曰人魚即鮪也似鮪而四足聲如小兒啼今亦呼鮪為鱖

音食之無癡疾

又東北二百里曰焉成之山其上多文石其陰多金

玉有獸焉其狀如白犬而黑頭見人則飛言肉翅飛行自在

其名曰天馬其鳴自訓有鳥焉其狀如鳥首白而身

青足黃是名曰鵬鵬屈居二音或作鳴其鳴自詠食之不饑

可以已寓未詳或曰寓猶誤也

又東北七十里曰咸山其上有玉其下多銅是多松

栝草多此草條骨之水出焉而西南流注于長澤其

中多器酸三歲一成未詳食之已癩音音好

北山經 卷之三 第二十三圖終





172 象蛇

172 嶺胡

188 精衛

200 棘棘

171 飛鼠

172 鱸父之魚

176 鱸與



又東北二百里曰天池之山其上無草木多文石有獸焉其狀如兔而鼠首以其背飛用其背上毛其背飛則仰也其名曰飛鼠瀉水出焉潛于其下停山底也其中多黃堊堊上

又東三百里曰陽山其上多玉其下多金銅有獸焉其狀如牛而赤尾其頸鬣其狀如勾瞿言頸上有肉鬣音瞿手也

其狀如牛而赤尾其頸鬣其狀如勾瞿音瞿手也其名曰頡頏其鳴自設食之已狂有鳥焉其狀如雌雉而五彩以文是自為牝牡名曰象蛇其鳴自設

留水出焉而南流注于河其中有鱓音附父之魚其狀如鮒魚魚首而彘身食之已嘔

又東三百五十里曰黃聞之山其上多蒼玉其下多黃堊多涅石

又北百里曰王屋之山今在河東東垣縣北是多石書曰至于王屋也地理志王屋山流

灤音水出焉而西北流注于秦澤水所出灤九聲相近殆一水平

又東北三百里曰教山其上多玉而無石教水出焉西流注于河是冰冬乾而夏流實惟乾河今河東開喜縣東北

有故溝處無復水即是也其中有兩山是山也廣圓三百步其名曰發九之山其上有金玉

木春木主

又東北二百里曰天池之山其上無草木多文石有獸焉其狀如兔而鼠首以其背飛用其背上毛其背飛則仰也其名曰飛鼠瀉水出焉潛于其下停山底也其中多黃堊堊上

又東三百里曰陽山其上多玉其下多金銅有獸焉其狀如牛而赤尾其頸鬣其狀如勾瞿言頸上有肉鬣音瞿手也

其狀如牛而赤尾其頸鬣其狀如勾瞿音瞿手也其名曰頡頏其鳴自設食之已狂有鳥焉其狀如雌雉而五彩以文是自為牝牡名曰象蛇其鳴自設

留水出焉而南流注于河其中有鱓音附父之魚其狀如鮒魚魚首而彘身食之已嘔

又東三百五十里曰黃聞之山其上多蒼玉其下多黃堊多涅石

又北百里曰王屋之山今在河東東垣縣北是多石書曰至于王屋也地理志王屋山流

灤音水出焉而西北流注于秦澤水所出灤九聲相近殆一水平

又東北三百里曰教山其上多玉而無石教水出焉西流注于河是冰冬乾而夏流實惟乾河今河東開喜縣東北

有故溝處無復水即是也其中有兩山是山也廣圓三百步其名曰發九之山其上有金玉

北山經 卷之三 八

又南三百里曰景山外傳曰景霍以為城南望鹽販之澤即鹽池也  
今在河東衛氏北望少澤其上多草諸莢根似羊蹄  
縣或無取字二音今江南單呼為其草多秦椒子似椒而可食其陰多  
諸音備語有輕重耳其草多秦椒細葉草也其陰多  
精其陽多玉有鳥焉其狀如蛇而四翼六目三足各

曰酸與其鳴自諍見則其邑有恐或曰食之不醉

又東南三百二十里曰孟門之山尸子曰龍門未辟  
孟門之上天溢逆流無有丘陵高阜成之名其上多  
日洪水穆天子傳曰北升孟門九河之聲

蒼玉多金其下多黃堊多涅石

又東南三百二十里曰平山平水出于其上潛于其  
 下是多美玉

又東三百里曰京山有美玉多漆木多竹其陽有赤  
 銅其陰有玄礪黑砥石也尸子曰加玄黃砥高水出

焉南流注于河  
 又東二百里曰蟲尾之山其上多金玉其下多竹多  
 青碧丹水出焉南流注于河薄水出焉淮南子曰薄  
 而南流注于黃澤

又東三百里曰彭毗之山其上無草木多金玉其下  
 多水叢林之水出焉東南流注于河肥水出焉而南

北山經 八卷之三 九

又南三百里曰景山外傳曰景霍以為城南望鹽販之澤即鹽池也  
今在河東衛氏北望少澤其上多草諸莢根似羊蹄  
縣或無取字二音今江南單呼為其草多秦椒子似椒而可食其陰多  
諸音備語有輕重耳其草多秦椒細葉草也其陰多  
精其陽多玉有鳥焉其狀如蛇而四翼六目三足各

曰酸與其鳴自諍見則其邑有恐或曰食之不醉

又東南三百二十里曰孟門之山尸子曰龍門未辟  
孟門之上天溢逆流無有丘陵高阜成之名其上多  
日洪水穆天子傳曰北升孟門九河之聲

蒼玉多金其下多黃堊多涅石

又東南三百二十里曰平山平水出于其上潛于其  
 下是多美玉

又東三百里曰京山有美玉多漆木多竹其陽有赤  
 銅其陰有玄礪黑砥石也尸子曰加玄黃砥高水出

焉南流注于河  
 又東二百里曰蟲尾之山其上多金玉其下多竹多  
 青碧丹水出焉南流注于河薄水出焉淮南子曰薄  
 而南流注于黃澤

又東三百里曰彭毗之山其上無草木多金玉其下  
 多水叢林之水出焉東南流注于河肥水出焉而南

北山經 八卷之三 九

流注于泚水其中多肥遺之蛇

又東百八十里曰小侯之山明漳之水出焉南流注

于黃澤有鳥焉其狀如鳥而白文名曰鴝鵒姑習食

之不瀦不聽自也或作鴝音鸚

又東三百七十里曰秦頭之山其水出焉南注于虜

泚呼佗其上下多金玉其下多竹箭

又東北二百里曰軒轅之山其上多銅其下多竹有

鳥焉其狀如梟而白首其名曰黃鳥其鳴自設食之

不妬

又北二百里曰謂戾之山今在上党郡漳縣其上多松柏有

金玉沁水出焉南流注于河至樂陽縣東北入河或出穀連縣羊頭山也

其東有林焉名曰丹林丹林之水出焉南流注于河

嬰侯之水出焉北流注于泚水

東三百里曰沮洳之山詩云彼無草水有金玉瀑音其

水出焉南流注于河今泚水出汲郡陰慮縣大號

又北三百里曰神囷音如倉之山其上有文石其下

有白蛇有飛蟲黃水出焉而東流注于沮沮水出汲

東北至魏郡長樂滏水出焉而東流注于歐水今出

入泚水音九

流注于泚水其中多肥遺之蛇

又東百八十里曰小侯之山明漳之水出焉南流注

于黃澤有鳥焉其狀如鳥而白文名曰鴝鵒姑習食

之不瀦不聽自也或作鴝音鸚

又東三百七十里曰秦頭之山其水出焉南注于虜

泚呼佗其上下多金玉其下多竹箭

又東北二百里曰軒轅之山其上多銅其下多竹有

鳥焉其狀如梟而白首其名曰黃鳥其鳴自設食之

不妬

又北二百里曰謂戾之山今在上党郡漳縣其上多松柏有

金玉沁水出焉南流注于河至樂陽縣東北入河或出穀連縣羊頭山也

其東有林焉名曰丹林丹林之水出焉南流注于河

嬰侯之水出焉北流注于泚水

東三百里曰沮洳之山詩云彼無草水有金玉瀑音其

水出焉南流注于河今泚水出汲郡陰慮縣大號

又北三百里曰神囷音如倉之山其上有文石其下

有白蛇有飛蟲黃水出焉而東流注于沮沮水出汲

東北至魏郡長樂滏水出焉而東流注于歐水今出

入泚水音九

北山經

卷之三

子

臨水縣西谷中山經鄆西北  
至列人縣入于漳其水熱

又北二百里曰發鳩之山今在上党郡其上多栢木

有鳥焉其狀如烏文首白喙赤足名曰精衛其鳴自

詆是炎帝之少女名曰女娃炎帝神農也女娃

遊于東海溺而不返故為精衛常銜西山之木石以

堙音因于東海漳水出焉東流注于河或曰出長子

東至鄆縣鹿谷山而

入清漳

又東北百二十里曰少山今在樂平郡非縣其上有

金玉其下有銅清漳之水出焉東流于濁漳之水

出焉而東流注于潞水

又北二百里曰景山有美玉焉水出焉東南流注于

海澤

又北百里曰題首之山有玉焉多石無水

又北百里曰繡山其上有玉青碧其水多稠水中枚

其草多芍藥芎藭芍藥一名辛洧水出焉而東流注

于河其中有鱧似鮠而鼃似鼃而或曰鱧鼃一物各取

北山經 卷之三 三十一

臨水縣西谷中山經鄆西北  
至列人縣入于漳其水熱

又北二百里曰發鳩之山今在上党郡其上多栢木

有鳥焉其狀如烏文首白喙赤足名曰精衛其鳴自

詆是炎帝之少女名曰女娃炎帝神農也女娃

遊于東海溺而不返故為精衛常銜西山之木石以

堙音因于東海漳水出焉東流注于河或曰出長子

東至鄆縣鹿谷山而

入清漳

又東北百二十里曰少山今在樂平郡非縣其上有

金玉其下有銅清漳之水出焉東流于濁漳之水

出焉而東流注于潞水

又北二百里曰景山有美玉焉水出焉東南流注于

海澤

又北百里曰題首之山有玉焉多石無水

又北百里曰繡山其上有玉青碧其水多稠水中枚

其草多芍藥芎藭芍藥一名辛洧水出焉而東流注

于河其中有鱧似鮠而鼃似鼃而或曰鱧鼃一物各取

北山經 卷之三 三十一

又北百二十里曰松山陽水出焉東北流注于河

又北百二十里曰敦與之山其上無草木有金玉漚

音悉水出于其陽而東流注于秦陸之水大陸水今

平澤即泚音抵水出于其陰而東流注于彭水今泚

中丘縣西窮泉谷東注于堂陽縣入于泚水水出

又北百七十里曰柘山其陽有金玉其陰有鐵歷聚

之水出焉而北流注于泚水

又北三百里曰維龍之山其上有碧玉其陽有金其

陰有鐵肥水出焉而東流注于皐澤其中多礪石未

大石貌或曰石名敵鐵之水出焉而北流注于大

澤

又北百八十里曰白馬之山其陽多石玉其陰多鐵

多赤銅木之水出焉而東北流注于虜泚

又北二百里曰空桑之山無草木上已有此山冬夏

有雪空桑之水出焉東流注于虜泚疑同名也

又北三百里曰秦戲之山無草木多金玉有獸焉其

狀如羊一角一自在耳後其名曰獐辣音其鳴自

訓虜泚之水出焉今虜泚水出虜泚而東流注于漚

北山經

卷之三

圭

又北百二十里曰松山陽水出焉東北流注于河

又北百二十里曰敦與之山其上無草木有金玉漚

音悉水出于其陽而東流注于秦陸之水大陸水今

平澤即泚音抵水出于其陰而東流注于彭水今泚

中丘縣西窮泉谷東注于堂陽縣入于泚水水出

又北百七十里曰柘山其陽有金玉其陰有鐵歷聚

之水出焉而北流注于泚水

又北三百里曰維龍之山其上有碧玉其陽有金其

陰有鐵肥水出焉而東流注于皐澤其中多礪石未

也音雷或作礪礪壘敵鐵之水出焉而北流注于大

澤

又北百八十里曰白馬之山其陽多石玉其陰多鐵

多赤銅木之水出焉而東北流注于虜泚

又北二百里曰空桑之山無草木上已有此山冬夏

有雪空桑之水出焉東流注于虜泚疑同名也

又北三百里曰秦戲之山無草木多金玉有獸焉其

狀如羊一角一自在耳後其名曰獐辣音其鳴自

訓虜泚之水出焉今虜泚水出虜泚而東流注于漚

北山經

卷之三

二十二

音水滌女之水出于其陽南流注于沁水滌音悅

又北三百里曰石山多藏金玉濩濩之水出焉而東流注于虜沱鮮于之水出焉而南流注于虜沱

又北二百里曰童戎之山皐涂之水出焉而東流注于濩濩水

又北三百里曰高是之山今在比地滋音慈水出焉而南流注于虜沱其水多稷其草多條濩音冠水出焉東

流注于河過博陸縣南又東北入于易水

又北三百里曰陸山多美玉鄴水出焉或作郊水而東流注于河

又北二百里曰沂音祈山音盤水出焉而東流注于河

北百二十里曰燕山多嬰石言石似玉有符彩燕水出焉而東流注于河

又北山行五百里水行五百里至于饒山是無草木多瑤碧其獸多橐駝其鳥多鶴音鶴雁音鴈之水出焉

而東流注于河其中有師魚食之殺人師或作鰓

又北四百里曰乾山無草木其陽有金玉其陰有鐵

卷之三

音水滌女之水出于其陽南流注于沁水滌音悅

又北三百里曰石山多藏金玉濩濩之水出焉而東流注于虜沱鮮于之水出焉而南流注于虜沱

又北二百里曰童戎之山皐涂之水出焉而東流注于濩濩水

又北三百里曰高是之山今在比地滋音慈水出焉而南流注于虜沱其水多稷其草多條濩音冠水出焉東

流注于河過博陸縣南又東北入于易水

又北三百里曰陸山多美玉鄴水出焉或作郊水而東流注于河

又北二百里曰沂音祈山音盤水出焉而東流注于河

北百二十里曰燕山多嬰石言石似玉有符彩燕水出焉而東流注于河

又北山行五百里水行五百里至于饒山是無草木多瑤碧其獸多橐駝其鳥多鶴音鶴雁音鴈之水出焉

而東流注于河其中有師魚食之殺人師或作鰓

又北四百里曰乾山無草木其陽有金玉其陰有鐵

北山經 卷之三 三

第二十四圖終

第二十四圖終



大卷之三  
第廿五圖  
神

213 大蛇

214 北山十神身入蛇尾  
209 龍

214 北山十神身入蛇尾  
208 猿

214 北山十神身入蛇尾



北山經  
大卷之三  
神



而無木有獸焉其狀如牛而三足其名曰獬音其鳴

自說

又北五百里曰倫山倫水出焉而東流注于河有獸

焉其狀如麋其川在尾也其名曰獬

又北五百里曰碣石之山水經曰碣石山今在遼西

其平顯城臨滄縣南水中或曰在右魚詳其上

雁之所出風以千

又北水行五百里至于鴈門之山無草木北陵西

雁之所出風以千

又北水行四百里至于泰澤其中石焉曰帝都之

之山廣圓百里無草木有金玉

又北五百里曰鐔于母逢之山北望雞號之山其風

如颺颺急風貌也音西望幽都之山浴水出焉浴師

也是有大蛇赤首白身其音如牛見則其邑大旱

凡北次三經之首自太行之山以至于母逢之山凡

四十六山萬二千三百五十里其神狀皆馬身而人

面者甘神其祠之皆用一藻蒹瘞之藻聚藻蒹香草

其十四神狀皆身而戴玉其祠之皆玉不瘞埋

而無木有獸焉其狀如牛而三足其名曰獬音其鳴

自說

又北五百里曰倫山倫水出焉而東流注于河有獸

焉其狀如麋其川在尾也其名曰獬

又北五百里曰碣石之山水經曰碣石山今在遼西

其平顯城臨滄縣南水中或曰在右魚詳其上

雁之所出風以千

又北水行五百里至于鴈門之山無草木北陵西

雁之所出風以千

又北水行四百里至于泰澤其中石焉曰帝都之

之山廣圓百里無草木有金玉

又北五百里曰鐔于母逢之山北望雞號之山其風

如颺颺急風貌也音西望幽都之山浴水出焉浴師

也是有大蛇赤首白身其音如牛見則其邑大旱

凡北次三經之首自太行之山以至于母逢之山凡

四十六山萬二千三百五十里其神狀皆馬身而人

面者甘神其祠之皆用一藻蒹瘞之藻聚藻蒹香草

其十四神狀皆身而戴玉其祠之皆玉不瘞埋

北山經

卷之三

二十五

玉世... 凡步皆環... 璧瘞之大凡四十四神皆用稌糝米祠之此皆不火

食  
里 右北經之山志凡八十七山二萬三千二百三十

六山巖四百里無草木林金正

所用其于神狀皆彘身而八足蛇尾其祠之皆用... 璧瘞之大凡四十四神皆用稌糝米祠之此皆不火

食  
里 右北經之山志凡八十七山二萬三千二百三十

山海經第四

晉記室參軍郭璞傳

東山經

東山經之首曰櫛蠶連林之音之山北臨乾昧亦山名音昧食

水出焉而東北流注于海其中多鱮鱮音容之魚其狀

如犂牛牛似虎文者其音如羸鳴

又南三百里曰蕪音山其上有玉其下有金湖水出

焉東流注于食水其中多活師科斗也爾雅謂之活東

又南三百里曰栒狀之山其上多金玉其下多青碧

東山經 卷之四

山海經第四

晉記室參軍郭璞傳

東山經

東山經之首曰櫛蠶連林之音之山北臨乾昧亦山名音昧食

水出焉而東北流注于海其中多鱮鱮音容之魚其狀

如犂牛牛似虎文者其音如羸鳴

又南三百里曰蕪音山其上有玉其下有金湖水出

焉東流注于食水其中多活師科斗也爾雅謂之活東

又南三百里曰栒狀之山其上多金玉其下多青碧

東山經 卷之四



217 紫鼠  
228 幹幹

227 東山神人身龍首

225 狗洞

224 條蟠  
217 從從

225 龍鱗之魚



石有獸焉其狀如犬六足其名曰從從其鳴自設有

鳥焉其狀如雞而鼠毛其名曰蜚音鼠見則其邑大

旱音澗水出焉而北流注于湖水其中多鯀魚其狀

如儻其喙如鴛出東海今汜東食之無疫疾

又南三百里曰勃塗之山無草木無水

又南三百里曰番條之山無草木多沙澱水出焉北

流注于海其中多鱖魚類音鱖

又南四百里曰姑兒之山其上多漆其下多桑柘姑

兒之出焉北流注于海其中多鱖魚

又南四百里曰高氏之山其上多玉其下多箴石可

為砥針治諸腫者諸繩之水出焉東流注于澤其中多金玉

又南三百里曰嶽山其上多桑其下多穉澱水出焉

東流注于澤其中多金玉

又南三百里曰羽山其上無草木其下多水其中多

堪珩音之魚詳有獸焉其狀如夸父而彘毛其音如

呼見則天下大水

又南三百里曰獨山其上多金玉其下多美石末塗

之水出焉而東南流注于汙其中多儻音其狀

東山經 卷之四 三

石有獸焉其狀如犬六足其名曰從從其鳴自設有

鳥焉其狀如雞而鼠毛其名曰蜚音鼠見則其邑大

旱音澗水出焉而北流注于湖水其中多鯀魚其狀

如儻其喙如鴛出東海今汜東食之無疫疾

又南三百里曰勃塗之山無草木無水

又南三百里曰番條之山無草木多沙澱水出焉北

流注于海其中多鱖魚類音鱖

又南四百里曰姑兒之山其上多漆其下多桑柘姑

兒之出焉北流注于海其中多鱖魚

又南四百里曰高氏之山其上多玉其下多箴石可

為砥針治諸腫者諸繩之水出焉東流注于澤其中多金玉

又南三百里曰嶽山其上多桑其下多穉澱水出焉

東流注于澤其中多金玉

又南三百里曰羽山其上無草木其下多水其中多

堪珩音之魚詳有獸焉其狀如夸父而彘毛其音如

呼見則天下大水

又南三百里曰獨山其上多金玉其下多美石末塗

之水出焉而東南流注于汙其中多儻音其狀

東山經 卷之四 三

如黃蛇魚翼出入有光見則其邑大旱

又南三百里曰泰山即東嶽岱宗也今在泰山奉高縣西北從山至頂四十八里

三百其上多玉其下多金有獸焉其狀如豚而有珠

名曰狽狽音其鳴自訓環水出焉東流注于江

其中多水玉

又南三百里曰竹山鍾于江無草木多瑤碧激

水出焉而東南流注于聚檀之水其中多苾羸

凡東山經之首自嶽蟲之山以至于竹山凡十二山

三千六百里其神狀皆人身龍首祠毛用一犬祈

東次二經之首曰空桑之山北山出琴瑟北臨食水

東望沮吳南望沙陵西望潯音澤有獸焉其狀如牛

而虎文其音如欽或作其名曰軫軫音靈其鳴自叫見

則天下大水

又南六百里曰曹夕之山其下多穀而無水多鳥獸

又西南四百里曰嶧音鼻之山其上多金玉其下多

白堊嶧阜之水出焉東流注于激女之水其中多蜃

玼履蚌也玼王蛻赤時屬腎通兩音

東山經 卷之四 第二十六圖終

如黃蛇魚翼出入有光見則其邑大旱

又南三百里曰泰山即東嶽岱宗也今在泰山奉高縣西北從山至頂四十八里

三百其上多玉其下多金有獸焉其狀如豚而有珠

名曰狽狽音其鳴自訓環水出焉東流注于江

其中多水玉

又南三百里曰竹山鍾于江無草木多瑤碧激

水出焉而東南流注于聚檀之水其中多苾羸

凡東山經之首自嶽蟲之山以至于竹山凡十二山

三千六百里其神狀皆人身龍首祠毛用一犬祈

東次二經之首曰空桑之山北山出琴瑟北臨食水

東望沮吳南望沙陵西望潯音澤有獸焉其狀如牛

而虎文其音如欽或作其名曰軫軫音靈其鳴自叫見

則天下大水

又南六百里曰曹夕之山其下多穀而無水多鳥獸

又西南四百里曰嶧音鼻之山其上多金玉其下多

白堊嶧阜之水出焉東流注于激女之水其中多蜃

玼履蚌也玼王蛻赤時屬腎通兩音

東山經 卷之四 第二十六圖終



東山經

卷之四

五

242 獬豸

243 雙極  
236 鷲鵠

235 未猪

233 狻猊

232 珠蟹魚



東山經

卷之四

五

又南水行五百里流沙三百里至于葛山之尾無草木多砥礪

又南三百八十里曰葛山之首無草木澧音禮水出焉東流注于余澤其中多珠璣音龍魚其狀如肺而有目

六足有珠其味酸甘食之無癩無時氣病也呂氏春朱璣六足有珠珠魚之美也秋曰澧水之魚名曰

又南三百八十里曰餘哉之山其上多梓栢其下多荆芒雜余之水出焉東流注于黃水有獸焉其狀如

蒐而鳥喙鷓目蛇尾見人則眠言伴死也名曰狢徐仇餘其鳴自訓見則蝻蝗為敗蝻蝗類也言傷敗田黃蝻音終

又南三百里曰杜父之山無草木多水水玉又大蛇有獸焉其狀如狐而魚翼其名曰朱獺音儒其鳴自叫見

則其國有恐

又南三百里曰盧其之山無草木多沙石沙水出焉南流注于澧水其中多鸞音黎鵠其狀如鴛鴦而人足

其鳴自訓見則其國多土功今鸞胡足類人附形又南三百八十里曰姑射之山無草木多水

東山經 卷之四 六

又南水行五百里流沙三百里至于葛山之尾無草木多砥礪

又南三百八十里曰葛山之首無草木澧音禮水出焉東流注于余澤其中多珠璣音龍魚其狀如肺而有目

六足有珠其味酸甘食之無癩無時氣病也呂氏春朱璣六足有珠珠魚之美也秋曰澧水之魚名曰

又南三百八十里曰餘哉之山其上多梓栢其下多荆芒雜余之水出焉東流注于黃水有獸焉其狀如

蒐而鳥喙鷓目蛇尾見人則眠言伴死也名曰狢徐仇餘其鳴自訓見則蝻蝗為敗蝻蝗類也言傷敗田黃蝻音終

又南三百里曰杜父之山無草木多水水玉又大蛇有獸焉其狀如狐而魚翼其名曰朱獺音儒其鳴自叫見

則其國有恐

又南三百里曰盧其之山無草木多沙石沙水出焉南流注于澧水其中多鸞音黎鵠其狀如鴛鴦而人足

其鳴自訓見則其國多土功今鸞胡足類人附形又南三百八十里曰姑射之山無草木多水

東山經 卷之四 六



又南水行三百里流沙百里曰北姑射之山無草木

多石

又南三百里曰南姑射之山無草木多水

又南三百里曰碧山無草木多大蛇多碧水玉

又南五百里曰緝氏之山無草木多金玉屑水出焉

東流注于沙澤一日俄氏之山

又南三百里曰姑逢之山無草木多金玉有獸焉其

狀如狐而有翼其音如鴻鴈其名曰獬獬音見則天

下大旱

又南五百里曰崑麗之山其上多金玉其下多箴石

有獸焉其狀如狐而九尾九首虎爪名曰蠻姪龍蛭二音

其音如嬰兒是食人

又南五百里曰礪音真山南臨礪水東望湖澤有獸焉

其狀如馬而羊目四角牛尾其音如犍狗其名曰崧

崧音見則其國多狡客狡狡猶也有鳥焉其狀如鳧而鼠

尾善登木其名曰絮鈎見則其國多疫

凡東次二經之首自空桑之山至于礪山凡十七山

六千六百四十里其神狀皆獸身人面載鰲鹿屬角為鰲

卷之四

又南水行三百里流沙百里曰北姑射之山無草木

多石

又南三百里曰南姑射之山無草木多水

又南三百里曰碧山無草木多大蛇多碧水玉

又南五百里曰緝氏之山無草木多金玉原木出焉

東流注于沙澤二日俄氏之山

又南三百里曰姑逢之山無草木多金玉有獸焉其

狀如狐而有翼其音如鴻鴈其名曰獬獬音見則天

下大旱

又南五百里曰崑麗之山其上多金玉其下多箴石

有獸焉其狀如狐而九尾九首虎爪名曰蠻姪龍蛭二音

其音如嬰兒是食人

又南五百里曰礪音真山南臨礪水東望湖澤有獸焉

其狀如馬而羊目四角牛尾其音如犍狗其名曰崧

崧音見則其國多狡客狡狡猶也有鳥焉其狀如鳧而鼠

尾善登木其名曰絮鈎見則其國多疫

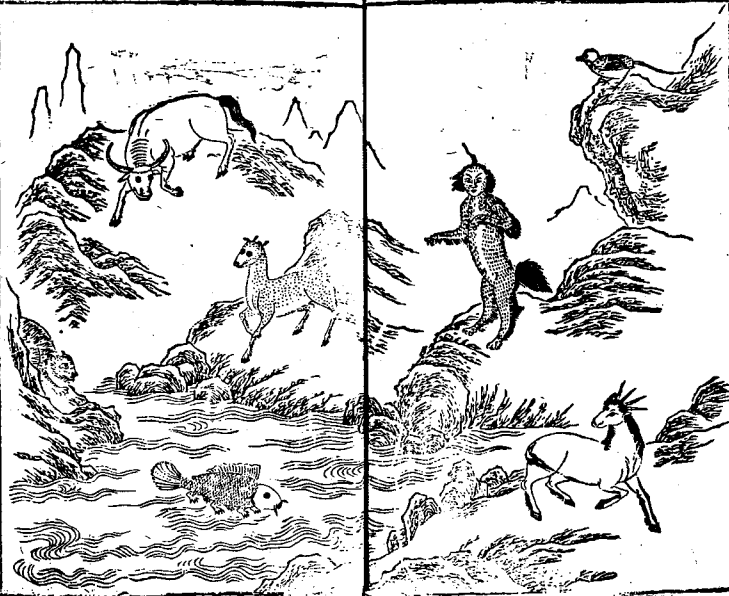
凡東次二經之首自空桑之山至于礪山凡十七山

六千六百四十里其神狀皆獸身人面載鰲鹿屬角為鰲

東山經

卷之四

七



267 虎?      263 精精      266 祭訓  
262 鱧鱧之魚

265 東山神獸身入面      264 絜絜  
264 股股



格其祠毛用一雞祈嬰用一璧瘞

又東次三經之首曰尸胡之山北望殫音詳山其上多

金玉其下多棘有獸焉其狀如麋而魚目名曰嬰音

胡其鳴自剖

又南水行八百里曰岐山其木多桃李其獸多虎

又南水行五百里曰諸鉤之山無草木多沙石是山

也廣圓百里多寐魚音魚

又南水行七百里曰中父之山無草木多沙

又東水行千里曰胡射之山無草木多沙石

又南水行七百里曰孟予之山其木多梓桐多桃李

其草多藟音未其獸多麋鹿是山也廣圓百里其

上有水出焉名曰碧陽其中多鱣鮪鮪音鮪也似鱣

甲別名鱣鱣一名鱣也

又南水行五百里曰流沙行五百里有山焉曰跋踵

之山跋音廣圓二百里無草木有大蛇其上多玉有

水焉廣圓四十里皆涌今河東汾陰縣有漢水源有

此類其名曰深澤其中多鸞龜鸞音鸞大龜也甲有

有魚焉其狀如鯉而六足鳥尾名曰給給音給之魚

東山經 卷之四 九

格其祠毛用一雞祈嬰用一璧瘞

又東次三經之首曰尸胡之山北望殫音詳山其上多

金玉其下多棘有獸焉其狀如麋而魚目名曰嬰音

胡其鳴自剖

又南水行八百里曰岐山其木多桃李其獸多虎

又南水行五百里曰諸鉤之山無草木多沙石是山

也廣圓百里多寐魚音魚

又南水行七百里曰中父之山無草木多沙

又東水行千里曰胡射之山無草木多沙石

又南水行七百里曰孟予之山其木多梓桐多桃李

其草多藟音未其獸多麋鹿是山也廣圓百里其

上有水出焉名曰碧陽其中多鱣鮪鮪音鮪也似鱣

甲別名鱣鱣一名鱣也

又南水行五百里曰流沙行五百里有山焉曰跋踵

之山跋音廣圓二百里無草木有大蛇其上多玉有

水焉廣圓四十里皆涌今河東汾陰縣有漢水源有

此類其名曰深澤其中多鸞龜鸞音鸞大龜也甲有

有魚焉其狀如鯉而六足鳥尾名曰給給音給之魚

東山經 卷之四 九

其鳴自叫

又南水行九百里曰踰音隅之山其上有草木多金玉多豬有獸焉其狀如牛而馬尾名曰精精其鳴自

叫

又南水行五百里流沙三百里至于無臯之山南望

幼海即少海也淮南子曰東方大渚曰少海東望樽木扶桑無草木多

風是山也廣圓百里

第二十八圖終

凡東吹三經之首自尸胡之山至于無畢之山凡十

九山六千九百里其神狀皆人身而羊角其祠用一

牡羊米用黍是神也見則風雨水為敗

又東吹四經之首曰北號之山臨于北海有木焉其

狀如楊赤華其實如棗而無核其味酸甘食之不癯

食水出焉而東北流注于海有獸焉其狀如狼赤首

鼠目其音如豚名曰獨狙音道是食人有鳥焉其狀

如雞而白首鼠足而虎爪其名曰麗音利雀亦食人

又南三百里曰旄山無草木蒼體之水出焉而西流

注于展水其中多鱧音秋今蝦蟇字亦或作鱧魚其狀如鯉而大

首食者不疵

東山經

卷之四

其鳴自叫

又南水行九百里曰踰音隅之山其上有草木多金玉多豬有獸焉其狀如牛而馬尾名曰精精其鳴自

叫

又南水行五百里流沙三百里至于無臯之山南望

幼海即少海也淮南子曰東方大渚曰少海東望樽木扶桑無草木多

風是山也廣圓百里

第二十八圖終

凡東吹三經之首自尸胡之山至于無畢之山凡十

九山六千九百里其神狀皆人身而羊角其祠用一

牡羊米用黍是神也見則風雨水為敗

又東吹四經之首曰北號之山臨于北海有木焉其

狀如楊赤華其實如棗而無核其味酸甘食之不癯

食水出焉而東北流注于海有獸焉其狀如狼赤首

鼠目其音如豚名曰獨狙音道是食人有鳥焉其狀

如雞而白首鼠足而虎爪其名曰麗音利雀亦食人

又南三百里曰旄山無草木蒼體之水出焉而西流

注于展水其中多鱧音秋今蝦蟇字亦或作鱧魚其狀如鯉而大

首食者不疵

東山經

卷之四

十



東山經  
卷之四 第三十九圖  
十一

256 鯉產

257 魚鱗

255 東山神人羊角

258 獨狙



東山經  
卷之四 第三十九圖  
十一

又南三百二十里曰東始之山上多蒼玉有木焉其狀如楊而赤理其汁如血不實其名曰芑音起可以服馬以汁塗之油水出焉而東北流注于海其中多美貝多苙魚其狀如鮒音首而十身其臭如麝蕪食之不糲音響氣下泄也

第二十九圖

又東南三百里曰女烝之山其上無草木石膏水出焉而西注于涌水其中多薄魚其狀如鱣魚而一目其音如歐如人嘔吐聲也見則天下大旱

又東南二百里曰欽山多金玉而無石師水出焉而北流注于臯澤其中多鱣魚多文貝有獸焉其狀如豚而有牙其名曰當康其鳴自叫見則天下大穰

又東南二百里曰子桐之山子桐之水出焉而西流注于餘如之澤其中多鱣魚其狀如魚而鳥翼出入有光其音如鴛鴦見則天下大旱

又東北二百里曰剡山多金玉有獸焉其狀如虺而人面黃身而赤尾其名曰合窳音庚其音如嬰兒是獸也食人亦食蟲蛇見則天下大水

又東二百里曰太山上多金玉植木女植也葉冬不凋有獸

東山經 卷之四 十一

又南三百二十里曰東始之山上多蒼玉有木焉其狀如楊而赤理其汁如血不實其名曰芑音起可以服馬以汁塗之油水出焉而東北流注于海其中多美貝多苙魚其狀如鮒音首而十身其臭如麝蕪食之不糲音響氣下泄也

第二十九圖

又東南三百里曰女烝之山其上無草木石膏水出焉而西注于涌水其中多薄魚其狀如鱣魚而一目其音如歐如人嘔吐聲也見則天下大旱

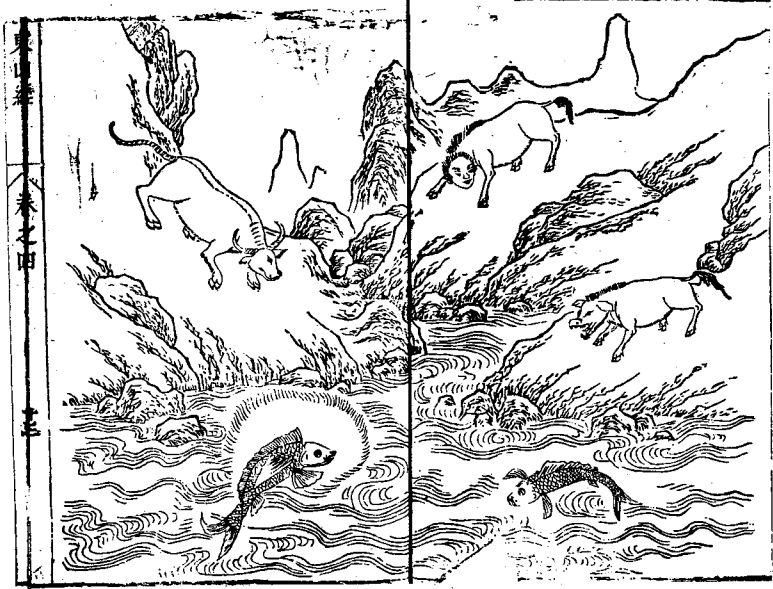
又東南二百里曰欽山多金玉而無石師水出焉而北流注于臯澤其中多鱣魚多文貝有獸焉其狀如豚而有牙其名曰當康其鳴自叫見則天下大穰

又東南二百里曰子桐之山子桐之水出焉而西流注于餘如之澤其中多鱣魚其狀如魚而鳥翼出入有光其音如鴛鴦見則天下大旱

又東北二百里曰剡山多金玉有獸焉其狀如虺而人面黃身而赤尾其名曰合窳音庚其音如嬰兒是獸也食人亦食蟲蛇見則天下大水

又東二百里曰太山上多金玉植木女植也葉冬不凋有獸

東山經 卷之四 十一



東山經  
卷之四  
七

263 蜚

267 鱒魚

262 合羸

269 薄魚

260 善康



東山經  
卷之四  
十三

焉其狀如牛而白首一 目而蛇尾其名曰蜚音行水  
 則竭行草則死見則天下大疫言其體含災氣也其  
 無害所經枯竭甚於燔鱗日蜚之為名體似  
 厲萬物斯懼思爾遐逝鱗日蜚之為名體似  
 其中多鱧魚

凡東次四經之首自北號之山至于大山凡八山一  
 千七百二十里

右東經之山志凡四十六山萬八千八百六十里

焉其狀如牛而白首一 目而蛇尾其名曰蜚音行水  
 則竭行草則死見則天下大疫言其體含災氣也其  
 無害所經枯竭甚於燔鱗日蜚之為名體似  
 厲萬物斯懼思爾遐逝鱗日蜚之為名體似  
 其中多鱧魚

凡東次四經之首自北號之山至于大山凡八山一  
 千七百二十里

右東經之山志凡四十六山萬八千八百六十里



山海經第五

晉記室參軍郭璞傳

中山經

中山經薄山之首曰甘藟之山其水出焉而西流注于河其上多柎木其下有草焉藜本而杏葉或作黃華而莢實名曰糝托音可以已瘡音有獸焉其狀如獸

應鳳而文題詳其名曰難音那或食之已瘡又東二十里曰歷兒之山其上多楹多構音腐木是木也方莖而圓葉黃華而毛其實如棟棟木名子如指

中山經 卷之五

山海經第五

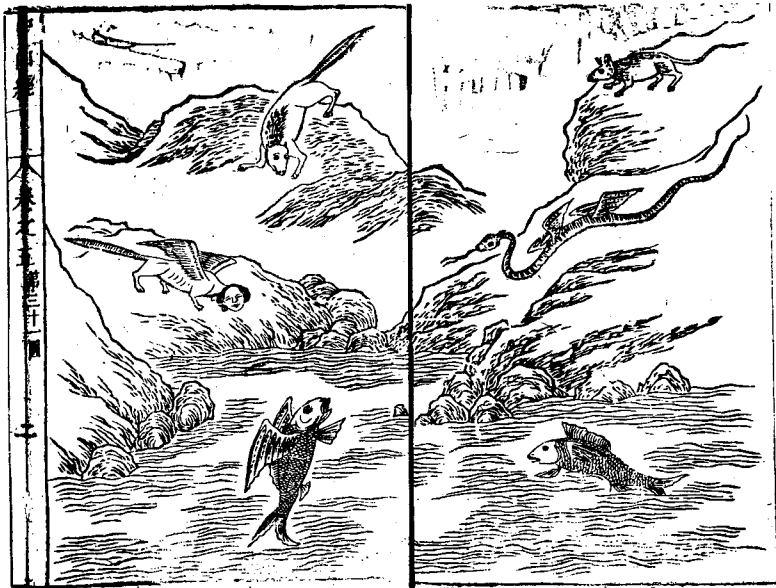
晉記室參軍郭璞傳

中山經

中山經薄山之首曰甘藟之山其水出焉而西流注于河其上多柎木其下有草焉藜本而杏葉或作黃華而莢實名曰糝托音可以已瘡音有獸焉其狀如獸

應鳳而文題詳其名曰難音那或食之已瘡又東二十里曰歷兒之山其上多楹多構音腐木是木也方莖而圓葉黃華而毛其實如棟棟木名子如指

中山經 卷之五



285 化蛇      276 鼯鼠  
275 飛魚

284 鳴蛇      265 難  
267 嘉魚



中山經

卷之五 第三十四圖

二

英三可  
字字

流衣也音  
練或作簡服之不忘

又東十五里曰渠豬之山其上多竹渠豬之水出焉

而南流注于河其中是多豪魚狀如鮪鮪似鱈也赤喙尾

赤羽可以已白癩

又東三十五里曰葱蠻之山其中多大谷是多白堊

黑青黃堊言有雜色至也

又東十五里曰淩音山其上多赤銅其陰多鐵

又東七十里曰脫尾之山有莫焉其狀如葵葉而赤

華英實實如椶茨今櫻木矣似皂莢也名曰植楮可以已瘋瘋

也淮南子曰食之不聒

又東二十里曰金星之山多天嬰其狀如龍骨可以

已瘥瘥瘥也

又東七十里曰壽威之山其中有谷曰臬谷其中多

鐵或無谷字

又東十五里曰樺谷之山其中多赤銅或作樺谷字

又東百二十里曰吳林之山其中多菱即菱草

又北三十里曰牛首之山今長安西南有牛首山上

有草焉名曰鬼草其葉如葵而赤莖其秀如禾服之

卷之五

流衣也音  
練或作簡服之不忘

又東十五里曰渠豬之山其上多竹渠豬之水出焉

而南流注于河其中是多豪魚狀如鮪鮪似鱈也赤喙尾

赤羽可以已白癩

又東三十五里曰葱蠻之山其中多大谷是多白堊

黑青黃堊言有雜色至也

又東十五里曰淩音山其上多赤銅其陰多鐵

又東七十里曰脫尾之山有莫焉其狀如葵葉而赤

華英實實如椶茨今櫻木矣似皂莢也名曰植楮可以已瘋瘋

也淮南子曰食之不聒

又東二十里曰金星之山多天嬰其狀如龍骨可以

已瘥瘥瘥也

又東七十里曰壽威之山其中有谷曰臬谷其中多

鐵或無谷字

又東十五里曰樺谷之山其中多赤銅或作樺谷字

又東百二十里曰吳林之山其中多菱即菱草

又北三十里曰牛首之山今長安西南有牛首山上

有草焉名曰鬼草其葉如葵而赤莖其秀如禾服之

中山經

卷之五

不憂勞水出焉而西流注于瀟音水是多飛魚其狀如鮒魚食之已痔衝

又北四十里曰霍山今平陽永安縣盧九溝縣音安羅江縣河南鞏縣皆有霍山明

山以霍為名皆非一矣按其木多穀有獸焉其狀如狸而白尾有羴名曰腓腓音養可以已憂謂善養之也

又北五十二里曰合谷之山是多薜音棘棘詳

又北三十五里曰陰山亦曰多礪石文石中磨者少

水出焉其中多彫衆其葉如榆葉而方其實如赤菽食之已聾

又東北四百里曰鼓鑿之山多赤銅有草焉名曰榮

草其葉如柳其本如雞卵食之已風

凡薄山之首自甘棗之山至于鼓鑿之山凡十五山

六千六百七十里歷兒冢也其祠禮毛太宰之具縣以吉玉縣祭山之名也見爾雅其餘十三山者毛用一羊縣嬰

用桑封瘞而不精桑封者桑主也方其下而銳其上而中穿之加金言作神主而祭以金銀飾之也公羊傳曰虞主用桑主或作玉

中次二經濟山之首曰輝諸之山其上多桑其獸多

閭糜其鳥多鷓似雉而大青色有毛勇健

聞死乃止音焉出上究也

卷之五

不憂勞水出焉而西流注于瀟音水是多飛魚其狀如鮒魚食之已痔衝

又北四十里曰霍山今平陽永安縣盧九溝縣音安羅江縣河南鞏縣皆有霍山明

山以霍為名皆非一矣按其木多穀有獸焉其狀如狸而白尾有羴名曰腓腓音養可以已憂謂善養之也

又北五十二里曰合谷之山是多薜音棘棘詳

又北三十五里曰陰山亦曰多礪石文石中磨者少

水出焉其中多彫衆其葉如榆葉而方其實如赤菽食之已聾

又東北四百里曰鼓鑿之山多赤銅有草焉名曰榮

草其葉如柳其本如雞卵食之已風

凡薄山之首自甘棗之山至于鼓鑿之山凡十五山

六千六百七十里歷兒冢也其祠禮毛太宰之具縣以吉玉縣祭山之名也見爾雅其餘十三山者毛用一羊縣嬰

用桑封瘞而不精桑封者桑主也方其下而銳其上而中穿之加金言作神主而祭以金銀飾之也公羊傳曰虞主用桑主或作玉

中次二經濟山之首曰輝諸之山其上多桑其獸多

閭糜其鳥多鷓似雉而大青色有毛勇健

聞死乃止音焉出上究也

中山經 卷之五

又西南二百里曰發視之山其上多金玉其下多砥礪卽魚之水出焉而西流注于伊水

又西三百里曰蒙山其上多金玉而無草木

又西三百里曰鮮山多金玉無草木鱗木出焉而北流注于伊水其中多鳴蛇其狀如蛇而四翼其音如

磬見則其邑大旱

又西三百里曰陽山多石無草木陽水出焉而北流注于伊水其中多化蛇其狀如人面而豺身鳥翼而

蛇行其音如叱呼見則其邑大水

又西二百里曰昆吾之山其上多赤銅此山出各銅

之作刀切玉如割泥也周穆王時西戎獻之尸午所謂昆吾之劍也越把書曰赤塗之山破而出錫若耶之谷涸而出銅厥冷于因以爲純鈎之劍汲和家中得銅劍一校長三尺五寸乃今所名爲于將劍海郡亦皆非鐵也明古者通有獸焉其狀如彘而有角其以錫雜銅爲兵器也

音如號如人號哭名曰蠶蜺食之不昧

又西百二十里曰葦音好山葦水出焉而北流注于伊

水其上多金玉其下多青雉黃有木焉其狀如棠而

赤葉名曰芒音忘草可以毒魚

又西一百五十里曰獨蘇之山無草木而多水

中山經 卷之五 五

又西南二百里曰發視之山其上多金玉其下多砥礪卽魚之水出焉而西流注于伊水

又西三百里曰蒙山其上多金玉而無草木

又西三百里曰鮮山多金玉無草木鱗木出焉而北流注于伊水其中多鳴蛇其狀如蛇而四翼其音如

磬見則其邑大旱

又西三百里曰陽山多石無草木陽水出焉而北流注于伊水其中多化蛇其狀如人面而豺身鳥翼而

蛇行其音如叱呼見則其邑大水

又西二百里曰昆吾之山其上多赤銅此山出各銅

之作刀切玉如割泥也周穆王時西戎獻之尸午所謂昆吾之劍也越把書曰赤塗之山破而出錫若耶之谷涸而出銅厥冷于因以爲純鈎之劍汲和家中得銅劍一校長三尺五寸乃今所名爲于將劍海郡亦皆非鐵也明古者通有獸焉其狀如彘而有角其以錫雜銅爲兵器也

音如號如人號哭名曰蠶蜺食之不昧

又西百二十里曰葦音好山葦水出焉而北流注于伊

水其上多金玉其下多青雉黃有木焉其狀如棠而

赤葉名曰芒音忘草可以毒魚

又西一百五十里曰獨蘇之山無草木而多水

中山經 卷之五 五

中山經  
卷之五 第三十二圖  
六



291 夫諸

292 觸武羅  
293 飛魚

286 夔

287 馬腹  
292 鱓

中山經  
卷之五 第三十二圖  
六



又西二百里曰葛梁之山其上多金玉其下竹箭  
伊水出焉而東流注于洛今伊水出上洛盧氏縣能  
入有獸焉其名曰馬腹其狀如人面虎身其音如嬰

兒是食人

凡濟山經之首自輝諸之山至于葛梁之山凡九山

一千六百七十里其神皆人面而鳥身祠用毛擇用

用一吉玉投而不精

中次三經蒨山之首曰敖岸之山或作獻其陽多璆

瑀之玉其陰多赭黃金神熏池居之是常出美玉或

焉其狀如白鹿而四角名曰夫諸見則其邑大水

又東十里曰青嬰之山實維帝之密都天帝曲北望

河曲河千里也是多駕鳥木詳或曰駕宜駕南望

潛水中小洲名禹父之所化化於羽淵為黃龍今

變俗之性者亦是多僕僕僕滿盧曰滿盧者蟻也爾雅

武羅司之武羅神名其狀人面而豹文小腰而白齒

或作而穿耳以鑲鑲鑲金銀器之其鳴如鳴玉玉佩聲

是山也宜女子珍音水出焉而北流注于河其中有

本卷之五

又西二百里曰葛梁之山其上多金玉其下竹箭  
伊水出焉而東流注于洛今伊水出上洛盧氏縣能  
入有獸焉其名曰馬腹其狀如人面虎身其音如嬰

兒是食人

凡濟山經之首自輝諸之山至于葛梁之山凡九山

一千六百七十里其神皆人面而鳥身祠用毛擇用

用一吉玉投而不精

中次三經蒨山之首曰敖岸之山或作獻其陽多璆

瑀之玉其陰多赭黃金神熏池居之是常出美玉或

焉其狀如白鹿而四角名曰夫諸見則其邑大水

又東十里曰青嬰之山實維帝之密都天帝曲北望

河曲河千里也是多駕鳥木詳或曰駕宜駕南望

潛水中小洲名禹父之所化化於羽淵為黃龍今

變俗之性者亦是多僕僕僕滿盧曰滿盧者蟻也爾雅

武羅司之武羅神名其狀人面而豹文小腰而白齒

或作而穿耳以鑲鑲鑲金銀器之其鳴如鳴玉玉佩聲

是山也宜女子珍音水出焉而北流注于河其中有

中山經 卷之五

七

鳥焉名曰鷓音其狀如鳧青身而朱目赤尾食之宜朱淺子赤也有草焉其狀如蕪音而方莖黃華赤實其本如藜本根似藜本亦香草也名曰荀草或作服之美人色入更美

又東十里曰驪音山其上有美婁其陰有瑋瑋之玉規正回之水出焉而北流注于河其中多飛魚其狀如豚而赤文服之不畏雷可以禦兵

又東四十里曰宜蘇之山其上多金玉其下多蔓居之木未詳瀟瀟之水出焉而北流注于河是多黃貝

又東二十里曰利山其上無草木而多瑤碧實惟河之九都九水所滯故曰九都是山也五曲曲河九水出焉合而北流注于河其中多蒼玉昔神泰逢司之吉善其狀如人而虎尾或作是好居于黃山之陽出入有光太逢神動天地氣也言其有靈爽能興雲雨也夏后氏甲迷惑入于民室見氏春秋也

北黃山之首自敖岸之山至于和山凡五山四百四

鳥焉名曰鷓音其狀如鳧青身而朱目赤尾食之宜朱淺子赤也有草焉其狀如蕪音而方莖黃華赤實其本如藜本根似藜本亦香草也名曰荀草或作服之美人色入更美

又東十里曰驪音山其上有美婁其陰有瑋瑋之玉規正回之水出焉而北流注于河其中多飛魚其狀如豚而赤文服之不畏雷可以禦兵

又東四十里曰宜蘇之山其上多金玉其下多蔓居之木未詳瀟瀟之水出焉而北流注于河是多黃貝

又東二十里曰和山其上無草木而多瑤碧實惟河之九都九水所滯故曰九都是山也五曲曲河九水出焉合而北流注于河其中多蒼玉昔神泰逢司之吉善其狀如人而虎尾或作是好居于黃山之陽出入有光太逢神動天地氣也言其有靈爽能興雲雨也夏后氏甲迷惑入于民室見氏春秋也

北黃山之首自敖岸之山至于和山凡五山四百四

第三十二圖終





中山經  
卷之五 第三十三圖  
九

308 馱馬

306 人面獸身神

295 泰逢神

299 獺

299 犀渠

298 麋



中山經  
卷之五 第三十三圖  
九

十里其祠太逢重池武羅皆一牡羊副謂或羊也見周禮以祭也嬰用吉玉其二神用一雄雞瘞之瘞用徐音攝

中次四經釐音理山之首曰鹿蹄之山其上多玉其下多金甘木出焉而北流注于洛其中多冷石未詳或音攝

西五十里曰扶豬之山其上多礧音賴今雁門山中出礧石白者如木半中有石有獸焉其狀如貉而人目貉古字其名曰赤色者音赤石有獸焉其狀如貉而人目貉古字其名曰麇音銀或音廉號水出焉而北流注于洛其中多礧石出

又西一百二十里曰釐山其陽多玉其陰多鬼音搜今之備有獸焉其狀如牛蒼身其音如嬰兒是食人草也

其名曰犀渠瀟瀟之水出焉而南流注于伊水有獸焉名曰獺音頤其狀如犺犬而有鱗其毛如羸羸音離開也

又西二百里曰箕尾之山多穀多涂石其上多璆璠之玉

又西二百五十里曰柘山其上多玉其下多銅涓離之水出焉而北流注于洛其中多羝羊有木焉其狀如樗其葉如桐而莢實其名曰芟可以毒魚芟音艾

又西二百里曰白邊之山其上多金玉其下多青雄

中山經 卷之五 十

十里其祠太逢重池武羅皆一牡羊副謂或羊也見周禮以祭也嬰用吉玉其二神用一雄雞瘞之瘞用徐音攝

中次四經釐音理山之首曰鹿蹄之山其上多玉其下多金甘木出焉而北流注于洛其中多冷石未詳或音攝

西五十里曰扶豬之山其上多礧音賴今雁門山中出礧石白者如木半中有石有獸焉其狀如貉而人目貉古字其名曰赤色者音赤石有獸焉其狀如貉而人目貉古字其名曰麇音銀或音廉號水出焉而北流注于洛其中多礧石出

又西一百二十里曰釐山其陽多玉其陰多鬼音搜今之備有獸焉其狀如牛蒼身其音如嬰兒是食人草也

其名曰犀渠瀟瀟之水出焉而南流注于伊水有獸焉名曰獺音頤其狀如犺犬而有鱗其毛如羸羸音離開也

又西二百里曰箕尾之山多穀多涂石其上多璆璠之玉

又西二百五十里曰柘山其上多玉其下多銅涓離之水出焉而北流注于洛其中多羝羊有木焉其狀如樗其葉如桐而莢實其名曰芟可以毒魚芟音艾

又西二百里曰白邊之山其上多金玉其下多青雄

甲山經 卷之五 十

黃

又西二百里曰熊耳之山今在洛陽縣南其上多漆其下多

櫻浮濠之水出焉而西流注于洛其中多水玉多人

魚有草焉其狀如蘇而赤華名曰葶芻二音可以毒

魚

又西三百里曰壯山其上多文石其下多竹箭竹籟

其獸多特牛羝羊鳥多赤鷲音閉即鷲雉也

又西三百五十里曰謹舉之山雒水出焉而東北流

注于玄扈之水其中多馬腸之物此二山者洛間也

凡麓山之首自鹿蹄之山至于玄扈之山凡九山千

六百七十里其神狀皆人面獸身其祠之毛用一白

雞祈而不禘言真禘禘禘以彩木之飾雞

中次五經薄山之首曰荷林之山或作荷林無草木多怪

石怪石似玉也音怪曰鈴松怪石也

東三百里曰首山其陰多穀柞草多芣芣音山藟也芣華中藥

木音元其陽多瓊琤之玉木多槐其陰有谷曰機谷多

獸音地鳥其狀如梟而三日有耳其音如錄食之已盡

中山經

卷之五

土

又西二百里曰熊耳之山今在上洛縣南其上多漆其下多

櫻浮濠之水出焉而西流注于洛其中多水玉多人

魚有草焉其狀如蘇而赤華名曰葶芻二音可以毒

魚

又西三百里曰壯山其上多文石其下多竹箭竹籟

其獸多特牛羝羊鳥多赤鷲音閉即鷲雉也

又西三百五十里曰謹舉之山雒水出焉而東北流

注于玄扈之水其中多馬腸之物此二山者洛間也

洛水今出上洛縣冢嶺山河馬曰玄扈洛泃謂此間也

凡麓山之首自鹿蹄之山至于玄扈之山凡九山千

六百七十里其神狀皆人面獸身其祠之毛用一白

雞祈而不禘言真禘禘禘以彩木之飾雞

中次五經薄山之首曰荷林之山或作荷林無草木多怪

石怪石似玉也音怪曰鈴松怪石也

東三百里曰首山其陰多穀柞草多芣芣音山藟也芣華中藥

木音元其陽多瓊琤之玉木多槐其陰有谷曰機谷多

獸音地鳥其狀如梟而三日有耳其音如錄食之已盡

中山經

卷之五

土

詳未

又東三百里曰懸圃之山無草木多文石

又東三百里曰葱嶽之山無草木多摩石未詳音義

東北五百里曰條谷之山其木多槐桐其草多芍藥

麓音本冬本經曰麓冬今俗作門

又北十里曰起山其陰多蒼玉其陽有井冬有水而

夏竭

又東五百里曰成侯之山其上多種音木槐似桐樹材人呼其草多花

又東五百里曰朝歌之山谷多美亞

又東五百里曰槐山谷多金銀

又東十里曰歷山其木多槐其陽多玉

又東十里曰尸山多蒼玉其獸多麋似鹿而小黑色尸水出焉而流注于洛水其中多美玉

又東十里曰良餘之山其上多穀杵無石餘水出于

其陰南北流注于河乳水出于其陽而東南流注于

洛

又東南十里曰壘尾之山多礪石赤銅龍餘之水出

卷之五 三

詳未

又東三百里曰懸圃之山無草木多文石

又東三百里曰葱嶽之山無草木多摩石未詳音義

東北五百里曰條谷之山其木多槐桐其草多芍藥

麓音本冬本經曰麓冬今俗作門

又北十里曰起山其陰多蒼玉其陽有井冬有水而

夏竭

又東五百里曰成侯之山其上多種音木槐似桐樹材人呼其草多花

又東五百里曰朝歌之山谷多美亞

又東五百里曰槐山谷多金銀

又東十里曰歷山其木多槐其陽多玉

又東十里曰尸山多蒼玉其獸多麋似鹿而小黑色尸水出焉而流注于洛水其中多美玉

又東十里曰良餘之山其上多穀杵無石餘水出于

其陰南北流注于河乳水出于其陽而東南流注于

洛

又東南十里曰壘尾之山多礪石赤銅龍餘之水出

中山經 卷之五 三

焉而東南流注于洛

又東北二十里曰升山其木多穀柞棘其草多諸蕙

蕙蕙香也 冠脫冠脫草生南方高丈許似荷葉而莖中有脈正白紫桂人植而日灌之以

為樹黃醜之水出焉而北流注于河其中多琺玉次

玉者不知佩者旋

又東十二里曰陽虛之山多金隔于玄扈之水

河圖類為帝南巡狩登陽虛之山隔于玄扈洛池靈龜負書丹甲青文以授之出此水也

凡薄山之首自荷林之山至于陽虛之山凡十六山

二千九百八十二里升山家也其祠禮太牢嬰用吉

玉首山也其祠用禘黑犧太牢之具藥醴以藥作醴酒也

干儻萬儻千置鼓擊之以舞嬰用一璧尸水合天也天神之所

也馮肥牲祀之用一黑犬于上用一雌雞于下刳一牝

羊獻血以血祭也以酒以酒也以酒嬰用吉玉彩之又加以

飾之勸強之也特牲饋食禮曰執奠饗是也第三十三圖終

中次六經編羗山之首曰平逢之山南望伊洛東望

穀城之山在濟北穀城縣西黃石公不在此山下張良取以合葬爾無草木無水

多沙石有神焉其狀如人而二首名曰驕蟲是為螫

蟲為螫蟲實惟峰窠之窟言蜂蟻之所舍其祠之用

春之五

五

焉而東南流注于洛

又東北二十里曰升山其木多穀柞棘其草多諸蕙

蕙蕙香也 冠脫冠脫草生南方高丈許似荷葉而莖中有脈正白紫桂人植而日灌之以

為樹黃醜之水出焉而北流注于河其中多琺玉次

玉者不知佩者旋

又東十二里曰陽虛之山多金隔于玄扈之水

河圖類為帝南巡狩登陽虛之山隔于玄扈洛池靈龜負書丹甲青文以授之出此水也

凡薄山之首自荷林之山至于陽虛之山凡十六山

二千九百八十二里升山家也其祠禮太牢嬰用吉

玉首山也其祠用禘黑犧太牢之具藥醴以藥作醴酒也

干儻萬儻千置鼓擊之以舞嬰用一璧尸水合天也天神之所

也馮肥牲祀之用一黑犬于上用一雌雞于下刳一牝

羊獻血以血祭也以酒以酒也以酒嬰用吉玉彩之又加以

飾之勸強之也特牲饋食禮曰執奠饗是也第三十三圖終

中次六經編羗山之首曰平逢之山南望伊洛東望

穀城之山在濟北穀城縣西黃石公不在此山下張良取以合葬爾無草木無水

多沙石有神焉其狀如人而二首名曰驕蟲是為螫

蟲為螫蟲實惟峰窠之窟言蜂蟻之所舍其祠之用

中山經

春之五

五



337 身人面十六神  
330 旋龜

357 人面三首神  
345 鱸魚

323 騎鳥  
325 鴛鴦



中山編

卷之五 第三十四圖

十四

一雄雞禳而勿殺禳祭名也謂禳却惡氣也

西十里曰縞瓶之山無草木多金玉

又西十里曰虺音灰山其陰多瑋琇之玉其西有谷焉

名曰灌谷其木多柳楮其中有鳥焉狀如山鷄而長

尾赤如丹火而青喙各曰鴝鵒音要其鳴自呼服之

不昧交觴之水出于其陽而南流注于洛音隨之水

出于其陰而北流注于穀水

又西三十里曰瞻諸之山其陽多金其陰多文石音澗

水出焉而東南流注于洛少水出其陰而東流注

于穀水世謂之

又西三十里曰婁涿之山無草木多金玉澗水出于

其陽而東流注于洛音澗水出于其陰世謂之而北流

注于穀水其中多砮石文石

又西四十里曰白石之山惠水出于其陽而南流注

于洛其中多水玉澗水出于其陰世謂之西北流注

于穀水其中多糜石楯丹俱未詳

又西五十里曰穀山其上多穀其下多桑棗水出焉

世謂之而西北流注于穀水其中多碧綠

中山經 卷之五 五

一雄雞禳而勿殺禳祭名也謂禳却惡氣也

西十里曰縞瓶之山無草木多金玉

又西十里曰虺音灰山其陰多瑋琇之玉其西有谷焉

名曰灌谷其木多柳楮其中有鳥焉狀如山鷄而長

尾赤如丹火而青喙各曰鴝鵒音要其鳴自呼服之

不昧交觴之水出于其陽而南流注于洛音隨之水

出于其陰而北流注于穀水

又西三十里曰瞻諸之山其陽多金其陰多文石音澗

水出焉而東南流注于洛少水出其陰而東流注

于穀水世謂之

又西三十里曰婁涿之山無草木多金玉澗水出于

其陽而東流注于洛音澗水出于其陰世謂之而北流

注于穀水其中多砮石文石

又西四十里曰白石之山惠水出于其陽而南流注

于洛其中多水玉澗水出于其陰世謂之西北流注

于穀水其中多糜石楯丹俱未詳

又西五十里曰穀山其上多穀其下多桑棗水出焉

世謂之而西北流注于穀水其中多碧綠

中山經 卷之五 五

又西七十二里曰密山今榮陽密縣亦有密山疑非也其陽多玉其陰多鐵豪水出焉而南流注于洛其中多旋龜其狀鳥首而鼈尾其音如判木無草木

又西百里曰長石之山無草木多金玉其西有谷焉

名曰共谷多竹共水出焉西南流注于洛其中多鳴石晉承康元年襄陽郡上鳴石似玉色青鐘之聲開石七八里今零陵泉陵縣永正鄉有鳴石二所其一狀如鼓俗因名爲鼓鼓能此類也

又西一百四十里曰傅山無草木多瑤碧厭染之水

出于其陽而南流注于洛其中多人魚其西有林焉

名曰壻音番家穀水出焉而東流注于洛今穀水出穀入洛

又西五十里曰蒙山其木多樗多楸木今蜀中有楸木七八月中吐穗穗成如有鹽粉著狀可以醉美備音備蕭蕭見蒙水出焉而北流注于河其中多脩辟之魚

狀如龜也而白喙其音如鴉食之已白癡

又西九十里曰常烝之山無草木多堊濞音濞水出焉

而東北流注于河其中多蒼玉蓄水出焉而北流注于河

于河

不卷之五 十六

又西七十二里曰密山今榮陽密縣亦有密山疑非也其陽多玉其陰多鐵豪水出焉而南流注于洛其中多旋龜其狀鳥首而鼈尾其音如判木無草木

又西百里曰長石之山無草木多金玉其西有谷焉

名曰共谷多竹共水出焉西南流注于洛其中多鳴石晉承康元年襄陽郡上鳴石似玉色青鐘之聲開石七八里今零陵泉陵縣永正鄉有鳴石二所其一狀如鼓俗因名爲鼓鼓能此類也

又西一百四十里曰傅山無草木多瑤碧厭染之水

出于其陽而南流注于洛其中多人魚其西有林焉

名曰壻音番家穀水出焉而東流注于洛今穀水出穀入洛

又西五十里曰蒙山其木多樗多楸木今蜀中有楸木七八月中吐穗穗成如有鹽粉著狀可以醉美備音備蕭蕭見蒙水出焉而北流注于河其中多脩辟之魚

狀如龜也而白喙其音如鴉食之已白癡

又西九十里曰常烝之山無草木多堊濞音濞水出焉

而東北流注于河其中多蒼玉蓄水出焉而北流注于河

于河

中山經 不卷之五 十六



西九十里曰夸父之山其木多欂櫨多竹箭其獸多狝牛羝羊其鳥多鸞其陽多玉其陰多鐵其北有林焉名曰桃林是廣圓三百里其中多馬桃林今弘農南谷中是也湖水分出焉而北流注于河其中多

羽玉

又西九十里曰陽華之山其陽多金玉其陰多青雉黃其草多藟蕒多苦辛其狀如橪即楸其實如瓜其味酸甘食之已瘡楊水出焉而西南流注于洛其中

八魚門水出焉而東北流注于河其中多玄礪石生中緇姑之水出于其陰而東流注于門水其上

多銅門水至于河七百里入雒水

凡縞羝山之首自平逢之山至于陽華之山凡十四

山七百九十里嶽在其中以六月祭之六月亦歲之中如諸

嶽之祠法天下安寧

中次七經苦山之首曰休與之山與或其上有石焉

名曰帝臺之棋帝臺神人名棋謂博棋也五色而文其狀如鵝卵

帝臺之石所以禱百神者也禱祀百神則用此石服之不蠱有

草焉其狀如蒼赤華而本叢生名曰風條可以爲簪

中山經

卷之五

七

又西九十里曰夸父之山其木多欂櫨多竹箭其獸多狝牛羝羊其鳥多鸞其陽多玉其陰多鐵其北有林焉名曰桃林是廣圓三百里其中多馬桃林今弘農南谷中是也湖水分出焉而北流注于河其中多

羽玉

又西九十里曰陽華之山其陽多金玉其陰多青雉黃其草多藟蕒多苦辛其狀如橪即楸其實如瓜其味酸甘食之已瘡楊水出焉而西南流注于洛其中

八魚門水出焉而東北流注于河其中多玄礪石生中緇姑之水出于其陰而東流注于門水其上

多銅門水至于河七百里入雒水

凡縞羝山之首自平逢之山至于陽華之山凡十四

山七百九十里嶽在其中以六月祭之六月亦歲之中如諸

嶽之祠法天下安寧

中次七經苦山之首曰休與之山與或其上有石焉

名曰帝臺之棋帝臺神人名棋謂博棋也五色而文其狀如鵝卵

帝臺之石所以禱百神者也禱祀百神則用此石服之不蠱有

草焉其狀如蒼赤華而本叢生名曰風條可以爲簪

中山經

卷之五

七

中節  
字也

東三百里曰敏鐘之山帝臺之所以饒百神也燕食則於此山因有草焉方莖而黃華圓葉而三成重也

其名曰焉酸可以為毒治其其上多礪其下多砥

又東二百里曰姑嫺音之山或無帝女死焉其名曰

女尸化為蕪草其葉胥成也音葉相重也蕪音通也其華黃其實如

菟丘菟絲也見爾雅服之媚于人為人所愛也傳曰人服媚之如是二名荒夫草

又東二十里曰苦山有獸焉名曰山膏其狀如逐豚豚

赤若丹火善噉好噉其上有木焉名曰黃棘黃棘

而圓葉其實如蘭服之不字字生也易曰女子貞不字有草焉圓

葉而無莖赤華而不實名曰無條服之不瘦

又東二十七里曰堵山神天愚居之是多怪風雨其

上有木焉名曰天楸音方莖而葵狀服者不噉食不

又東五十二里曰放臯之山放或作効明水出焉南

流注于伊水其中多蒼玉有木焉其葉如槐黃華正

不實其名曰蒙木服之不感有獸焉其狀如蜂棧尾

而反舌善呼好呼喚也其名曰天文

又東五十七里曰大誓之山多璵璠之玉多麋玉詳

中山經

不卷之五

木

中節  
字也

東三百里曰敏鐘之山帝臺之所以饒百神也燕食則於此山因有草焉方莖而黃華圓葉而三成重也

其名曰焉酸可以為毒治其其上多礪其下多砥

又東二百里曰姑嫺音之山或無帝女死焉其名曰

女尸化為蕪草其葉胥成也音葉相重也蕪音通也其華黃其實如

菟丘菟絲也見爾雅服之媚于人為人所愛也傳曰人服媚之如是二名荒夫草

又東二十里曰苦山有獸焉名曰山膏其狀如逐豚豚

赤若丹火善噉好噉其上有木焉名曰黃棘黃棘

而圓葉其實如蘭服之不字字生也易曰女子貞不字有草焉圓

葉而無莖赤華而不實名曰無條服之不瘦

又東二十七里曰堵山神天愚居之是多怪風雨其

上有木焉名曰天楸音方莖而葵狀服者不噉食不

又東五十二里曰放臯之山放或作効明水出焉南

流注于伊水其中多蒼玉有木焉其葉如槐黃華正

不實其名曰蒙木服之不感有獸焉其狀如蜂棧尾

而反舌善呼好呼喚也其名曰天文

又東五十七里曰大誓之山多璵璠之玉多麋玉詳

中山經

不卷之五

木

有草焉其狀葉如榆方莖而蒼傷其名曰牛傷牛傷  
其根蒼文服者不厭厭逆可以禦兵其陽生水出焉  
西南流注于伊水其中多三足龜今吳興陽羨縣有  
中有三足六眼龜龜龜食者無大疾可以已腫  
又東七十里曰半石之山其上有草焉生而秀其高

丈餘赤葉赤華華而不實初生先作穗却其名曰嘉  
榮服之者不寔不覺來雷之水出于其陽而西流注  
于伊水其中多鱗音魚黑文其狀如鮒食者不睡合

出于其陰而西流注于洛多鱗音魚狀如鰕尾連  
鱗魚大口大目細鱗有斑彩連倉文赤尾食者不癩  
水中之穴道交通者鱗音劇倉文赤尾食者不癩  
可以為瘻瘻瘻屬也中多有虱准

又東五十里曰少室之山今在河南陽城百草木成  
困詳其上上有木焉其名曰帝休葉狀如楊其枝五衢

言樹枝交錯相並五出有象黃華黑實服者不怒其  
衢路也離騷曰靡萍九衢黃華黑實服者不怒其  
上多玉此山巖亦名白玉膏得服之即得其下多鐵

休水出焉而北流注于洛其中多鮪魚狀如鮪詳  
鮪首而長距足白而對詳食者無蟲疾可以禦兵  
又東三十里曰泰室之山今在陽城縣西其上有

中山經 卷之五 九

有草焉其狀葉如榆方莖而蒼傷其名曰牛傷牛傷  
其根蒼文服者不厭厭逆可以禦兵其陽狂水出焉

西南流注于伊水其中多三足龜今吳興陽羨縣有  
中有三足六眼龜龜龜食者無大疾可以已腫  
又東七十里曰半石之山其上有草焉生而秀其高

丈餘赤葉赤華華而不實初生先作穗却其名曰嘉  
榮服之者不寔不覺來雷之水出于其陽而西流注  
于伊水其中多鱗音魚黑文其狀如鮒食者不睡合

出于其陰而西流注于洛多鱗音魚狀如鰕尾連  
鱗魚大口大目細鱗有斑彩連倉文赤尾食者不癩  
水中之穴道交通者鱗音劇倉文赤尾食者不癩  
可以為瘻瘻瘻屬也中多有虱准

又東五十里曰少室之山今在河南陽城百草木成  
困詳其上上有木焉其名曰帝休葉狀如楊其枝五衢

言樹枝交錯相並五出有象黃華黑實服者不怒其  
衢路也離騷曰靡萍九衢黃華黑實服者不怒其  
上多玉此山巖亦名白玉膏得服之即得其下多鐵

休水出焉而北流注于洛其中多鮪魚狀如鮪詳  
鮪首而長距足白而對詳食者無蟲疾可以禦兵  
又東三十里曰泰室之山今在陽城縣西其上有

中山經 卷之五 九

木焉葉狀如梨而赤理其名曰楸音郁木服者不妬有

草焉其狀如米白華黑實澤如蓂莫音子其名曰蕒

草服之不昧多美石次玉者也唐母化爲石而生陸在此山見淮南子

又北三十里曰講山其上多玉多柘多栢有木焉名

曰帝屋葉狀如椒反傷赤實及傷判下句也可以禦凶

又北三十里曰嬰梁之山上多蒼玉鑄于玄石音蒼

黑石而生也或曰鐘于樂器各形似鐘頭

又東三十里曰浮戲之山有木焉葉狀如樗而赤實

名曰亢木食之不蠱汜水出焉而北流注于河其東

有谷因名曰蛇谷音此山上多少辛也

又東四十里曰少陘之山有草焉名曰商音草草葉狀

如葵而赤莖白華實如蓂莫食之不思音益器難之

水出焉器或而北流注于彼水作侵

又東南十里曰大山別有東小太山今在朱虛縣及水所出疑此非也有草

焉名曰梨其葉狀如萩而赤華可以已疽太水出于

其陽而東南流注于汶水承水出于其陰而東北流

注于汶世謂之

又東二十里曰末山上多赤金末水出焉北流注于

中山經 卷之五 于

木焉葉狀如梨而赤理其名曰楸音郁木服者不妬有

草焉其狀如米白華黑實澤如蓂莫音子其名曰蕒

草服之不昧多美石次玉者也唐母化爲石而生陸在此山見淮南子

又北三十里曰講山其上多玉多柘多栢有木焉名

曰帝屋葉狀如椒反傷赤實及傷判下句也可以禦凶

又北三十里曰嬰梁之山上多蒼玉鑄于玄石音蒼

黑石而生也或曰鐘于樂器各形似鐘頭

又東三十里曰浮戲之山有木焉葉狀如樗而赤實

名曰亢木食之不蠱汜水出焉而北流注于河其東

有谷因名曰蛇谷音此山上多少辛也

又東四十里曰少陘之山有草焉名曰商音草草葉狀

如葵而赤莖白華實如蓂莫食之不思音益器難之

水出焉器或而北流注于彼水作侵

又東南十里曰大山別有東小太山今在朱虛縣及水所出疑此非也有草

焉名曰梨其葉狀如萩而赤華可以已疽太水出于

其陽而東南流注于汶水承水出于其陰而東北流

注于汶世謂之

又東二十里曰末山上多赤金末水出焉北流注于

中山經 卷之五 于

沒水經

又東二十五里曰役山上多白金多鐵殺水出焉北

流注于河

又東三十五里曰敏山上有木焉其狀如荆白華而

赤實各曰薊音相服者不寒其陽多瑇瑁之玉

又東三十里曰大騮之山今榮陽密縣有大騮山其

陰多鐵美玉青瑩有草焉其狀如著而毛青華而白

實其名曰猿音服之不天或作笑可以為腹病為治也

山千一百八十四里其十六神者皆豕身而人面其

祠毛脰用一羊羞言以羊為薦羞嬰用一藻玉瘞藻玉玉有五形者也

或曰所以盛王莽藉也苦由少室太室皆冢也其祠之太牢之

具嬰以吉玉其神狀皆人面而三首其餘屬皆豕身

人面也

第三十四圖錄

中次八經荆山之首曰景山今在南山其上多金玉其

木多杵音檀檀音檀雕水出焉東南流注于江今睢水出新城

南發阿山東南至南其中多丹粟多文魚有斑

東北百里曰荆山今在新鄉其陰多鐵其陽多赤金

人卷之五

三

沒水經

又東二十五里曰役山上多白金多鐵殺水出焉北

流注于河

又東三十五里曰敏山上有木焉其狀如荆白華而

赤實各曰薊音相服者不寒其陽多瑇瑁之玉

又東三十里曰大騮之山今榮陽密縣有大騮山其

陰多鐵美玉青瑩有草焉其狀如著而毛青華而白

實其名曰猿音服之不天或作笑可以為腹病為治也

山千一百八十四里其十六神者皆豕身而人面其

祠毛脰用一羊羞言以羊為薦羞嬰用一藻玉瘞藻玉玉有五形者也

或曰所以盛王莽藉也苦由少室太室皆冢也其祠之太牢之

具嬰以吉玉其神狀皆人面而三首其餘屬皆豕身

人面也

第三十四圖錄

中次八經荆山之首曰景山今在南山其上多金玉其

木多杵音檀檀音檀雕水出焉東南流注于江今睢水出新城

南發阿山東南至南其中多丹粟多文魚有斑

東北百里曰荆山今在新鄉其陰多鐵其陽多赤金

中山經

八卷之五

三



中山經  
卷之五 第三十五圖  
主

365 計蒙  
369 鯀魚

366 沙羅

360 嘉園神

361 鴻



中山經  
卷之五 第三十五圖  
主

其中多聲鹿牛屬也黑色出西南僻外也音理多豹虎其木多松栢其

草多竹多楠櫟櫟似栢而大皮厚味酸漳水出焉而東南流注

于睢出荆山至南郡其中多黃金多鰈魚鰈魚類也皮有珠

文而堅尾長三四尺未有毒螫人皮可制其獸多開

万劍口錯治刺備今臨海郡亦有之音文其獸多開

又東北百五十里曰驕山其上多玉其下多青護其

木多松栢多桃枝鈎端神靈音團處之其狀如人面

羊角虎爪恒遊于睢漳之淵淵水之出入有光

又東北百二十里曰女儿之山其上多玉其下多黃

金其獸多豹虎多間麋麀鹿麀似鹿而大其鳥多

白鶴似雉而長尾多程多鵠鵠赤食蛇頭雄

又東北二百里曰宜諸之山其上多金玉其下多青

護流音水出焉而南流注于漳今流水出南郡東流

其中多白玉

又東北三百五十里曰綸音山其木多梓櫟多桃枝

多粗栗楠櫟祖似栗其獸多間麋麀鹿脚青色音

又東北二百里曰陸郎音山其上多瑇瑁之王其

卷之五

其中多聲鹿牛屬也黑色出西南僻外也音理多豹虎其木多松栢其

草多竹多楠櫟櫟似栢而大皮厚味酸漳水出焉而東南流注

于睢出荆山至南郡其中多黃金多鰈魚鰈魚類也皮有珠

文而堅尾長三四尺未有毒螫人皮可制其獸多開

万劍口錯治刺備今臨海郡亦有之音文其獸多開

又東北百五十里曰驕山其上多玉其下多青護其

木多松栢多桃枝鈎端神靈音團處之其狀如人面

羊角虎爪恒遊于睢漳之淵淵水之出入有光

又東北百二十里曰女儿之山其上多玉其下多黃

金其獸多豹虎多間麋麀鹿麀似鹿而大其鳥多

白鶴似雉而長尾多程多鵠鵠赤食蛇頭雄

又東北二百里曰宜諸之山其上多金玉其下多青

護流音水出焉而南流注于漳今流水出南郡東流

其中多白玉

又東北三百五十里曰綸音山其木多梓櫟多桃枝

多粗栗楠櫟祖似栗其獸多間麋麀鹿脚青色音

又東北二百里曰陸郎音山其上多瑇瑁之王其

卷之五

下多聖其木多柎樞

又東百三十里曰光山其上多碧其下多木神計蒙

處之其狀人身而龍首桓遊于漳淵出入必有飄風

暴兩

又東百五十里曰岐山其陽多赤金其陰多白玳似玉者

音吳其上多金玉其下多青護其木多樗神涉巖音

處之其狀人身而方面三足

又東百三十里曰銅山其上多金銀鐵其木多穀柞

柎栗楠櫟其獸多豹

又東北一百里曰美山其獸多兕牛多閭塵多豕鹿

其上多金其下多青護

又東北百里曰大堯之山其木多松栢多梓桑多机

其草多竹其獸多豹虎麋麋

又東北三百里曰靈山其上多金玉其下多青護其

木多桃李梅杏

又東北七十里曰龍山上多寓木寄生也一名其上宛童見爾雅

多碧其下多赤錫其草多桃枝鈎端

又東南五十里曰衡山上多寓不穀柞多黃堊白堊

木春之五

正兩

下多聖其木多柎樞

又東百三十里曰光山其上多碧其下多木神計蒙

處之其狀人身而龍首桓遊于漳淵出入必有飄風

暴兩

又東百五十里曰岐山其陽多赤金其陰多白玳似玉者

音吳其上多金玉其下多青護其木多樗神涉巖音

處之其狀人身而方面三足

又東百三十里曰銅山其上多金銀鐵其木多穀柞

柎栗楠櫟其獸多豹

又東北一百里曰美山其獸多兕牛多閭塵多豕鹿

其上多金其下多青護

又東北百里曰大堯之山其木多松栢多梓桑多机

其草多竹其獸多豹虎麋麋

又東北三百里曰靈山其上多金玉其下多青護其

木多桃李梅杏

又東北七十里曰龍山上多寓木寄生也一名其上宛童見爾雅

多碧其下多赤錫其草多桃枝鈎端

又東南五十里曰衡山上多寓不穀柞多黃堊白堊

中山經

卷之五

正兩



又東南七十里曰石山其上多金其下多青護多膏

木

又南百二十里曰若山其上多璵璠之玉多精亦

邽石詳未多膏木多柘若戎

又東南一百二十里曰礪山多美石多柘

又東南一百五十里曰玉山其上多金玉其下多碧

鐵其木多柘

又東南七十里曰譙山其木多檀多邽石多白銀今

也郁水出于其上潜于其下其中多砥礪

又東北百五十里曰仁舉之山其木多穀柞其陽多

赤金其陰多赭

又東五十里曰師每之山其陽多砥礪其陰多青護

其木多柘多檀多柘其草多竹

又東南二百里曰采鼓之山其木多穀柞椒柘椒為樹小

而叢生下有羊木則蓋死其上多白珉其下多洗石其獸多豕鹿

多白犀其鳥多鳩

入卷之五

三五

又東南七十里曰石山其上多金其下多青護多膏

木

又南百二十里曰若山其上多璵璠之玉多精亦

邽石詳未多膏木多柘若戎

又東南一百二十里曰礪山多美石多柘

又東南一百五十里曰玉山其上多金玉其下多碧

鐵其木多柘

又東南七十里曰譙山其木多檀多邽石多白銀今

也郁水出于其上潜于其下其中多砥礪

又東北百五十里曰仁舉之山其木多穀柞其陽多

赤金其陰多赭

又東五十里曰師每之山其陽多砥礪其陰多青護

其木多柘多檀多柘其草多竹

又東南二百里曰采鼓之山其木多穀柞椒柘椒為樹小

而叢生下有羊木則蓋死其上多白珉其下多洗石其獸多豕鹿

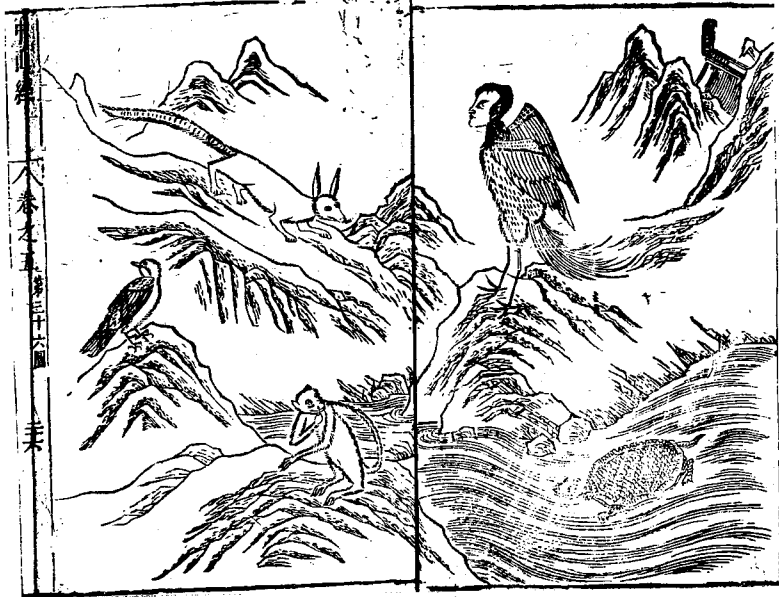
多白犀其鳥多鳩

中山經

八卷之五

三五

第三十五圖終



中山經  
卷之五 第三十六圖  
壬

386 竊脂

387 狢狼  
388 羆

389 鳥身人面神

390 鼈



中山經  
卷之五 第三十六圖  
壬

凡荆山之首自景山至琴鼓之山凡二十三山二千八百九十里其神狀皆鳥身而人面其祠用一雄雞祈瘞禱請已用一藻圭禱用之也禱用祿驕山冢也其祠用羞酒少牢祈瘞嬰毛一璧

中次九經岷山之首曰女儿之山其上多石涅其木多柎樞其草多菊茱洛水出焉東注于江其中多雄

黃雄黃亦其中多虎豹

又東北三百里曰岷山江水出焉岷山今在汶山郡廣陽縣西大江所

者長二丈有鱗其皮可以胃族其多金玉其下多白珉其木多柎

棠其獸多犀象多麋牛今蜀山中有大牛重數千斤名爲麋牛晉太興元年此牛

十八擔肉卽爾雅所謂羆其鳥多翰鷲赤鷲

又東北一百七十里曰岷山江水出焉岷山今在漢嘉嚴道縣

多黃金其陰多麋麋其木多檀柎其草多薤韭多葍

卽葉空奪卽蛇被

又東一百五十里曰岷山江水出焉北東流注于大江其中多怪蛇今永昌郡有劍蛇長數丈尾岐在水中鉤取岸上人牛馬咬之又呼

中山經 卷之五 七

凡荆山之首自景山至琴鼓之山凡二十三山二千八百九十里其神狀皆鳥身而人面其祠用一雄雞祈瘞禱請已用一藻圭禱用之也禱用祿驕山冢也其祠用羞酒少牢祈瘞嬰毛一璧

中次九經岷山之首曰女儿之山其上多石涅其木多柎樞其草多菊茱洛水出焉東注于江其中多雄

黃雄黃亦其中多虎豹

又東北三百里曰岷山江水出焉岷山今在汶山郡廣陽縣西大江所

者一丈有鱗其皮可以胃族其多金玉其下多白珉其木多柎

棠其獸多犀象多麋牛今蜀山中有大牛重數千斤名爲麋牛晉太興元年此牛

十八擔肉卽爾雅所謂羆其鳥多翰鷲赤鷲

又東北一百七十里曰岷山江水出焉岷山今在漢嘉嚴道縣

多黃金其陰多麋麋其木多檀柎其草多薤韭多葍

卽葉空奪卽蛇被

又東一百五十里曰岷山江水出焉北東流注于大江其中多怪蛇今永昌郡有劍蛇長數丈尾岐在水

中山經 卷之五 七

馬絆蛇謂多驚音魚詳其木多檜木也中多此類也梅梓其獸多麋牛麋麋犀兕有烏馬狀如鴟而赤身白首其名曰竊脂今呼小青雀曲嘴肉食可以禦火者為竊脂疑此非也又東三百里曰高梁之山其上多望其下多砥礪其木多桃枝鈎端有草焉狀如葵而赤華莢實白柑可以走馬

又東四百里曰蛇山其上多黃金其下多望其木多柳多豫樟其草多嘉榮少辛有獸焉其狀如狐而白尾長耳名狇音很見則國內有兵一作國

又東五百里曰鬲山其陽多金其陰多白珉蒲音之水出焉而東流注于江其中多白玉其獸多犀象熊羆多獫狁唯似獼猴鼻露上向尾四五尺頭有支蒼黃色雨則自懸樹以尾塞鼻孔或以兩指塞之

又東北三百里曰隅陽之山其上多金玉其下多青護其木多梓桑其草多此徐之水出焉東流注于江其中多丹粟

又東二百五十里曰岐山今在扶風美陽縣西其上多白金其下多鐵其木多梅梓多柎檟滅水出焉東南流注于

大春之五

馬絆蛇謂多驚音魚詳其水多檜木也中多此類也梅梓其獸多麋牛麋麋犀兕有烏馬狀如鴟而赤身白首其名曰竊脂今呼小青雀曲嘴肉食可以禦火者為竊脂疑此非也又東三百里曰高梁之山其上多望其下多砥礪其木多桃枝鈎端有草焉狀如葵而赤華莢實白柑可以走馬

又東四百里曰蛇山其上多黃金其下多望其木多柳多豫樟其草多嘉榮少辛有獸焉其狀如狐而白尾長耳名狇音很見則國內有兵一作國

又東五百里曰鬲山其陽多金其陰多白珉蒲音之水出焉而東流注于江其中多白玉其獸多犀象熊羆多獫狁唯似獼猴鼻露上向尾四五尺頭有支蒼黃色雨則自懸樹以尾塞鼻孔或以兩指塞之

又東北三百里曰隅陽之山其上多金玉其下多青護其木多梓桑其草多此徐之水出焉東流注于江其中多丹粟

又東二百五十里曰岐山今在扶風美陽縣西其上多白金其下多鐵其木多梅梓多柎檟滅水出焉東南流注于

中山經

卷之五

三

三

三

三

江

又東三百里曰勾欄音你之山其上多玉其下多黃金

其下多櫟柘其草多芍藥

又東一百五十里曰風雨之山其上多白金其下多

石涅其木多椶櫚椶木未詳櫚木白多揚宣余之水

出焉東流注于江其中多蛇其獸多間麋多麀豹虎

其鳥多白鶴

又東北二百里曰玉山其陽多銅其陰多赤金其木

多豫樟檜柎其獸多豕鹿麋麋其鳥多鳩第三十 六圖終

又東一百五十里曰熊山有穴焉熊之穴恒出神人

夏啓而冬閉是穴也冬啓乃必有兵今鄂西北有鼓

懸著山旁鳴則有軍事山下有石鼓象其上多白玉其下多赤金其

木多檉柳其下多冠脫

又東一百四十里曰驪山其陽多美玉赤金其陰多

鐵其木多桃枝荆芭

又東二百里曰葛山其上多赤金其下多城石城石 玃石

似玉也其木多相栗楡檟柎其獸多麋麋其草多

嘉榮

江

又東三百里曰勾欄音你之山其上多玉其下多黃金

其下多櫟柘其草多芍藥

又東一百五十里曰風雨之山其上多白金其下多

石涅其木多椶櫚椶木未詳櫚木白多揚宣余之水

出焉東流注于江其中多蛇其獸多間麋多麀豹虎

其鳥多白鶴

又東北二百里曰玉山其陽多銅其陰多赤金其木

多豫樟檜柎其獸多豕鹿麋麋其鳥多鳩第三十 六圖終

又東一百五十里曰熊山有穴焉熊之穴恒出神人

夏啓而冬閉是穴也冬啓乃必有兵今鄂西北有鼓

懸著山旁鳴則有軍事山下有石鼓象其上多白玉其下多赤金其

木多檉柳其下多冠脫

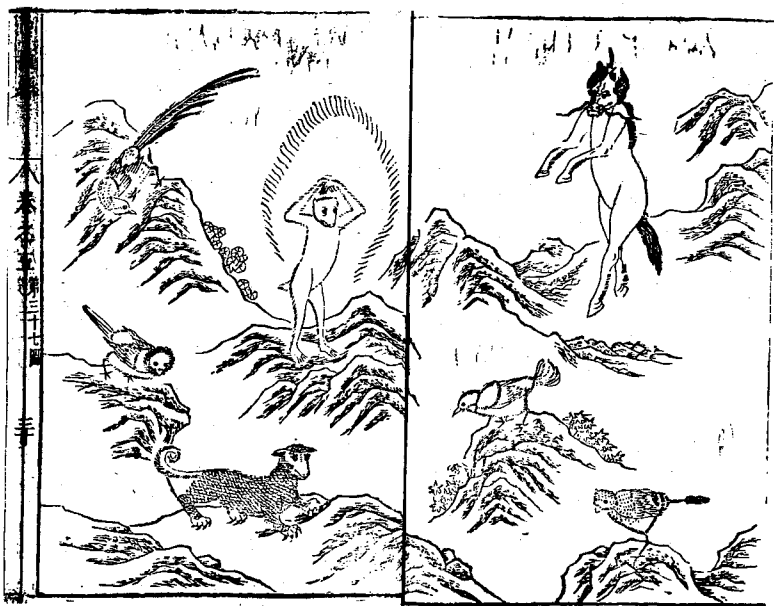
又東一百四十里曰驪山其陽多美玉赤金其陰多

鐵其木多桃枝荆芭

又東二百里曰葛山其上多赤金其下多城石城石 玃石

似玉也其木多相栗楡檟柎其獸多麋麋其草多

嘉榮



405 翼鴻  
417 鴻

421 獠

414 神耕父

418 嬰勺

398 馬身龍首神  
403 跋踵

中山經

八卷之五第三七圖

辛



又東一百七十里曰賈超之山其陽多黃堊其陰多

美楮其木多粗栗楸櫛其中多龍修龍須也似堊而細生山石穴中以爲瘧

凡岷山之首自女凡山至于賈超之山凡十六山三千五百里其神狀皆馬身而龍首其祠毛用一雄雞

瘞瘡用稌文山山勾欄風雨颺之山是皆冢也其祠之

羞酒先進酒以附神少牢具嬰毛一吉玉熊山鹿也鹿者神之所居

正其祠羞酒太牢具嬰毛一璧千儗用兵以禳除之

祭名儗者持祈夢見舞所求福祥也祭用玉儗者

中次十經之首曰首陽之山其上多金玉無草木

又西五十里曰虎尾之山其木多楸梧多封石其陽

多赤金其陰多鐵

又西南五十里曰繁纒音音之山其木多檜柎其草多

枝勾今山中

又西南二十里曰復州之山其木多檀其陽多黃金有

鳥焉其狀如鴉而一足羸尾其名曰跛踵見則其國

疫路曰跛踵爲鳥一足似

疫變不爲樂興反以來悲

卷之五

三

又東一百七十里曰賈超之山其陽多黃堊其陰多

美楮其木多粗栗楸櫛其中多龍修龍須也似堊而細生山石穴中以爲瘧

凡岷山之首自女凡山至于賈超之山凡十六山三千五百里其神狀皆馬身而龍首其祠毛用一雄雞

瘞瘡用稌文山山勾欄風雨颺之山是皆冢也其祠之

羞酒先進酒以附神少牢具嬰毛一吉玉熊山鹿也鹿者神之所居

正其祠羞酒太牢具嬰毛一璧千儗用兵以禳除之

祭名儗者持祈夢見舞所求福祥也祭用玉儗者

中次十經之首曰首陽之山其上多金玉無草木

又西五十里曰虎尾之山其木多楸梧多封石其陽

多赤金其陰多鐵

又西南五十里曰繁纒音音之山其木多檜柎其草多

枝勾今山中

又西南二十里曰復州之山其木多檀其陽多黃金有

鳥焉其狀如鴉而一足羸尾其名曰跛踵見則其國

疫路曰跛踵爲鳥一足似

疫變不爲樂興反以來悲

卷之五

三

又西三十里曰猪山多寓木多椒楮多栝多聖一作涪州

又西二十里曰又原之山其陽多青護其陰多鐵其

鳥多鸚鵡鸚鵡也傳曰鸚

又西五十里曰涿山其木多穀柞柘其陽多璆璠之

又西七十里曰丙山其木多梓檀多歌音杜

凡首陽山之首自首山至于丙山凡九山二百六十

七里其神狀皆龍身而人面其祠之毛川一雄雞座

精用五種之精堵山冢也其祠之少牢具羞酒用嬰

毛一璧瘞驪山帝也其祠羞酒大牢其合巫祝二人

備嬰一璧

中次一十一山經荆山之首曰翼望之山湯水出焉

東流注于濟今瀋水逕南陽現音水出焉東南流注

于漢其中多蛟似蛇而四脚小頭細頸頭有白瘻大

其上多松栢其下多漆梓其陽多赤金其陰多珉

又東北一百五十里曰朝歌之山瀝水出焉今在商

縣瀝音武東南流注于榮其中多人魚其上多梓栢其歌

音武

卷之五

又西三十里曰猪山多寓木多椒楮多栝多聖一作涪州

又西二十里曰又原之山其陽多青護其陰多鐵其

鳥多鸚鵡鸚鵡也傳曰鸚

又西五十里曰涿山其木多穀柞柘其陽多璆璠之

又西七十里曰丙山其木多梓檀多歌音杜

凡首陽山之首自首山至于丙山凡九山二百六十

七里其神狀皆龍身而人面其祠之毛川一雄雞座

精用五種之精堵山冢也其祠之少牢具羞酒用嬰

毛一璧瘞驪山帝也其祠羞酒大牢其合巫祝二人

備嬰一璧

中次一十一山經荆山之首曰翼望之山湯水出焉

東流注于濟今瀋水逕南陽現音水出焉東南流注

于漢其中多蛟似蛇而四脚小頭細頸頭有白瘻大

其上多松栢其下多漆梓其陽多赤金其陰多珉

又東北一百五十里曰朝歌之山瀝水出焉今在商

縣瀝音武東南流注于榮其中多人魚其上多梓栢其歌

音武

卷之五



多應藤有草焉名曰莽草可以毒魚今用之

又東南二百里曰帝囷之山其陽多瑇瑁之玉其陰

多鐵帝囷之水出于其上潛于其下多鳴蛇

又東南五十里曰視山其上多韭有井焉名曰天井

夏有水冬竭其上多桑多美堊金玉

又東南二百里曰前山其木多櫛音諸似柎子可食

作儲多栢其陽多金其陰多櫛

又東南三百里曰豐山有獸焉其狀如猿赤目赤喙

黃身名曰雍和見則國有大恐神耕父處之常遊清

冷之淵出入有光清冷水在西號怒嶽山上神來見

則其國為敗有九鐘焉是知霜鳴霜降則鐘鳴故言

應而不其上多金其下多穀柞柎檀

又東北八百里曰兔林之山其陽多鐵其木多諸兵

草多雞穀其本如雞卵其味酸甘食者利於人

又東六十里曰皮山多聖多櫛其木多松栢

又東六十里曰瑤碧之山其木多梓柎其陰多青藜

其陽多白金有鳥焉其狀如雉恒食蜚名曰鳩蜚負

音此更一種鳥  
食蛇之鳩也

卷之五

多應藤有草焉名曰莽草可以毒魚今用之

又東南二百里曰帝囷之山其陽多瑇瑁之玉其陰

多鐵帝囷之水出于其上潛于其下多鳴蛇

又東南五十里曰視山其上多韭有井焉名曰天井

夏有水冬竭其上多桑多美堊金玉

又東南二百里曰前山其木多櫛音諸似柎子可食

作儲多栢其陽多金其陰多櫛

又東南三百里曰豐山有獸焉其狀如猿赤目赤喙

黃身名曰雍和見則國有大恐神耕父處之常遊清

冷之淵出入有光清冷水在西號怒嶽山上神來見

則其國為敗有九鐘焉是知霜鳴霜降則鐘鳴故言

應而不其上多金其下多穀柞柎檀

又東北八百里曰兔林之山其陽多鐵其木多諸兵

草多雞穀其本如雞卵其味酸甘食者利於人

又東六十里曰皮山多聖多櫛其木多松栢

又東六十里曰瑤碧之山其木多梓柎其陰多青藜

其陽多白金有鳥焉其狀如雉恒食蜚名曰鳩蜚負

音此更一種鳥  
非食蛇之鳩也

卷之五

三

又東四十里曰支離之山濟水出焉南流注于漢水出鄆縣西北有鳥焉其名曰嬰勺其狀如鵠赤目

赤喙白身其尾若勺勺似酒其鳴自呼多咩牛多羝羊

又東北五十里曰秩簡音彤之山其上多松柏栢栢栢栢

又西北一百里曰董理之山其上多松柏多美梓其

陰多丹護多金其獸多豹虎有鳥焉其狀如鵠青身

白喙白目白尾名曰青耕可以禦疫其鳴自叫

又東南三十里曰依軻音枯之山其上多柶檀多苴

有獸焉其狀如犬虎爪有甲其名曰獬音體有麟

又東南三十五里曰即谷之山多美玉多玄豹黑豹

又東南四十里曰鷄山其上多美梓多桑其草多韭

又東南五十里曰高前之山其上有水焉甚寒而清

帝臺之漿也今河東解縣南檀首山上有水潛飲之

者不心痛其上有金其下有赭

第三十七圖

又東四十里曰支離之山濟水出焉南流注于漢水出鄆縣西北有鳥焉其名曰嬰勺其狀如鵠赤目

赤喙白身其尾若勺勺似酒其鳴自呼多咩牛多羝羊

又東北五十里曰秩簡音彤之山其上多松柏栢栢栢栢

又西北一百里曰董理之山其上多松柏多美梓其

陰多丹護多金其獸多豹虎有鳥焉其狀如鵠青身

白喙白目白尾名曰青耕可以禦疫其鳴自叫

又東南三十里曰依軻音枯之山其上多柶檀多苴

有獸焉其狀如犬虎爪有甲其名曰獬音體有麟

又東南三十五里曰即谷之山多美玉多玄豹黑豹

又東南四十里曰鷄山其上多美梓多桑其草多韭

又東南五十里曰高前之山其上有水焉甚寒而清

帝臺之漿也今河東解縣南檀首山上有水潛飲之

者不心痛其上有金其下有赭

第三十七圖

中山經

卷之五

三

三



卷之五 第五十八圖 七十五

463 神子兒  
466 蛇

436 狼如  
450 深栗  
443 移即



中山經  
卷之五 第五十八圖 七十五

又東南三十里曰遊戲之山多柎樞穀多玉多封石  
又東南三十五里曰從山其上多松柏其下多竹從  
水出于其上潛于其下其中多三足鼈枝尾三足鼈名能見

爾雅食之無蠱疲

又東南三十里曰嬰礪音真之山其上多松柏其下多梓種

又東南三十里曰畢山帝死之水出焉東北流注于視其中多水玉多蛟其上多瑇瑁之玉

又東南二十里曰樂馬之山有獸焉其狀如彘赤而丹火其名曰狻音辰見則其國大疫

又東南二十五里曰歲山視水出焉或曰視宜為瀧瀧水今在南海  
東南流注于汝水其中多人魚多蛟多頰如青頰

又東四十里曰嬰山其下多青護其上多金玉

又東三十里曰虎首之山多苴柎柎音彫  
又東二十里曰嬰侯之山其上多封石其下多赤錫

又東五十里曰大孰之山殺水出焉東北流注于視水其中多白壁

又東四十里曰甲山其上多桃李苴梓多藥

中山經

卷之五

三

又東南三十里曰遊戲之山多柎樞穀多玉多封石  
又東南三十五里曰從山其上多松柏其下多竹從  
水出于其上潛于其下其中多三足鼈枝尾三足鼈名能見

爾雅食之無蠱疲

又東南三十里曰嬰礪音真之山其上多松柏其下多梓種

又東南三十里曰畢山帝死之水出焉東北流注于視其中多水玉多蛟其上多瑇瑁之玉

又東南二十里曰樂馬之山有獸焉其狀如彘赤而丹火其名曰狻音辰見則其國大疫

又東南二十五里曰歲山視水出焉或曰視宜為瀧瀧水今在南海  
東南流注于汝水其中多人魚多蛟多頰如青頰

又東四十里曰嬰山其下多青護其上多金玉

又東三十里曰虎首之山多苴柎柎音彫  
又東二十里曰嬰侯之山其上多封石其下多赤錫

又東五十里曰大孰之山殺水出焉東北流注于視水其中多白壁

又東四十里曰甲山其上多桃李苴梓多藥

中山經

卷之五

三

又東三十里曰倚帝之山其上多玉其下多金有獸焉其狀如鼯鼠爾雅云鼠有十三種有此鼠形音吠白耳白喙名曰狙音如見則其國有大兵

又東三十里曰鯢山鯢音水水出于其上潛于其下其中多美璽其上多金其下多青蠟

又東三十里曰雅山澧水出焉今禮水東流注于視水其中多大魚其上多美桑其下多苴多赤金

又東五十里曰宣山淪水出焉東南流注于視水其中多蛟其上有桑焉大五十尺爾雅云其枝四衢交五出其葉大尺餘赤理黃華青柎名曰帝女之桑王蠶

故以

又東四十五里曰衡山今衡山在衡陽湘南縣南岳也俗謂之岫巒山其上

多青蠟多桑其鳥多鸚鵡

又東四十里曰豐山其上多封石其木多桑多羊桃

狀如桃而方莖一名鬼桃可以為皮張治皮腫起

又東七十里曰嶠山其上多美玉其下多金其草多

鷄穀

又東三十里曰鮮山其木多櫨柎其草多薑冬其

中山經 卷之五 三

又東三十里曰倚帝之山其上多玉其下多金有獸焉其狀如鼯鼠爾雅云鼠有十三種有此鼠形音吠白耳白喙名曰狙音如見則其國有大兵

又東三十里曰鯢山鯢音水水出了其上潛于其下其中多美璽其上多金其下多青蠟

又東三十里曰雅山澧水出焉今禮水東流注于視水其中多大魚其上多美桑其下多苴多赤金

又東五十里曰宣山淪水出焉東南流注于視水其中多蛟其上有桑焉大五十尺爾雅云其枝四衢交五出其葉大尺餘赤理黃華青柎名曰帝女之桑王蠶

故以

又東四十五里曰衡山今衡山在衡陽湘南縣南岳也俗謂之岫巒山其上

多青蠟多桑其鳥多鸚鵡

又東四十里曰豐山其上多封石其木多桑多羊桃

狀如桃而方莖一名鬼桃可以為皮張治皮腫起

又東七十里曰嶠山其上多美玉其下多金其草多

鷄穀

又東三十里曰鮮山其木多櫨柎其草多薑冬其

中山經 卷之五 三

陽多金其陰多鐵有獸焉其狀如獾犬赤喙赤目白

尾見則邑有火名曰移音即

又東三十里曰章山或作章山其陽多金其陰多美石

水出焉東流注于澧水其中多脫石音脫

又東二十五里曰大支之山其陽多金其木多穀柞

無草木

又東五十里曰區吳之山其木多苴

又東五十里曰聲旬之山其木多穀多玉上多封石

又東五十里曰大颺之山其陽多赤金其陰多砥石

又東十五里曰踵白之山無草木

又東北七十里曰歷石之山或作歷其木多荆芑其陽

多黃金其陰多砥石有獸焉其狀如狸而白首虎爪

名曰梁渠見則其國有大兵

又東南一百里曰求山求水出于其上潛于其下中

有美豬其木多苴多豬音猪其陽多金其陰多鐵

又東二百里曰丑陽之山其上多桐楮有鳥焉其狀

如鳥而赤足名曰馭餘可以禦火

又東三百里曰臭山其上多栢柎榿其陽多璆璣之

中山經

卷之五

陽多金其陰多鐵有獸焉其狀如獾犬赤喙赤目白

尾見則邑有火名曰移音即

又東三十里曰章山或作章山其陽多金其陰多美石

水出焉東流注于澧水其中多脫石音脫

又東二十五里曰大支之山其陽多金其木多穀柞

無草木

又東五十里曰區吳之山其木多苴

又東五十里曰聲旬之山其木多穀多玉上多封石

又東五十里曰大颺之山其陽多赤金其陰多砥石

又東十五里曰踵白之山無草木

又東北七十里曰歷石之山或作歷其木多荆芑其陽

多黃金其陰多砥石有獸焉其狀如狸而白首虎爪

名曰梁渠見則其國有大兵

又東南一百里曰求山求水出于其上潛于其下中

有美豬其木多苴多豬音猪其陽多金其陰多鐵

又東二百里曰丑陽之山其上多桐楮有鳥焉其狀

如鳥而赤足名曰馭餘可以禦火

又東三百里曰臭山其上多栢柎榿其陽多璆璣之

中山經

卷之五

三六

玉泉水出焉東流注于觀水

又東三十五里曰服山其木多直其上多封石其下

多赤錫

又東三百里曰杏山其上多嘉榮草多金玉

又東三百五十里曰凡山其木多檣檀柎其草多香

有獸焉其狀如羴黃身白頭白尾名曰闍騫音見則

天下大風

凡荆山之首自翼望之山至于凡山凡四十八山三

千七百三十二里其神狀皆羸身人首其祠毛用一

雄鷄祈瘞用一珪糈用五種之精禾山帝也其祠大

牢之具羞瘞倒毛性差反倒用一璧牛無常堵山玉

山冢也皆倒祠羞毛少牢嬰毛吉玉

中次十二經洞庭山之首曰篇遇之山或作無草木

多黃金

又東南五十里曰雲山無草木有桂竹甚毒傷人必

死今始興郡桂陽縣出筮竹大者圍二尺長四丈又

亦此交趾有葉竹實中勁強有毒鏡以刺虎中之則死

類也其上多黃金其下多璵璠之玉

又東南一百三十里曰龜山其木多穀柞桐櫛其上

卷之五 五

玉泉水出焉東流注于觀水

又東三十五里曰服山其木多直其上多封石其下

多赤錫

又東三百里曰杏山其上多嘉榮草多金玉

又東三百五十里曰凡山其木多檣檀柎其草多香

有獸焉其狀如羴黃身白頭白尾名曰闍騫音見則

天下大風

凡荆山之首自翼望之山至于凡山凡四十八山三

千七百三十二里其神狀皆羸身人首其祠毛用一

雄鷄祈瘞用一珪糈用五種之精禾山帝也其祠大

牢之具羞瘞倒毛性差反倒用一璧牛無常堵山玉

山冢也皆倒祠羞毛少牢嬰毛吉玉

中次十二經洞庭山之首曰篇遇之山或作無草木

多黃金

又東南五十里曰雲山無草木有桂竹甚毒傷人必

死今始興郡桂陽縣出筮竹大者圍二尺長四丈又

亦此交趾有葉竹實中勁強有毒鏡以刺虎中之則死

類也其上多黃金其下多璵璠之玉

又東南一百三十里曰龜山其木多穀柞桐櫛其上

中山經 卷之五 五

多黃金其下多青雄黃多扶竹扶竹也青節實中  
 又東七十里曰丙山多篁竹多黃金銅鐵無木  
 又東南五十里曰風伯之山其上多金玉其下多瘞  
 石文石瘞音酸多鐵其木多柳柰檀楮其東有林焉  
 名曰華浮之林多美木鳥獸  
 又東一百五十里曰夫夫之山其上多黃金其下多  
 青雄黃其木多桑楮其草多竹雞鼓神于兒居之其  
 狀人身而身操兩蛇常遊于江淵出入有光

又東一百二十里曰洞庭之山今長沙已隸湖南  
 其下多銀鐵其木多粗梨楮櫟其草多葦蘼蕪芍藥  
 芎藭蕪似蛇帝之二女居之天帝之二女而處江  
 二女也離騷九歌所謂湘夫人稱帝子者是也而江  
 圖玉版曰湘夫人者帝堯女也泰始皇浮江至湖山  
 逢大風而問博士湘君何神博士曰聞之堯二女舜  
 妃也死而葬此列女傳曰二女死於江湘之間俗謂  
 為湘君則司農亦以舜妃為湘君說者皆以舜陟方  
 而死二妃從之俱溺死於湘江遂號為湘夫人按九  
 歌湘君湘夫人自是二神江湘之有夫人猶河洛之  
 有靈妃也此之為靈與天地並矣安得謂之堯女且  
 死葬於此二妃不從明二妃生不從死死不從葬葬

第三十八圖

多黃金其下多青雄黃多扶竹扶竹也青節實中  
 又東七十里曰丙山多篁竹多黃金銅鐵無木  
 又東南五十里曰風伯之山其上多金玉其下多瘞  
 石文石瘞音酸多鐵其木多柳柰檀楮其東有林焉  
 名曰華浮之林多美木鳥獸  
 又東一百五十里曰夫夫之山其上多黃金其下多  
 青雄黃其木多桑楮其草多竹雞鼓神于兒居之其  
 狀人身而身操兩蛇常遊于江淵出入有光

第三十八圖

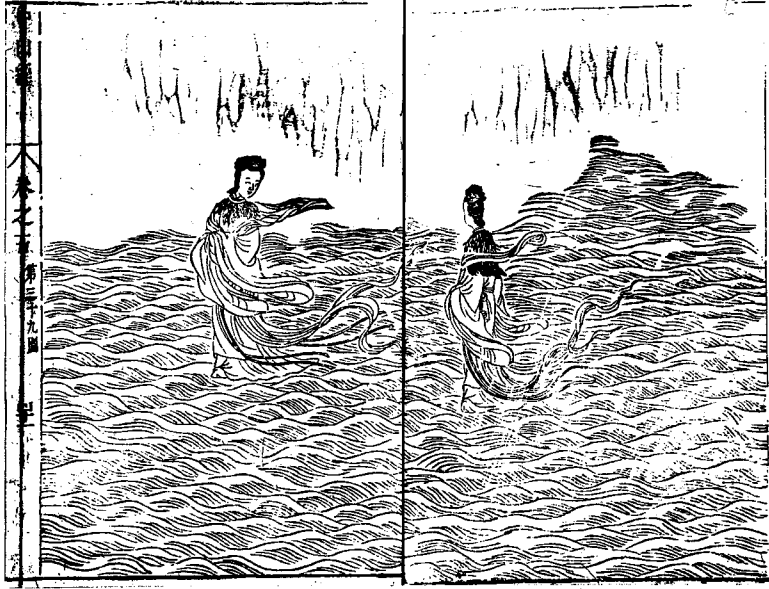
又東南一百二十里曰洞庭之山今長沙已隸湖南  
 其下多銀鐵其木多粗梨楮櫟其草多葦蘼蕪芍藥  
 芎藭蕪似蛇帝之二女居之天帝之二女而處江  
 二女也離騷九歌所謂湘夫人稱帝子者是也而江  
 圖玉版曰湘夫人者帝堯女也泰始皇浮江至湖山  
 逢大風而問博士湘君何神博士曰聞之堯二女舜  
 妃也死而葬此列女傳曰二女死於江湘之間俗謂  
 為湘君則司農亦以舜妃為湘君說者皆以舜陟方  
 而死二妃從之俱溺死於湘江遂號為湘夫人按九  
 歌湘君湘夫人自是二神江湘之有夫人猶河洛之  
 有靈妃也此之為靈與天地並矣安得謂之堯女且  
 死葬於此二妃不從明二妃生不從死死不從葬葬

中山經

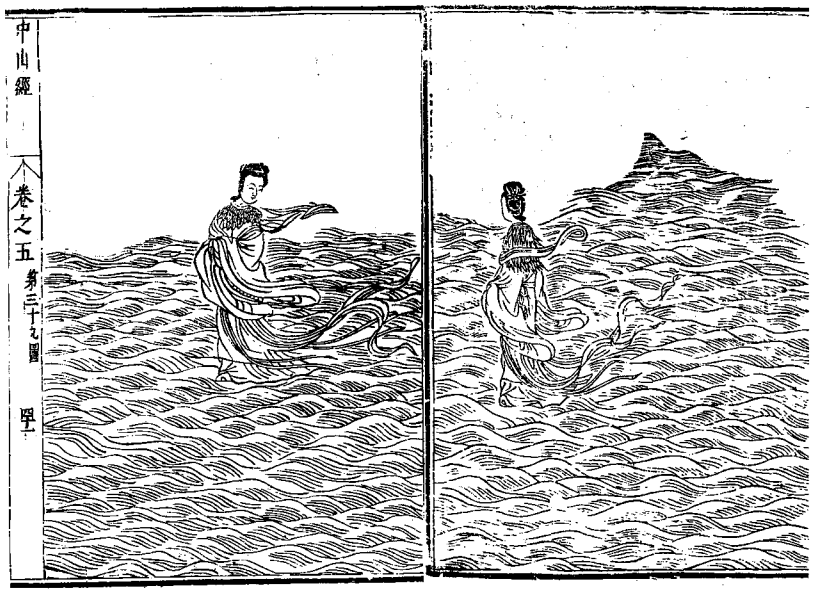
卷之五

四十





484 帝一衣



可知矣。卽今從之。二女靈芝。舉過無方。尚能以鳥工  
龍靈。我井康之難。豈嘗不能自免於風波。而有雙清  
之惠乎。假復如此。傳曰。生為正公。死為黃鸞。五嶽  
比三公。四嶽。比諸侯。今湘川。不及四嶽。而於水而  
而二女帝者。之后。配靈神。祇無綠靈。靈下。降。小水而  
為夫人也。參互其義。義既混錯。錯其無可。無可。是  
實相亂。莫矯其失。習非勝是。終古不。不。可。是  
常遊于江淵。澹沅之風。交瀟湘之淵。此言二女遊戲  
數三江。令風波之氣。共相交通。言其靈警之意也。江  
湘沅水。皆共會。巴陵。頭。故號為三江之口。澹。又去之  
七。八十里。而入江。焉。淮南子曰。弋。是在九江之間。里  
釣瀟湘。今所在未詳也。瀟音肖。  
志。九江。今在潯陽。南江自潯陽。而分為。出入。必以飄  
九。昔。東會于大江。書曰。九江孔殷。是也。  
風暴雨。是多怪神。狀如人。而載蛇。左右手。操蛇。多怪

又東南一百八十里曰暴山其木多櫻柗荆芭竹箭  
籊籊節亦篠類也 箭見禹貢 其上多黃金玉其下多文石鐵其  
獸多麋鹿麇就 就聘也 見廣雅

又東南二百里曰卽公之山其上多黃金其下多璵  
瑤之玉其木多柳柶檀桑有獸焉其狀如龜而白身  
赤首名曰蛭 音 蛭說 可以禦火

又東南一百五十九里曰堯山其陰多黃堊其陽多  
黃金其木多荆萬柳檀其草多諸藟來

卷之五

可知矣。卽今從之。二女靈芝。舉過無方。尚能以鳥工  
龍靈。我井康之難。豈嘗不能自免於風波。而有雙清  
之惠乎。假復如此。傳曰。生為正公。死為黃鸞。五嶽  
比三公。四嶽。比諸侯。今湘川。不及四嶽。而於水而  
而二女帝者。之后。配靈神。祇無綠靈。靈下。降。小水而  
為夫人也。參互其義。義既混錯。錯其無可。無可。是  
實相亂。莫矯其失。習非勝是。終古不。不。可。是  
常遊于江淵。澹沅之風。交瀟湘之淵。此言二女遊戲  
數三江。令風波之氣。共相交通。言其靈警之意也。江  
湘沅水。皆共會。巴陵。頭。故號為三江之口。澹。又去之  
七。八十里。而入江。焉。淮南子曰。弋。是在九江之間。里  
釣瀟湘。今所在未詳也。瀟音肖。  
志。九江。今在潯陽。南江自潯陽。而分為。出入。必以飄  
九。昔。東會于大江。書曰。九江孔殷。是也。  
風暴雨。是多怪神。狀如人。而載蛇。左右手。操蛇。多怪

又東南一百八十里曰暴山其木多櫻柗荆芭竹箭  
籊籊節亦篠類也 箭見禹貢 其上多黃金玉其下多文石鐵其  
獸多麋鹿麇就 就聘也 見廣雅

又東南二百里曰卽公之山其上多黃金其下多璵  
瑤之玉其木多柳柶檀桑有獸焉其狀如龜而白身  
赤首名曰蛭 音 蛭說 可以禦火

又東南一百五十九里曰堯山其陰多黃堊其陽多  
黃金其木多荆萬柳檀其草多諸藟來

中山經 卷之五 四三

又東南一百里曰江浮之山其上多銀砥礪無草木

其獸多豕鹿

又東二百里曰真陵之山其上多黃金其下多玉其

木多級柞柳柎其草多榮草

又東南一百二十里曰陽帝之山多美劍其木多檀

柎乘也其獸多麋麇

又南九十里曰榮桑之山今在齊陽榮桑縣其上多

銀其下多碧多冷石精其木多柳芭楮桑其獸多麋

鹿多百蛇飛蛇即騰蛇乘

又東二百三十里曰榮余之山其上多銅其下多金

其木多柳芭其蟲多怪蛇怪蟲

凡洞庭山之首自篇遇之山至于榮余之山凡十五

山二千八百里其神狀皆鳥身而龍首其祠毛用一

雄雞一牝豚創亦割刺之名音雞楮用徐凡夫夫之山即公

之山堯山陽帝之山皆冢也其祠皆肆瘞肆陳之也陳牲玉五

後理 祔用酒毛用少牢嬰毛一吉玉洞庭榮余山神

也其祠皆肆瘞祔酒太牢祠嬰用圭璧十五五彩魚

之惠猶飾也方言也

中山經 卷之五

又東南一百里曰江浮之山其上多銀砥礪無草木

其獸多豕鹿

又東二百里曰真陵之山其上多黃金其下多玉其

木多級柞柳柎其草多榮草

又東南一百二十里曰陽帝之山多美劍其木多檀

柎乘也其獸多麋麇

又南九十里曰榮桑之山今在齊陽榮桑縣其上多

銀其下多碧多冷石精其木多柳芭楮桑其獸多麋

鹿多百蛇飛蛇即騰蛇乘

又東二百三十里曰榮余之山其上多銅其下多金

其木多柳芭其蟲多怪蛇怪蟲

凡洞庭山之首自篇遇之山至于榮余之山凡十五

山二千八百里其神狀皆鳥身而龍首其祠毛用一

雄雞一牝豚創亦割刺之名音雞楮用徐凡夫夫之山即公

之山堯山陽帝之山皆冢也其祠皆肆瘞肆陳之也陳牲玉五

後理 祔用酒毛用少牢嬰毛一吉玉洞庭榮余山神

也其祠皆肆瘞祔酒太牢祠嬰用圭璧十五五彩魚

之惠猶飾也方言也

中山經 卷之五

右中經之山志大凡百九十七山二萬一千三百七十一里大凡天下名山五千三百七十居地大凡六萬四千五百六十六里

禹曰天下名山經五千三百七十山六萬四千五百六里居地也言其五藏蓋其餘小山甚衆不足記云天地之東西二萬八千里南北二萬六千里出水之山者八千里受水者八千里出銅之山四百六十七出鐵之山三千六百九十此天地之所分壤樹穀也戎矛之所發也刀鋸之所起也能者有餘拙者不足封於太山禪於梁父七十二家得失之數皆在此

是謂國用管子地數云封禪之五七十二家也

右五藏山經五篇大凡一萬五千五百三字



石中經之山志大凡百九十七山二萬一千三百七十一里大凡天下名山五千三百七十居地大凡六萬四千五百六十六里

禹曰天下名山經五千三百七十山六萬四千五百六里居地也言其五藏蓋其餘小山甚衆不足記云天地之東西二萬八千里南北二萬六千里出水之山者八千里受水者八千里出銅之山四百六十七出鐵之山三千六百九十此天地之所分壤樹穀也戎矛之所發也刀鋸之所起也能者有餘拙者不足封於太山禪於梁父七十二家得失之數皆在此

是謂國用管子地數云封禪之五七十二家也

右五藏山經五篇大凡一萬五千五百三字

中山經

八卷之五

第三十九圖